

昭和四十一年三月刊

史料館所藏史料目錄

第十二集

史
料
館

史料館所藏史料目錄

第十二集

凡 例

- 一 本目録は史料館所蔵史料目録第十二集として、陸奥国弘前津軽家文書を収めた。
- 一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・体裁・数量等に応じ、暫定的な項目を建てて分類排列し、大小ゴシック活字及び○印を用いてこれを表示した。この際、内容が多岐にわたり他の項目中にも掲げるを妥当と考えたものは*印を付して重出した。
- 一 目録の記載欄は(一)表題 (二)作成者又は宛名 (三)作成年次 (四)形態 (五)数量 (六)整理番号の順序である。
- 一 表題は原名あるもの、または白紙に表書のあるものはこれを探り、その無いものは仮に命名して掲げた。この場合(一)括弧を付して前者と區別した。
- 一 原表題に国郡村名・干支年月日等の肩書ある場合は適宜これを省略し、また同一内容の史料で表題に多少の異同ある場合は、代表的表題に統一した。
- 一 作成者または宛名は表題から推知しうるものはこれを省略した。
- 一 作成年代は年のみにとどめ、干支・月日は省略し、また同一内容の史料で、三年以上にわたるものは、始年と終年とを明らかにし、中間は——によつて継続を示したものもある。また推定年代には()括弧を付し、無年号のものうち、干支の判明するものは、干支年を付しその外は略した。
- 一 史料の形態は、簿冊類では横(横帳)、横長(横長帳)、美(美濃判)、半(半紙判)、半半(半紙半截判)などの略称によつて原書の大きさの大概を示すに止め、また一紙書附(継目の有無を問わず)は通を以て数量を示し、紙形の大小・寸法は省略した。ただし、絵図及び折本類は縦横の寸法を、また卷子本は縦の寸法をセンチメートル単位で表示した。
- 一 最下欄の数字は各文書ごとの整理番号を示す。本史料の照会・閲覧・引用の場合に利用されたい。
- 一 巻尾に解題を添えた。
- 一 本文書目録の作成は、主として浅井潤子が担当した。

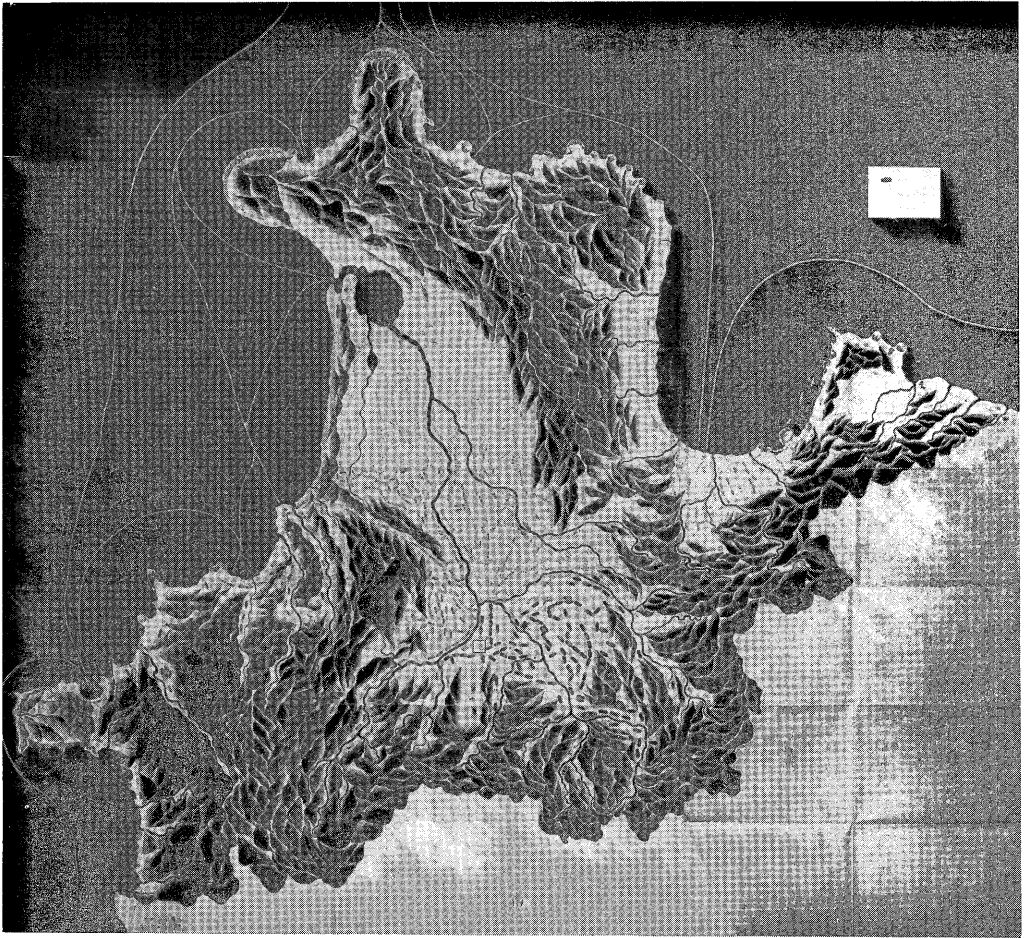
目次

凡例

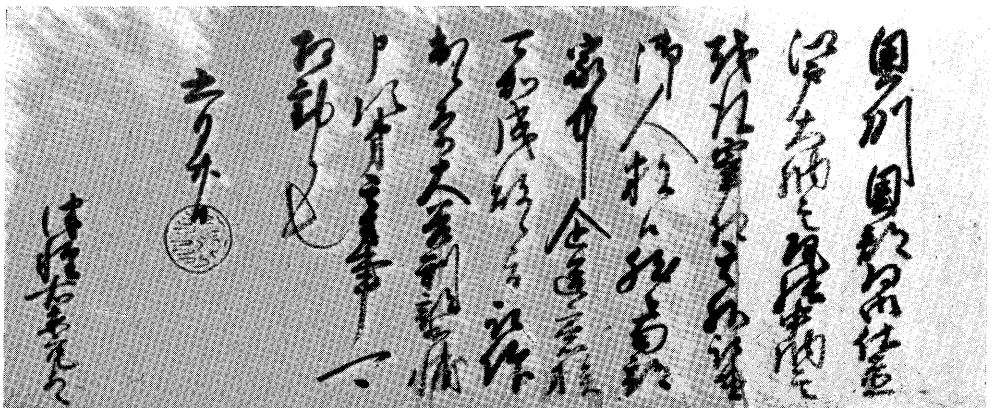
口絵

陸奥国弘前津軽家文書目録

津軽家文書解題



津 軽 総 図 <2179>



豊 臣 秀 吉 朱 印 状 <3058>

陸奥国弘前津輕家文書目錄

津 輕 家 文 書 目 録 目 次

領 知	一頁	規 式	四	勤 役	元
朱印狀・領知目録	一	禁裏、公儀、藩主		御代替	元
朱印狀・領知目録、所替一件、高直、御朱印改		賞 罰	七	誓詞	
郷村高帳	二	逼塞		参 勤	元
村 付	二	献上・拝領	七	御暇、滞府願、仮養子、道中割	
道 法	三	禁裏、公儀、御礼、拝領		登 城	三
領内図	三	御内書	九	勤 番	三
藩 侯	四	歴代書狀	〇	京都警衛、南御門番、神田橋御門番、浅草・本所御蔵番	
系 譜	四	諸家書狀	〇	御手伝普請	三
藩祖系譜、歴代系譜、宗・親族、系図改		近衛家、醍醐家、その他		甲州川々、上野	
歴代年譜	八	御日記	三	朝鮮人来朝	三
年譜、日譜、略伝、事蹟録		要用留		参 詣	三
名 書	九	交 際	三	日光、上野供奉	
家 督	〇	城 郭	三	御 預 人	三
相続、隠居		城普請		栗原泰芸、柳川豊前、梶川左門	
官 位	〇	屋 敷	三	蝦夷地警衛	三
口宣案・位記、昇進		江戸、戸越屋敷拝領、国元		騷擾、露人渡来、仕置、松前入用	
吉凶・仏事	三	上屋敷、中屋敷、下屋敷、国元、富田、敦賀他		勤番所、蝦夷図、陣屋図、勤番所	
祝儀、疾病、葬祭		社会事業	六	図、場所図	〇
		雑	六	法 制	〇

幕法……………三〇
 藩法……………三〇
 職制……………三〇
 藩政……………三〇
 藩史……………三〇
 津輕藩史、弘前藩史
 藩政一般……………三〇
 藩政一般、巡見
 南部一件……………三〇
 南部探索、風聞書、所替風聞書、
 相馬大作召捕
 戊辰戦争……………三〇
 藩情、出兵、戦況、鎮撫使、奥羽
 同盟、探索書、箱館戦争
 戸口……………三〇
 人数改、馬改
 藩校……………三〇
 雑……………三〇
 藩財政……………三〇
 収支……………三〇
 納私、有金調
 貸借……………三〇
 公儀拝借金、借財、貸付金、調達
 金……………三〇

御小納戸……………三〇
 有金調、除金調、収支
 救恤……………三〇
 夫食・御田米・貯米調
 貢租……………三〇
 収納、諸役、津出、廻米、上ヶ地
 新田開発……………三〇
 開発反別調、開発願・申渡書、見
 分、用水、入用、収納、新田村、
 新開闢
 産業……………三〇
 農業、林業、鉱業、国産
 軍事……………三〇
 軍役……………三〇
 軍役帳、武器帳
 備立……………三〇
 相驗帳、備立、文武奨励、海防
 武学……………三〇
 兵法……………三〇
 山鹿流、一刀流、築城、兵法覚書
 兵書……………三〇
 兵書、武教全書
 武器……………三〇

甲冑、鎧、銃砲、馬具、鐘、雜
 劍術……………三〇
 弓術……………三〇
 馬術……………三〇
 近授流、神当流、その他
 砲術……………三〇
 古戰場図……………三〇
 藩士……………三〇
 知行……………三〇
 黒印状・判物、知行書出、給与、
 士族帰農、分限、系譜、相統、勤
 仕、規式、葬祭
 寺社……………三〇
 寺社一般……………三〇
 寺社領……………三〇
 革秀寺……………三〇
 寺領……………三〇
 百沢寺（岩木山）……………三〇
 妙見宮……………三〇
 建立……………三〇
 津梁院……………三〇
 御霊殿……………三〇
 作事……………三〇
 東照宮……………三〇

作事	高野山	六
	寄進状、常福寺	
	東叡山	六
	諸神社	六
	長勝寺、橋雲寺、高照神社、その他	
学	芸	七
	学問	七
	儒学、神道他、史書、詩文	
茶	道	九
	道安流	
香	道	九
	薰物製法	
歌	道	〇
	詠歌、歌会、歌集、歌書、撰集	
書	道	九
	遊	
	芸	九
	放鷹	九
	養鷹	
	犬追物	九
	蹴鞠	九
	免許状	
狩	獵	三
	熊狩	

能	樂	九
雜		九
地	誌	九
繪	図	九
	日本絵図、その他	
雜		三

津輕家文書目錄

(文書記号 22B)

領知

朱印狀・領知目錄

文恭院様 (家齊) 御朱印狀	写共	津輕土佐守宛	二通	七〇六
天明八				七〇七
領知目錄	写共	天明八	三通	七〇八
慎徳院様 (家慶) 御判物	写共	弘前侍從宛	四通	七〇九
天保一〇				七一〇
領知目錄	写共	津輕越中守宛	三通	七一一
温恭院様 (家定) 御判物	写共	弘前侍從宛	五通	七一二
安政二				七一三
領知目錄	写共	津輕土佐守宛	五通	七一四
昭徳院様 (家茂) 御判物	写共	津輕土佐守宛	三通	七一五
安政七				七一六
領知目錄	写共	安政七	三通	七一七
				七一八
				七一九
				七二〇
(御朱印・領知御目錄覽目錄)			一通	九〇九
御朱印并御領知御目錄入記	天明四	横長半	一冊	九一〇
手目錄 (寛文四々天保十年迄御朱印目錄)			一通	九一〇
嘉永七				
御朱印并御領知御目錄入記	明治一	横長美	一冊	九一六
所替 一件				
津輕信牧 白取頼兵衛・服部長門宛替ニ付心得申渡狀 (元和五)			一通	三三三
(福島左衛門大夫津輕転封記録写) (元和五)			一通	三三三
(所替之儀ニ付津輕土佐守内存口上之覚) 卯年 (正徳元々)			一通	三三三
文昭院様 (家宣) 御朱印狀	写共	津越土佐守宛	六通	六〇〇
正徳二				六〇一
領知目錄	写共	正徳二	二通	六〇二
有徳院様 (吉宗) 御朱印狀	写共	津輕土佐守宛	六通	六〇三
享保二				六〇四
領知目錄	写共	享保二	三通	六〇五
惇信院様 (家重) 御朱印狀	写共	津輕岩松宛	六通	六〇六
延享二				六〇七
領知目錄	写共	延享二	五通	六〇八
波明院様 (家治) 御朱印狀	写共	津輕出羽守宛	五通	六〇九
宝曆一				六一〇
領知目錄	写共	宝曆一	四通	六一〇
				六一一
				六一二
				六一三
				六一四
				六一五
				六一六
				六一七
				六一八
				六一九
				六二〇
				六二一
				六二二
				六二三
				六二四
				六二五
				六二六
				六二七
				六二八
				六二九
				六三〇

〔原本紛失 コピ一参照〕

領知 朱印狀・領知目錄

(徳川家との由緒につき津輕土佐守御書付寛卯年(正徳元カ)

高 直

* (寧親公御高直并四品被為蒙仰候一件) 文化五 美

* (拾方石高直四品被仰付候節御供連書) 文化五

拾方石御高直之御領知御判物御願之儀ニ付問合書并右ニ付御書取 文化六

* 御書繼御願ニ付津輕監物持參之控 文化八

御朱印改

御朱印御改之節被指出候御書付之控 津輕土佐守 享保元

御領知御目録御願之儀ニ付津輕土佐守口上之寛付落合大右衛門口上寛 享保元

(一円之領知目録被成下候様土佐守願書) 享保二

津輕土佐守加藤佐次郎宛領分一円之儀ニ付自筆書状案(享保二)

加藤佐次郎津輕土佐守御直書請書(享保二)

(領知目録渡方之儀ニ付朽木民部少輔之御切紙) 津輕土佐守宛 享保一

(御判物御朱印御改ニ付寺社奉行本多中務大輔様江差出候書付) 付朱印改之節小札入

* (御朱印渡名代勤方ニ付口達寛) (宝曆年中) 御朱印之儀ニ付鳥居丹波守様被成御渡候御書付(天明七)

寺社領御朱印之儀ニ付鳥居丹波守様被成御渡候御書付(天明七)

* 御朱印頂戴之図式 体孝院(信明) 天明八

二通 一〇

二冊 一五三

一通 一五三

二通 一〇

二通 一〇

五通 一〇

五通 一〇

一通 一〇

一通 一〇

一通 一〇

一通 一〇

一通 一〇

一通 一〇

一通 一〇

一枚 一〇

御判物御朱印御改之節之略図 於松平右京亮様御宅 安政六

御改濟之節領知目録御直御返却之略図 於松平右京亮様御宅 安政六

鄉村高帳

陸奥国津輕郡鄉村帳 貞享元

陸奥国津輕郡鄉村帳写 貞享元(明治三四写)

陸奥国津輕郡村々水帳写 貞享四(明治三四写)

陸奥国津輕鄉村高辻帳 (寛保)

陸奥国津輕鄉村高辻帳 (天明)

陸奥国津輕郡之内鄉村高帳 弘前藩(明治)

陸奥国津輕郡之内鄉村高帳 明治三

御郡中高寄帳 乾・坤

(郡内古田新田高書分寛) 寛政一〇

* 津輕伊織上知奥州津輕郡之内小屋敷村・飛内村・馬場尻村・下目内沢村高帳 元禄三

鄉村位付 天明五

御郡中村名書上帳 文化一〇

同名村数調

一鋪 九〇

一枚 九〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一冊 一〇

一通 一〇

道 法

- 御領内道程帳 元禄七 三冊 三三
- 御国中道程之図 元禄七 二三卷 三三
- 1 大手町境御門の碓関峠御境迄
- 2 八幡館村領碓関海道追分の黒石通浪岡村御札所迄
- 3 東御門町境の新城村通油川村御札所迄
- 4 油川村御札所の土屋御境迄
- 5 土屋御境の黒石御領二本また御境川迄
- 6 油川村御札所の三馬屋村御札所迄
- 7 和徳町追分の沖浦村湯元迄
- 8 浪岡村追分の大豆坂通青森堤町追分迄
- 9 藤崎村追分の川辺村通境松村御境迄
- 10 大手町境御門の大間越御境迄
- 11 石渡村追分の広須海道長浜村追分迄
- 12 浮田村追分の小泊海道追分迄
- 13 深浦浜町追分の鱸作通岩崎村追分迄
- 14 弘前新町追分の砂子瀬村迄
- 15 五代村追分の松代迄
- 16 銀村追分の飯詰村通小泊村御札所迄
- 17 葛野村領追分の俵升村通持籠沢村追分迄

美 三冊 三三
二三卷 三三

- 18 藤崎村追分の柏木村通飯詰村追分迄
- 19 藤崎村追分の板屋野木村通藻川村領まで川迄
- 20 板屋野木村追分の胡桃館村通鶴田村追分迄
- 21 大手町境御門の茂森町通湯口村道相間村迄
- 22 大手町境御門の鍛冶町通小沢通久渡寺鳥居迄
- 23 大手町境御門の新土手町大和沢道通壹渡村領御番所迄
- 道程絵図并目錄帳覚 元禄一〇 横長美 一冊 三三
- 御道書明細 横美半 二冊 一六
- 野帳 (津軽領境界実地調査) 七綴 一六三
- 道付 一一〇四番 八九枚 三六

領 内 図

- 津軽総図 180×193 一鋪 三六
- 津軽領内絵図写 文政九 160×168 一鋪 一〇九
- 御国絵図写 (切図) 天保八 65×221 八枚 三六
- 津軽郡外浜通二十二ヶ村之図 106×104 一鋪 一〇〇
- 津軽領平内村と南部領馬門村山論御裁許御裏印絵図 写共 正徳四 121×264 二鋪 三三
- (南部領境図) 91×70 一枚 三三
- 陸奥国弘前城絵図 (御城廻り御修補ニ付御伺之絵図) 享保一四 82×90 一枚 三三

陸奥国弘前城絵図 (石垣御修補伺之図) 控共
享保一七

83×120 二枚 三五

一厘一間 弘前分間図 寛政二二
六歩二丁

80×82 一枚 一〇三

常盤坂分間図式 文化七

168×168 一鋪 一〇五

弘前絵図

90×88 一枚 一〇四

*亀ヶ岡古館・御茶屋図 宝永五

41×88 一枚 一〇一

*館岡村古館之図

81×55 一枚 一〇五

藩 侯

系 譜

藩 祖 系 譜

信牧公迄有之御系図写

二通 四〇

(津軽先祖系図)

31 一卷 一〇九

(藤原系図)

一通 一〇七

藤氏系図

37 一通 一〇八

当家家系図草案 (藤氏系図)

36 二卷 一〇六

津軽家之系図 新写共 前久筆

35 二卷 一〇六

御系図目錄

一通 一〇七

御系図写

一卷 一〇四

校正津軽前代系図 (明治一七)

美 二冊 三五

校正津軽前代系図 (明治一七)

美大 一冊 三五

津軽古系譜類聚 (文化九)

半 一冊 三五

津軽古記鈔・津軽系図類

半 合一冊 三五

妙心院様御代被遊御正候古代御系譜書上之
内抜取候写

小太膳記抄

系譜御尋御答書 津軽越中守

前代御系譜

津軽系譜

系譜

美 一冊 三五

津軽御先記祖 高屋豊前守 寛文五

31 一卷 三六

中村宗左衛門宛信牧公外御先祖御書類留写

延宝三

一通 三六

贈大僧正養源院可足筆記 延宝元

美大 一冊 四三

可足権僧正筆記之写

半 一冊 三

(可足記写)

半 一冊 四四

(津軽家系図)

半 一冊 四四

津軽屋形様御先祖ヨリ之覚

29 一卷 二四

殿様御重代由来之覚

24 一卷 三六

津軽御先祖之次第

27 一卷 三六

津軽御先祖之次第

31 一卷 一〇九

長勝隆栄様御来由

31 一卷 一〇九

津輕御先祖之事

前史

津輕歷代前記類

津輕藩祖略記 兼松成言編 明治九

津輕藩祖略記 兼松成言編 明治九

聞老遺事

藤田雜集 卷一—三 藤田貞元 明治九

奥南盛風記抄録

歷代系譜

系図

系図 津輕越中守順承 弘化三

系図 控 弘化三

系図 津輕越中守承昭 慶応元

津輕系図 控 修史館宛 明治一七

津輕系図 控 明治一七

津輕系図 (明治一八)

系譜 卷一—一四 小沢利喬編 (寛延四)

系譜 控 津輕土佐守 (寛政二)

系譜 津輕土佐守 寛政二

系譜 津輕土佐守 寛政二

一通 二五〇

美 一冊 三三

半 一冊 二

四六 板一冊 七五

半 板一冊 四

半 二冊 四

半 三冊 四

半 一冊 一

美 一冊 四

美 一冊 三〇

美 二冊 三〇

美 一冊 三五

美 二冊 三五

美 四冊 三六

美 一冊 三六

美 一四冊 三六

美 一冊 三三

半 一冊 三三

美 一冊 三三

系引之御系譜 津輕土佐守 (寛政二)

系譜 津輕土佐守 (寛政二)

公義江被差出候御系譜之写 文化九

(津輕家系譜) 控

御書統之写

御系譜書替 本写之写 文政一〇

御系譜御書替 新写之写 文政一〇

御家系

御系図御用留 (為信一信寧)

宗・親族

〇分 家

津輕左京一類書 松平縫殿頭宛 天和元

津輕采女一類書 柴田和泉守宛 貞享元

津輕采女遠親類書 酒井能登守宛 貞享四

(津輕采女親類書) 内藤上野介宛 元禄三

津輕采女遠類書 内藤上野介宛 元禄三

(津輕采女親類書ニ付須藤五郎太夫より 津輕將監宛書狀)

津輕和三郎親類書 松平伊賀守他宛 安永七

御分家御統書付 寛政四

弘化度以来先代出雲守勤中々之系図書繼

津輕式部少輔承叙 慶応元

美 合一冊 三五

美 合一冊 三五

美 一冊 三六

美 一冊 四六

二通 三三

一通 三三

二通 三三

美 一冊 三三

美 八冊 三〇

一通 三六

一通 三六

一通 三六

一通 三六

一通 三六

一通 三六

一通 三六

一通 三六

二通 三六

美 一冊 三三

(津輕和泉守順承系譜取調下書)

津輕土佐守子共之覚 (天和—元禄)	横長美	一冊	四四
津輕故越中守子之覚	横長美	一冊	四三
妙心院様 (信政) 御由緒帳 明和四	美大	一冊	四六
女主人院様 (信寿) 御由緒書 明和四	美大	一冊	四七
寛五郎様御統越中守様御実方ニ而御統	横美半	一通	四三
御親族方略御系譜 一一十 (為信—寧親) (寛政)	美大	六冊	四九
御家門家格御取直被仰渡 控共 文化一四	美大	二冊	三九
御家門家格御取定沙汰御窺書	美大	一通	二五
御家門系譜 控共 文化一四	美大	三冊	三〇
御家門系譜 付家中法度 (文化一四)	半	一冊	四二
御親族方御系譜	美大	一冊	三七
御帳目錄 元禄四		一通	四一
津輕越中守家中親類改帳 元禄四	美大	一七冊	四四
津輕越中守実母親類改帳 元禄四	美大	八冊	四五
御帳目錄 元禄四	美	一通	四二
津輕出羽守親類家中改帳 元禄四	横長美大	六冊	四三
御家中御由緒之覚 元禄六	横長美大	一冊	三七
御略譜 明治一五	17×20	刊一冊	四〇

*広橋 両家之御系図 (寛政四)

甘露寺

近衛家代々御称号留

英磨様御養子一件ニ付近衛様御返書 明治一〇

公儀御統柄認メ書付

千年山御略伝 寛政元—文政

麟跡御異伝 文化元

津輕藩諸家家記集

系 図 改

○寛永度他

(寛永拾八年系図御改之御自信尹様御自筆御書之写)

寛永拾八年御系図御穿鑿之御近衛様御添状写

御系図一件 (延宝八—宝曆五)

家系一卷ニ付近衛様ノ口状 津輕越中守宛 貞享三

(從公儀諸家之氏系図御尋ニ付近衛修理宛筋目伺書)

御系図之儀ニ付近衛修理より津輕土佐守宛返答御書付

御系図加筆之義ニ付今大路出羽守宛津輕越中守書状

近衛右府様江御染筆御願ニ付系図下書 享保二

系図新写ニ付近衛基熙ノ津輕越中守宛御書

二冊	五五
二冊	四五
二通	三五
一通	四四
一冊	二四
一冊	四三
一冊	九
一通	四三
一通	三四
一冊	三六
一通	三五
一通	四九
一通	四六
一通	四三
四通	三〇元
四通	三〇元

(越中守御系図外題御拝領為御札一件二付
今大路出羽守 津輕支蕃宛書狀)

二通 四〇

近衛殿江口上之覚 付音物覚書 支圭 (宝曆一三九)

二通 三五

御系図為御登被遊候節右御使者大道寺隼人殿
御勤方覚帳 宝曆八

半 一冊 三六

○寛政度

御系図御用一件 寛政四

美 一冊 三〇

津輕出羽守様江恭宮御方御返答書 (御系図統書書
出一件答書御染筆被成候御札) (寛政四)

三通 三二

津輕出羽守様江近衛殿御返答 (御系図統書一件
御染筆進候御札) (寛政四)

四通 三三

(津輕帶刀京都にて近衛閑白様御染筆一件差出書)
寛政四写

二通 三四

御系譜御上書控

一通 三五

信寧公・信明公御在世中御書付 (寛政四)

二通 三五

広橋 両家之御系図 (寛政四)

二通 三五

甘露寺 御当代 (寧親) 御書付 (寛政四)

一通 三六

御系図 御本紙 御鍵 (寛政四)
新御写

二通 三六

○文政度

御系図御登之節取調御登せニ相成候下書

一通 三〇

津輕土佐守信明 (文政八)

御系図御登之節取調御登せニ相成候下書

二通 三三

津輕出羽守寧親 (文政八)

御系図御登せ之節取調御登せニ相成候下書

一通 三三

津輕大隅守信順 (文政八)

(津輕越中守信順御系図統書) (文政八)

二通 四〇

近衛様江御系譜御書足ニ付笠原八郎兵衛上京之
節近衛様別段御染筆之写 津輕右京大夫・越中守
宛 文政八

三通 三六

御系譜御進物留 文政八

半 一冊 三六

(津輕家系譜書繼ニ付近衛忠熙公御染筆之写)
津輕右京大夫・越中守宛 (文政九)

繼一通 三九

○弘化度

御系譜之儀御触面并御差出迄之一件

美 一冊 三九

弘化二一嘉永二

御系譜御触面并御差出之一件 (弘化二一嘉永二)

半 一冊 三六

御系譜御触面并御差出迄之一件 元治元一慶応元

半 一冊 三五

(津輕藩祖ニ付近衛忠熙御染筆之写) 嘉永三

一通 三八

○系譜取調下書

(津輕右京大夫寧親系譜取調下書)

三通 三六

(越中守信明系譜取調下書)

一通 三三

(越中守信順系譜取調下書) (天保一〇)

三通 三六

(津輕出羽守信順系譜取調下書)

一通 三三

(津輕大隅守信順系譜取調下書)

二通 三三

(越中守承烈系譜取調下書)

一通 三三

(津輕寧親系譜覚書) 文政三一八

二通 三〇

(津輕信順系譜覚書) 文政七

一通 三五

(津輕信順系譜覚書)

一通 三五

(津輕順承系譜覚書)	一通	三五六
(津輕承昭系譜覚書)	二通	三五六 三五六
○国史編集ニ付差出書		
国史編輯ニ付藩翰譜・統藩翰譜ヲ以テ御下問ノ御答書写 明治六	一冊	三六一
津輕系譜ノ儀ニ付答書(秀衡兄弟一件) (明治)	四冊	三三三
津輕藩祖略記異同弁 明治八	一冊	三三七
津輕信政ノ儀ニ付上申 (明治)	一綴	三六六
頼時貞任之乱 (明治)	一冊	三六四
内藤耻叟翁に与へて徳川十五代史中津輕之条を論ずるの書	一冊	三七
御家系古代調書ニ付鈴木氏取調書類 明治一七	一綴	三六〇
(秘書取斗方之儀ニ付矢葺七左衛門上申書) 明治一二	一通	三三
*可足権僧正筆記之写 (明治)	一冊	三六九
*津輕家系図(藩祖系図) (明治)	四冊	三三
津輕系譜ノ儀ニ付藤田貞元答書 鈴木万年宛 (明治)	一冊	三六八
御当三家御系譜一説	半冊	三〇
藩翰譜写 目錄・卷十一・卷十九 (藩翰譜抜書)	美大	二〇冊 三六八
南部家藩翰譜補正 那珂某	半	一綴 三三
御書継御願ニ付津輕監物持參之控 文化八	二通	三〇

歴代年譜

年 譜	事 績 録
(為信公年譜) 上・下 (天文一九―慶長二二)	美大 二冊 六六
(信牧公年譜) (慶長二三―寛永一〇)	美大 一冊 七七
信政公御譚	美 一冊 三三
信政公御話記	半半 一冊 三三三
津輕為信家譜 付陸奥黒石津輕信英家譜 明治六	美 一冊 三六〇
日 譜	
津輕家紀 日譜 寛文元―五	美大 四冊 三五
弘前御城日譜 寛文元―九	美大 三冊 三〇六
江戸御城日記 津輕家紀の内 延宝八	美大 一冊 三〇七
江都見聞記 津輕家紀の内 寛文七―貞享三	美大 一三冊 三〇八
略 伝	
高照公伝編纂資料 付信政公御遺言草案 外崎寛 (元禄―宝永)	半 一冊 七〇
津輕信明公伝 (稿本)	半 一冊 三九七
津輕信明公 外崎寛 明治三〇	菊版 一冊 三三
順承公略伝 下稿	半 一冊 三六
御略伝追補(順承公) 下稿	半 一冊 三六
承昭公略伝 下稿 乾坤	半 二冊 三〇
承昭公史伝	美 四冊 三三
承昭公史伝 明治四二	菊版 一冊 六
津輕承昭公伝 飯田巽・斎藤璉・外崎寛 大正六	美菊 一冊 三

津輕歷代記類 一七七 (明応七—明治一四) 半 七册 一〇

*津輕藩旧記伝来 (明治一四) 半 九册 六

信政公御意聞伝集 享保二 美 一册 壹

明君夜話近土口伝集 宝曆四 美 一册 三三

津輕信政公二百年祭記念 外乃浜風 外崎寛編 菊版 刊一册 六

津輕孝公行実 古田猷可 寛政七 美 三册 三三

津輕孝公行実 古田猷可 寛政七 (天保五写) 美 一册 七

無超記 島田静 天保九 美 二册 四〇

名 書

名 書

妙心院 (信政) 御自筆磬麻呂様 (信興) 御名 元禄八 一通 三

勝千代様 (信著) へ被進候御名乗御控 一通 三

土佐守様 (信重) へ被進候御名目録 勝千代宛 享保四 一通 三

若殿様 (信興) へ被進候御名乗字 勝千代宛 享保二 一通 三

顯休院様 (信著) 御自筆戒香院様 (岩松) 御幼名 付御七夜御進物目録 元文四 二通 三

(松平大藏大輔様御頼二付岩松様御実名太宰弥右衛門進上一件) 信寧公御名乗書添 四通 三

信明様御名乗字 安永五 一通 三

雅之助様 (信順) 御七夜御名被進候御筆御目録 寛政二 一通 三

津輕雅之助殿実名 大学頭林衡 一通 三

資礼様御名 文化五 二通 三

林大学頭様江御名乗字御頼付向方様へ御考之上御認参候御名乗 文化六 二通 三

豊太郎様御名 文化六 一通 三

上田惣藏を以林家江御相談之御字之覚 文政八 一通 三

津輕武之助殿 (承祐) 御実名 佐藤坦 弘化四 一通 三

御名乗 (承祐) 弘化四 一通 三

御字号 (承祐) 一通 三

(承祐公御名乗出典) 一通 三

於久様御名 付臍緒・爪・産髪 文久三 一袋 三

可通三磨様御名 付臍緒・爪 明治二 一袋 三

次郎磨様御名 付臍緒・爪 明治三 一袋 三

御名書 (竹千代) 一通 三

護明様 (承昭) 御名 付鑓目録 一袋 三

豊重磨様御名 一通 三

浜町様へ被遣之御名 (和泉守) 一通 三

津輕出羽守改名願書 安永二・寛政九 二通 三

○花 押

津輕土佐守信義公直判之写 津輕信政写 寛文七 三通 三

(信政判形) 寛文八 一通 三

屋形様へ被進候御判形御目録 津輕信重 (信寿) より磬麻呂 (信興) 宛 宝永二 一通 三

御花押 (信順) 成瀬勝雄 一通 三

御花押 (承昭) 大中小 仙石芝水 天保四 三通 三

御花押(承昭) 九法之式并秘伝 仙石芝水 一通 八〇

○判 形

津軽信牧判形才彖替証文 添状共 寛永元 二通 一六九

信政之黒印三印 天和二 一通 一五二

信政印判(黒印) 天和二 一通 一五五

御印目錄(黒印) 二通 一五七

御印章押形写(承祐) 一通 一八〇

家 督

相 続

(家督相続ニ付後見依頼状) 一通 一三〇

家督相続ニ付重臣宛御直書 一通 一三一

家督相続後世嗣之義ニ付近衛忠熙ノ津軽大隅守宛書状 写共(天保一四) 二通 一三六

*家督御礼之節御贈物之儀伺書 天明四 二通 一四〇

*家督御礼之儀ニ付勤方御伺書 天明四 一通 一四〇

家督御礼之節年中献上物伺書 安政六 二通 一四三

○養 子 二通 一四三

津軽土佐守信明大病ニ付急駕養子進達願書 四通 一三七

下書共 寛政三 二通 一三五

*帰国御暇之節仮養子願 下書共 元文元—元治元 二通 一三七

○分 家 二通 一四三

津軽采女分家相続ニ付誓詞覚書 享保一七 一通 一三四

隠 居

喜多村監物儀遠慮御免隠居被仰候付一件御用状 延享三 一通 一五三

隠居御家督御願濟之節登城候様御奉書 津軽越中守宛 安政六 一通 一四六

*大殿様御隠居御札之節献上物之儀ニ付御伺書 安政六 三通 一五二

○剃 髪 三通 一五三

(寧親公御剃髪ニ付御使津梁院御書付) 天保四 四通 一五

新得度(舜詢) 天保四 一通 一四六

逆修法号(舜詢) 一通 一四六

御名(弘前侍從桃翁公) 一通 一四六

侍從様御改名御名(桃翁) 一通 一四三

御別号(盤竜) 一通 一四九

御別号(磐山) 一通 一四六

御館号(含章館) 一通 一四六

御名義(如海) 一通 一四三

官 位 一通 一四三

口宣案・位記 一通 一四三

(家光任右京亮口宣案) 写共 永享六 二通 一四三

(家信任右京亮口宣案) 写共 宝徳六 二通 一四四

(為信任右京太夫口宣案) 写共 慶長六 二通 一四三

(信枚叙從五位下任越中守口宣案) 写・控共 慶長六 六通 一四一

(信義叙從五位下任土佐守口宣案) 副書・写共 寛永一 四通 九〇五

(信政叙從五位下任越中守口宣案・位記・宣旨) 写共 万治元 六通 九〇六

口宣案・宣旨・位記目錄 津軫信政 寛文一三 一通 三三八

(信重叙從五位下任出羽守口宣案・位記・宣旨) 写 貞享元 三通 九〇六

(信著叙從五位下任出羽守口宣案・位記・宣旨) 写 享保一六 三通 九〇九

(任津輕出羽守口宣案上卿・職事名書) 享保一六 一通 九一〇

(信寧叙從五位下任土佐守口宣案・位記・宣旨) 写 宝曆三 三通 九一六

(任津輕土佐守口宣案上卿・職事名書) (宝曆三) 一通 九一七

(信明叙從五位下任出羽守口宣案・位記・宣旨) 写共 安永六 六通 九一七

(任津輕出羽守口宣案上卿・職事名書) 控共 一通 九一八

(寧親叙從四位下口宣案・位記) 文化五 一卷 九一九

(信順叙從五位下任大隅守口宣案・位記・宣旨) 文化一 三通 九二〇

(任津輕大隅守口宣案上卿・職事名書) 文化二 一通 九二一

(寧親任侍從口宣案・宣旨) 文政三 二通 九二二

(信順叙從四位下口宣案・位記) 写 文政七 一通 九二三

(任津輕大隅守口宣案上卿・職事名書) (文政七) 一通 九二四

(順承任侍從口宣案・宣旨) 嘉永三 二通 九二五

(任弘前侍從口宣案上卿・職事名書) (嘉永三) 一通 九二六

(承祐叙四位下口宣案・位記) 写共 安政元 二通 九二五

(承烈叙從五位下任土佐守口宣案・位記・宣旨) 安政四 三通 九二〇

(承烈叙從四位下口宣案・位記・宣旨) 写共 安政五 四卷 九二六

(任弘前侍從口宣案上卿・職事名書) (安政五) 二通 九二七

(承烈任侍從口宣案・宣旨) 写共 万延元 三通 九二八

(承烈任左近衛權少將口宣案・宣旨) 写共 元治一 四通 九二九

(宣旨・口宣案御渡ニ付松平越中守ノ差紙) 元治一 一通 九三〇

(弘前少將・津輕土佐守上卿・職事名書) 五通 九三〇

太政官符 (下總国) 写共 藤原信校宛 慶長六 二通 九三二

御給旨目錄 延宝六 一通 九三九

昇 進

(寧親公御高直并四品被為蒙仰候一件) 四冊之内卷 文化五一六 一冊 九四〇

(十萬石四品御進ニ付殿中向并御願御届向一件) 四冊之内式 文化五一六 一冊 九四一

口宣御頂戴并虎皮御鞍覆御茶弁当御持せ御願御供連一件 四冊之内三 文化五一六 一冊 九四二

(御高直御昇進ニ付御献上并御備物御賦一件) 四冊之内四 文化五一六 一冊 九四三

*昇進ニ付国元在町ノ冥加金上納覚 文政四 一通 九四四

津輕大隅守四品被仰付候ニ付席順之儀御伺書 文政七 一通 九四五

津輕越中守養子土佐四品被仰付御書付 安政五
承昭公少將御昇一件 付帝都御守衛中記録
元治元一慶応二
一冊 一三三
一冊 一三三
一冊 一三三
一冊 一三三

○官物目録

津輕大隅守藤原信順朝臣從四位下成御官物之事
写共 文政八
二通 一六四
三〇〇八

津輕大隅守藤原順承朝臣從四位下成御官物之事
弘化二
一通 三〇〇九

津輕越中守藤原順承朝臣侍從成御官物之事
嘉永四
一通 三〇〇七

津輕大隅守藤原承祐朝臣從四位下成御官物之事
安政二
一通 一四三

津輕土佐守藤原承烈朝臣從四位下成御官物之事
安政六
一通 一六六

津輕越中守藤原承烈朝臣侍從成御官物之事
万延二
一通 一六九

津輕越中守藤原承烈朝臣左近衛少將成御官物之事
慶応四
一通 一六九

御官位御礼之節献上御伺書 津輕岩松(信寧)
宝曆三
一通 一四六

侍從叙任御礼之節献上御伺書 津輕越中守(信順)
天保五
三通 一四七

四品叙任御礼之節献上御伺書 津輕土佐守(承昭)
安政五
一通 一四八

○官名書付

右京大夫寧親官名書付

越中守信順官名書付

大隅守順承官名書付(天保一三)

和泉守順承官名書付(万延元)

二通 一四四
一通 一四四
一通 一四四
一通 一四四

大隅守承祐官名書付(安政元)
越中守承烈官名書付(万延元)
一通 一四六
一通 一四六

吉凶・仏事

祝儀

津輕岩松御袖留御伺書 宝曆三
一通 一五七

御前髮被為執候付御窺書 津輕土佐守 宝曆四
一通 一三〇

若君様御弘マ為御祝儀能番組明細書 文政八
二通 一四〇

寛五郎様御具足御召初之節御用懸之面々名書
一通 一五一

○欽姫様(信順室)婚姻

欽姫様^江御結納之覺(文政四)
若殿様御結納之覺
横長美
一冊 一五二

田安様御結納之節被進物御品并御使口上書
美
一冊 一四九

御結納之節被進物御品
美
一冊 一四五

欽姫様御道具送行列
横長半
一冊 一五一

御惣容様御盃事御次第書
美
一冊 一四七

欽姫様御付女中人別名前
半
一冊 一四八

欽姫様御付女中人數御宛行調
半
二冊 一四九

欽姫様御引移御供名前
一通 一五二

欽姫様御付女中名前
一通 一五三

欽姫様御見送女中名前
一通 一五五

欽姫様御引移後御付女中惣人數
半
二冊 一五〇

中納言様并方々様御付女中名前
一通 一五三

田安様御召物并代料付

横長半 仮一冊 五〇四

見分罷越候人数

一通 五七

御姫様御縁組一件ニ付笠原八郎兵衛書状 文政四

一通 三〇〇

御側衆贈物一件ニ付笠原八郎兵衛書状 文政四

一通 三〇〇

欽姫様御進物返答ニ付笠原八郎兵衛書状 文政四

一通 三〇〇

田安様様御統書之写(弘化)

一冊 元

欽姫様御婚礼後年中献上物并被進物伺留

一冊 四六

欽姫様御献上物之御願書

一通 五六

欽姫様年中御献上 付年中女中江御贈物

一冊 四六

○ 鑠 姫 様 婚 姻

鑠姫様愛宕下江御引移後御付人数

半 一冊 五三

鑠姫様御引移ニ付御道具送行列

横長美 一冊 五〇

田安江參候節神田橋より御出逢之砌心得之覚

一通 一六〇

御対面并御饗心之次第 函画共 文化一一

一通 五九

田安様御家内御順 文化一一

一通 五八

田安江御越之節次第書 大奥江御通り之

一通 五七

田安役女初年中着服覚

一通 五〇

田安様 (右衛門督齊匡) 御統書

横長美 一冊 五五

公儀御精進之外右衛門督殿精進日

一通 五八

御両敬書付 寛政一一

半 一冊 四八

御婚姻之御礼可被申上旨御切紙 天明六

一通 一四〇

大隅守縁組之儀申来名前 付縁組願濟書付 文化一一

三通 一四三

(於幸様御縁組願濟御書付) 天明六

一通 一四〇

津輕越中守息女縁組儀ニ付中山備中守書状 文化六

一通 一四〇

板倉阿波守様江御縁女入輿以後ニ付先方々来書之写 文政九

一通 一四四

滿佐姫様板倉阿波守様江御縁組御願濟御書付 文政九

一通 一四五

茂登姫様岩城伊予様江御縁組願濟御書付 文政一一

一通 一四六

婚姻御内約御届書 津輕男鶴 明治一五

一通 一四八

縁組御届控(徳川家達室近衛泰) 津輕承昭より 宮内卿徳大寺実則宛 明治一五

一通 一五七

信君様御入輿ニ付西館孤清建言書

一通 一五八

雅姫君結納御祝儀ニ付近衛忠熙公弘前侍從宛書状 (信姫入輿之事ニ付近衛忠熙公弘前少将宛書状)

一通 一五九

○ 不 縁

御姫様溜池様御縁組一件ニ付瑠池院様江笠原八郎兵衛上申書 文政八

三通 一四三

安藤对馬守離縁ノ義ニ付阿部備中守書状

四通 一四八

○ 出 生

(津輕出羽守妾腹男子岩松・平三郎出生ニ付諸届書) 下書共(寛保元)

七通 一六四

津輕越中守妾腹男子松五郎嫡子届書 安永五

一通 一六五

津輕越中守妾腹男子雅之助嫡子届書 文化六

一通 一六六

妾腹男子又四郎・奥之亟届書 下書
一通 二二七
松平丹波守妾腹男子戸田從次郎・千勝届書
一通 二二八

疾 病

津輕吉之助判元見届当日之留書
一通 二二三

(病氣快癒祈願ニ付絵馬献上覚書) 津輕信寧
一通 二二五

津輕岩松殿扶持人医師西村友碩御尋之儀有之ニ付
出頭切紙 出頭届書共 寛延四
二通 二四九

右大将様袍瘡ニ付於山王御祈禱之儀御伺書
津輕越中守 文政三
一通 二四七

公方様御不例ニ付於山王御祈禱之御伺書
津輕越中守 慶応三
一通 二四六

(津輕越中守宛信寿の領主心得書控) 享保一五
一通 二二三

葬 祭

○法 事

御法事之覚 元禄六
一通 二四五

津輕代々戒名之次第
一通 二四五

東帯装束注文之覚 付殿有院様百回御忌御法事供奉
行列罷出候覚 (安永七)
半 一冊 二五〇

高岡百寿年大祭相濟候ニ付賞方覚 文化七
一通 二五九

光信公・盛信公・政信公・為則公・守信公御
法号 天保七
一通 二八九

平曲奉納御取消願 明治一八
半 一冊 二四五

御中陰御法事次第
一通 二六三

靈墓碑文 工藤主善
美 一冊 二七九

家臣并諸士戒名(明和七)
美 一冊 二〇九

○遺 物

有孝院様御遺物被下方一件 安政三
美 一冊 二〇七

政徳院様御遺物御内通り被進被下方覚
横長半 一冊 二〇九

政徳院様御付御残り品頂戴覚
横長半 一冊 二〇九

(政徳院様御上屋敷より相廻り候御品他覚書)
横長半 一冊 二〇八

仙桜院様覚
横長半 一冊 二〇六

彰信院様御殘品御付一統江被下方
横長半 一冊 二〇一

彰信院様御遺物被下方覚
横長半 一冊 二〇三

彰信院御殘御道具
横長半 一冊 二〇三

明光院様御残り品 文久元
横長半 一冊 二〇四

明光院様御遺物被進被下方覚 文久元
横長半 一冊 二〇五

殿様江御ゆつりの御品々入御持一さは
横長半 一冊 二〇七

規 式

禁 裏

勅使御馳走之節御饗応御能番組明細書 安永七
一通 二〇九

参向勅使御馳走手控 安永七
17×9 一帖 二〇六

年号改元之御式拜見之儀ニ付御書付 元治二
一通 二〇三

御即位大嘗祭絵巻解説 大正四
26×18 刊一冊 二〇三

近衛左大臣御参向ニ付御旅館迄名代使者差出度
旨伺 寛延一
一通 二〇三

近衛左大臣御参向ニ付御立寄之儀御伺書
文化二一

醍醐前左大臣御参向ニ付御旅館迄名代使者差
出度旨伺 寛延三

公儀

年中御儀式 第一—十二 津輕家紀江都見聞記の内
天和元—三

恒例御儀式 貞享二 津輕家紀江都見聞記の内

臨時御儀式 津輕家紀江都見聞記の内
延宝八—天和二

公边治平御大業 津輕家紀江都見聞記の内(貞享)

柳宮事略 文化一四

○宣下

將軍宣下御祝儀御能之節規式留書 安政五

將軍宣下御祝儀御能之節御料理頂戴席之図
安政五

將軍宣下御祝儀御能之節見物席之図

將軍宣下御祝儀御能之節御目見席之図 安政五

御白書院御礼之絵図 安政五

紅葉之間御料理席 安政五

○転任・兼任

御転任御作法書 宝曆一〇
御兼任

御転任御規式有之候付勤方覚 安永九

御能御作法書(祝義) (文化二三)

御能御作法書(馳走) (文化二三)

一通 一四五

一通 一五五

美大 五册 三〇九

美大 一册 三〇

美大 一册 三三

美大 一册 三三

横半半 板一册 二六六

19×8 一帖 一九三

28×41 一枚 一九三

28×41 一枚 一九四

28×41 一枚 一九五

24×36 一枚 一九六

28×41 一枚 一九七

9×17 一帖 五三〇

半半 一册 五七

9×17 一帖 五三

9×17 一帖 五三

於御本丸右大将様江御膳被進候次第(文化二三)
拜領物之次第(文化二三)

初日御能組明細書(文化二三)

○殿中勤方

(殿中勤方覚帳) (安永—天明)

体孝院(信明)様殿中御用勤方次第書 (天明七)

御朱印頂戴之図式 天明八

参勤御暇之御礼他殿中勤方覚書(享和—文化)

御法令被仰出小節御目見席付図

稲葉能登守殿手控写

公儀仮御玄関御絵図面 文化三

初而在所江御暇上使之節心得 文化六

嘉祥着座初而之式 文政五

御黒書院御暇御礼席(文政四)

御暇御礼次第(文政四)

御黒書院絵図(文政四)

御白書院絵図(文政四)

殿中絵図(文政四)

登城之節松平備前守咄候趣 文政五

紀伊中納言殿初而被逢候覚書

9×17 一帖 五三

17×7 一帖 五四

18×11 一帖 五五

横長半 二册 五九

三通 五四

45×31 一枚 五八

14×7 一帖 五四

22×44
22×25 一枚 五五

横美半 一册 五九

29×42 一枚 一一〇

16×7 一帖 五七

三通 五八

46×46 一枚 五九

17×8 一帖 五〇

40×28 一枚 五一

40×28 一枚 五二

74×100
36×42 一枚 五三

一通 五五

一通 一六五

御規式并遠御成之節御行列

立坊之御祝儀

殿居囊

御同席様御筆順

(御着城後藩侯御要務箇条建言覽)

(諸侯以下列名記) 断片

○足袋着用

朝鮮人登城之節裝束下足袋着用伺書 津輕出羽守 宝曆一四

足痛ニ付夏中足袋御伺并御付札 文化三十一安政五

増上寺御靈屋御予参之節御裝束下足袋着用伺書 天保一

年始御登城并両山御靈屋拜礼之節御裝束下 足袋着用伺書 文政一一・天保元・安政五

○鞍 覆

○鞍 覆

敵有院様御年忌御法事等拜礼之節虎皮御鞍覆 相用度儀ニ付願書 安永七

敵有院様百回忌御法事拜礼之節虎皮鞍覆相用 度儀再願書 安永八

虎皮御鞍覆常用之儀ニ付願書并先例書(文化五)

虎皮鞍覆之儀ニ付御出入御供連御小人目付 差上候書付 文化七

*笠原八郎兵衛御内密書(南部家虎皮鞍覆常用并 魯西亜船渡来一件) 文化一〇

○乗 物

○乗 物

津輕出羽守家老乗物并家来駕籠御赦免願書例書 津輕出羽守酒井左衛門尉宛 宝曆一一

横長半 一冊 一五七

横長半 一冊 一五三

半 一冊 一五三

15×9 折二冊 一五九

横長半 一冊 一五七

横長美 一冊 一五七

一冊 一五九

一冊 一五九

一冊 一五九

三冊 一五九

一冊 一五九

一冊 一五九

一冊 一五九

二冊 一五九

二冊 一五九

一冊 一五九

二冊 一五九

一冊 一五九

一通 一五九

津輕家々臣両名江乗物并駕籠差許御書付 津輕出羽守宛 宝曆一一

渡辺将監乘輿願之節起請文前書 御目付宛 文化一〇

津輕監物并乗物御赦免願書 下書共 御目付宛 文化一〇

津輕監物并渡辺将監乗物御赦免願書下書 宛名・名順書添 御目付宛

藩 主

(着城・御発駕他御祝儀記録) 元禄一三

職原抄覽書 湯浅律齊講 元禄一五一一一六

鑑盤之写 宝永四

遠慮伺差出申候部并日数之儀ニ付口達 (宝曆四)

嘉定御祝儀之節御登城ニ付伺書 付札添 寛政五

勤方書拔 寛政七

御年始勤方 寛政一一

(勤方留) 寛政一二

御代替之規式ニ付御伺書 文政七

(年中月並諸式)

正月二日御規式書

年中祝遣方覽

御自身様御仕法之覽

(御自身様御仕法之覽)

一綴 一五三

一綴 一五三

一綴 一五三

二綴 一五九

二綴 一五九

一綴 一五三

一七綴 一五九

一冊 一五七

一冊 一五七

二帖 一五九

一通 一五三

一冊 一五七

一冊 一五三

一通 一五九

一冊 一五九

一帖 一五九

一冊 一五九

一冊 一五九

一冊 一五九

(对客之儀ニ付細井佐次右衛門ノ津輕出羽守宛答書)

御休息御上段 成嶋千蔵 文化三

座法之書

(配膳法覚書)

御乗出并御叙爵之廉ニ而常宿寺へ御備之覚

拾万石高直四品被仰付候節御供連書 御付札濟

御家督之節御府内御供連書 天保一〇

○衣服

(束带式法覚書)

御用所着服調

(津輕松五郎鷹装束ニ付願書)

目透直垂着用之儀ニ付問合返答書 付直垂地見本

小直衣并被風着用覚 小直衣雛形并織本共

近衛様江御直垂并御狩衣之儀御問合ニ付返答書

○祝儀

若殿様御袖留御規式

若殿様御鎧御召初御規式

御具足召初略法

御年忘御料理差上方ニ付御請状 添状共 文化八

越中守嫡子持鎗之儀ニ付御聞置書付 嘉永五

(書札礼法覚書) 式法覚書の内

符案心得

符案并心得

新案

御書案 文久四

賞罰

○逼塞

津輕越中守逼塞被仰付控付心得方之覚伺書

文政一〇

(津輕右京大夫差控御免御書取) 文政一〇

御逼塞御免之節御用番水野出羽守御切紙并御書取

文政一〇

御差控御免ニ付暑中伺献上願 付紙添 文政一〇

御逼塞御免ニ付暑中御伺并御出仕之儀内意伺書

御書取共 文政一〇

三浦肥後守御預之節御統柄故可差控哉之旨御伺書

津輕岩松 寛延四

徳永可兵衛娘引取之儀ニ付伺書 津輕出羽守

一通 一五五

横長美 一綴 一五二

横美半 一冊 一五八

美大 一冊 一五九

美 一冊 一五九

半 一冊 一五九

一通 一六五

一通 一六六

一通 一六七

一通 一四三

一通 一六八

一通 一六三

一通 一六四

献上・拝領

禁 裏

御即位之節御献上物御振合 文化一四 横長半 飯一冊 一四六
 御転任御任槐ニ付禁裏江御進献物書付 文政五 一通 一四〇
 京都江御祝儀之御使相濟候為献上物ニ付披露濟御奉書 久世大和 万延一 一通 一四九
 朝廷江貢献品之儀御伺書 慶応二 一通 一四六

公 儀

將軍宣下為御祝儀御一類共御招ニ付不参届書 延享三 一通 一四六
 御代替并御移徒御隠居御祝儀之節献上物之儀ニ付御伺書 天保八 三通 一四〇
 御本丸御移徒為御祝儀献上物ニ付披露濟御奉書 万延元 一通 一四六

○法 事

有徳院様御霊前江御石灯笼献上被仰渡候御書付 津輕岩松宛 寛延四 一通 一四四
 殿有院様百回御忌御法事ニ付御香奠伺書 津輕越中守 安永八 一通 一四六
 東照宮二百五十回忌御法会相濟候為御祝儀献上物ニ付披露濟御奉書 本多美濃守他 慶応元 一通 一四三
 慎徳院様十三回忌御法事執行之節御香奠献備ニ付御奉書 慶応元 一通 一四六
 御神忌ニ付御献備之儀御伺書 慶応二 一通 一四五

○社 参

大納言様御宮参相濟御献上ニ付披露濟御奉書 文政二 一通 一四四
 大納言様御宮参相濟御献上物被遊候ニ付御奉書 文政二 一通 一四六

○四季 献上

年頭御大刀馬代就被献披露濟御奉書 松平和泉守他 津輕右京大夫宛 文政二 一通 一四六
 年頭為御祝儀御大刀御馬代献上候ニ付披露濟御奉書 本多美濃守 文久二 一通 一四〇

御暇後痛所ニ而発足御延引ニ付土用中献上物之儀御伺書 津輕土佐守 天明四 一通 一四六
 *御逼塞御免ニ付暑中御伺并御出仕之儀内意伺書 御書取共 文政一〇 一通 一四六

*御差控御免ニ付暑中伺献上願 付紙添 文政一〇 一通 一四三
 暑中為伺御機嫌兩御丸献上披露濟御奉書 文政二 二通 一四四
 暑中在府罷在候間御機嫌献上物之儀伺書 天保六 一通 一五〇
 暑中為御伺御機嫌献上物ニ付披露濟御奉書 本多美濃守 文久元 一通 一四六

寒中為御伺御機嫌献上物ニ付披露濟御奉書 松平豊前守 文久二 一通 一四四
 歳暮之御内書被成御渡候ニ付差越候旨御切紙 土井大炊頭 津輕越中守宛 文政三 一通 一四三

○鷹 献上
 鷹献上之儀ニ付江戸ノ之御用状書拔并寛 元文元 二通 一四五
 鷹献上之儀御伺書 天明六 一通 一四四
 御鷹献上之儀従例年数相減候ニ付御伺書 寛政元 一通 一四四
 御鷹献上之儀忌中ニ付御心得方御伺書 文政二 一通 一四四
 御鷹献上之儀渡海鷹不足ニ付御届書付 慶応二 一通 一四六

御駒献上ノ儀ニ付伺御書取 添状共 文政一〇
公儀江画掛物差出候一件日記書拔 津輕信明
天明五
御能之節檜重一組献上方御書付 文政一〇

御 札

〇家 督

家督御礼之儀ニ付勤方御伺書 津輕土佐守 天明四

家督御礼申上候節御贈物之儀伺書 天明四

家督就被仰付候年中献上物御伺書 天明四

家督御礼申上候節御贈物之儀伺書 安政六

家督就被仰付候年中献上物御伺書 津輕土佐守
安政六

〇

大殿様御隠居御礼之節献上物之儀ニ付御伺書
安政六

大殿様隠居仕候付年中献上物御伺書 安政六

〇婚 姻

婚姻御礼申上候節御献上物之儀伺書 津輕土佐守
天明六

御結納御祝儀別段御献上物之儀伺書 天明八

婚姻御礼申上候節御献上物之儀伺書 文政九

婚姻御礼申上候節欽姫様御献上物之儀願書
文政九

永姫君様御結納為御祝儀献上物ニ付老中御奉書
津輕右京大夫宛 文政一二

〇

二通 一四九

一通 三〇三

一通 一四一

一通 一四〇

四通 一四〇

一通 一四三

五通 一四三

一通 一四三

二通 一四一

一通 一四一

一通 一四四

一通 一四七

二通 一四七

二通 一四七

二通 一四七

二通 一四七

御台様御安産献上物忌中ニ付忌中明献上之儀伺書
寛政八
矢之倉御屋敷相對替願濟ニ付御礼勤之儀御伺書
天保三
津輕越中守贈物御礼状案紙并書取 難波入道宛
文政三

御 領 目 録

御拝領目錄

文姫様御引移之節被下物ニ付被仰渡書付 文政九

欽姫様御婚姻之節拝領物被仰付御礼勤心得方伺書
文政九

一橋儀同様薨去ニ付欽姫様江拝領物被付御
礼勤之儀御伺書 文政一〇

永姫様御引移ニ付被下物御書付 天保六

御花畑江御出之節拝領物覚 嘉永三

御 内 書

御内書御目錄 宝永七

(御内書写屈)

豊臣秀吉朱印状 写共 津輕右京亮宛 臘月一〇日付

豊臣秀吉朱印状 写共 津輕右京亮宛 一二月二四日

豊臣秀吉朱印状 写共 津輕右京亮宛 正月一六日付

豊臣秀吉朱印状 写共 津輕右京亮宛 六月二〇日付

豊臣秀次判物 南部右京亮宛 卯月一日付

豊臣秀次判物 津輕右京亮宛 八月九日付(天正一九)

一通 一四九

一通 一四七

二通 一四四

一通 一四三

一通 一四三

一通 一四三

四通 一四三

一通 一四七

一通 一四三

一冊 一四一

一冊 一四一

二通 一四四

一通 一四七

二通 一四七

二通 一四七

二通 一四七

二通 一四七

二通 一四七

豊臣秀次朱印状 写共 津軽右京亮宛 五月二五日付

二通 三〇五

徳川家康黒印状 津軽右京亮宛 一二月二八日付

一通 三〇六

徳川家康黒印状 写共 津軽右京亮宛 九月二六日付

二通 三〇七

徳川家康御内書 写 津軽宮内少輔宛
六月二六日付 本紙紛失 コビ一参照

二通 三〇八

徳川秀忠御内書 写共 津軽右京亮宛 七月二四日付

二通 三〇九

徳川秀忠御内書 津軽右京亮宛 一二月二七日付

一通 三〇〇

徳川秀忠御内書写 八月一九日付

一通 三〇一

(台徳院御判物之儀ニ付久保金左衛門鑑定返答書)
津軽越中守宛

二通 三〇二

徳川家齊御内書 津軽越中守宛

一通 三〇三

織田信雄判物 南部右京亮宛 正月二八日付

一通 三〇四

歴代書状

津軽信牧書状 高屋豊前守・服部長門守宛

一通 三〇五

津軽信牧書状 乾四郎兵衛・郡市兵衛宛

一通 三〇六

津軽信政書状 津軽信寿宛

二〇通 三〇七

下屋敷津軽信政室書状 津軽信寿宛

四通 三〇八

(領内凶作ニ付下向之旨津軽信明書状)
津軽多膳外二名宛

一通 三〇九

津軽大隅守書状 屋形様宛

一通 三一〇

津軽越中守書状 津軽土佐守宛

一通 三一一

津軽右京信興書状 木村柰之助宛(宝永初年)

一通 三一二

諸家来状

近衛家

近衛家熙書状 津軽土佐守宛

一通 三〇三

大石郷右衛門下向之節近衛家熙御書
津軽土佐守宛

一通 三〇四

近衛准后寒中御返書 津軽出羽守宛(安永一〇)

一通 三〇五

御馬御文匣被進候付近衛内前関白御返書
添翰共 津軽越中守宛

三通 三〇六

近衛撰政(内前)御返書 津軽出羽守宛 明和七

一通 三〇七

御国元安全之御祈禱被進候御礼ニ付近衛関白返書
津軽出羽守宛

一通 三〇八

近衛忠熙御書 津軽越中守宛 嘉永三

三通 三〇九

近衛忠熙御書 弘前侍従宛

六通 三一一

近衛忠熙御書 弘前侍従宛(嘉永七)

一通 三一二

(内裏炎上御見舞指出ニ付近衛忠熙礼状) 弘前侍従宛

一通 三一三

弘前少将宛近衛忠熙御書口述

一通 三一四

近衛忠熙・忠房連署書状 弘前少将宛

一通 三一五

近衛忠熙御書 津軽和泉守宛

一通 三一六

近衛忠房御書 弘前侍従宛

六通 三一七

近衛忠房御書 津軽和泉守宛

八通 三一八

近衛翠山御書 津軽和泉守宛

六通 三一九

近衛翠山御書 弘前侍従宛

一通 三二〇

近衛忠房自筆書状 弘前少将宛

一通 三二一

近衛忠熙宛孝明天皇宸翰写

六冊 三二二

醍醐家

醍醐少将書状 弘前少将宛

醍醐中納言御書 津輕和泉守宛

醍醐中納言御書 弘前侍從宛

醍醐大納言忠順書状 弘前少将宛

その他

飛鳥井少将書状 津輕土佐守宛

阿部備中守書状 津輕越中守宛

女房奉書 弘前侍從宛 安政二

○

仙桃院(為信室)書状 津輕越中守宛 享保二二

津輕采女書状 津輕土佐守宛 閏正月

津輕承敬書状 津輕承昭宛

妹見津の御兄様宛書状

津輕承昭并家扶宛書簡(明治)

御日記

為信公御代日記 写 (永禄一〇—慶長二二)

信牧公御代日記 写 (慶長二二—寛永八)

信牧君一代之自記 写 (慶長—寛永)

信政公御代日記 写 (天和元—元禄九)

信寧公御代日記(明和二一七)

信政公鑑盤 春夏秋冬 貞享元—宝永五

(津輕信政日次記) (元禄二—九)

自問覚書 (津輕信政) 元禄二—四

自問覚書 (津輕信政) 元禄一—六

自問覚書 (津輕信政) 宝永一—二

祓 自講之直(津輕信政) 宝永四

自問覚書 宝永五

在国日記 天明四—寛政三

天明四辰年家督の同八年在所江出已前迄之用向書留 天明四—八

日記(在国) 文化一〇

御日記(在国・在府) 文化一一

御日記(在府・在国) 文化一二

御日記(在国・在府) 文化一三

御日記(在府) 文化一四

御日記(在府) 文化一四

御日記(在国) 文化一四

御日記(在府) 文化一四

御日記(在府) 文化一四

御日記書拔 控共 文化一四

要 用 留

一族要用留 明治一六

半 四冊 三

一通 一六一

一通 二六八

八通 二六九

一通 二〇九

二通 二〇九

五通 二〇九

一六冊 三二

一綴 三〇

二綴 三三

二冊 三三

二冊 三三

一冊 三四

一冊 三五

一冊 三六

三冊 三〇〇

一冊 三七

一冊 三六

三冊 三九

半 一冊 三三

宗族其外要用留	明治一七	半	一冊	三四
要用留	明治一九—四二	半	一五冊	三五
(御家扶要用書類綴)	明治二四—二八	半	一綴	六三
一家要用留	明治二九—三八	半	二冊	三六
用事留(會計掛)	明治三三—三八	半	一冊	三七
十五銀行其外留	明治三四	半	一冊	三八
要用留(官報抄出留)	明治三〇—三六	半	四冊	三〇

交 際

近衛様御使者之節御覚書	津輕信明筆	安永九	一通	三〇七
近衛様御書御請御下書	津輕信明筆		一通	三〇八
北小路刑部権少輔宛			一通	三〇九
近衛様御供名書			一通	三一一
御惣客様御合力金覚	寛政九		一通	三一二
佐竹様御家米柳島屋鋪江被召候面々名前書上	文政五		一通	一八九
松平陸奥守江使者取替之覚	文政五—六	横長美	仮一冊	一六五
田安中納言右衛門督殿御立寄之手順覚書	文政一〇		三通	一六五
田安様御立寄之節被進物調書付	文政一〇	横長美	一通	一六九
南部大膳大夫様御贈物目録	丑年		仮二冊	一六〇
御附御用人衆并書役中江御贈品一式		美	一通	一六八
細川頭光院様御被進候金子差下口上覚			一冊	五七
来客名書并献立覚			一通	一三六
			三通	一三六

会席御料理献立 一通 一三〇

城 郭

御城制	安永六	城 普 請	90×90	一枚	三〇八
体孝院様御繩張(弘城土図取)	天明七		81×82	一枚	三三三
分見繩張	文政八		123×123	一鋪	一〇三

弘前城石垣破損之覚写 享保三一—四 三通 三三〇

御国御城修補之儀ニ付御案文并覚書 享保一四 一通 三三一

御国御城石垣御修補之御願之覚書 享保一七 一冊 三〇九

弘前御城石垣御修補之儀御奉書之写 津輕出羽守宛 享保一七 一通 三〇九

御城修補一件書付目録 享保一七 一通 三〇八

南ノ大口馬出ノ右小口井二階門立出シ之図 (他修築伺之図) 57×93 四枚 三〇四

* (弘前城修覆願ニ付老中御奉書) 明和三 一通 一七一

陸奥国弘前城石垣破損之図 寛政一〇 124×85 一枚 三三八

御城郭五箇所坪数 御錠口役竹内甚左衛門 文化二 一冊 八六六

御城郭量地方位間数連測帳 (文化二) 横長美 一冊 八六六

弘前御城修補願書 文化五 一通 三三三

御城御櫓御取建願ニ付老中御奉書 文化五 一通 三三三

陸奥国弘前城本丸櫓絵図 文化五 90×79 一枚 三三二

御本城御広鋪御絵図控

本陳図

辰巳御矢倉図 文政四

御本丸御路次御手水鉢石十之図

御本丸御路次御石灯笼十之図

御本丸御庭ノ図

三之丸勘定所之図

立石見遠見番所之図 附取建之本図 文化九

西之郭地面高下測量并人夫積書 測量場所図共

屋敷

江戸

来西年四ヶ所御屋敷御長屋割 延宝八

新堀浚仕様之書付 貞享五

御屋鋪并御預り地御内檢間数覚 金沢勘右衛門指出 (貞享五)

南本所抱屋敷拜領書并願書例文

本多下総守拜領屋敷惣坪数并建坪覚 閏六月

平蔵部屋作事之注文覚

柳原御屋敷表御門新規取立仕様并大都入用積り書

柳原御屋鋪當時御長屋形図

柳原御屋敷表御門御取建絵図

31×44 一枚 1101

45×32 一枚 1101

55×40 一枚 1109

30×42 一枚 1100

30×42 一枚 1101

80×112 一枚 1101

240×130 一鋪 1113

横長美 一枚 110尺

横長半 一飯一冊 1114

一通 二冊 1114

横長美 一冊 1115

美大 一冊 1115

一通 三冊 1115

一通 三冊 1115

一通 三冊 1115

一通 三冊 1115

一通 三冊 1115

一通 三冊 1115

一通 三冊 1115

(津輕右京大夫御住居移転御届書) 文政九

(寛政年中ノ新築建物取調書上) 辰年

(取附候御普請御修履場所取調覚)

津輕右京大夫抱屋鋪附物揚揚御取建之儀御願書 文政一〇

今戸屋敷買入ノ手入并畑入用高調書 文政七

浜町元矢之倉宗対馬守中屋鋪地借地御届書 文政一

浜町元矢ノ倉溝口伯耆守下屋敷借地御届書 天保一

浜町元矢ノ倉宗対馬守中屋鋪借地返地御届書 天保八

(諸御屋敷坪数書上覚) 安政四

本所横川端御屋敷御譲受一件 安政五

横川端御屋敷三方御相对替御願書御進達ノ御願濟迄一件 安政五

横川端御中屋敷御請取三ツ目通御中屋敷御引渡御届一件 安政五

横川端御抱屋敷御譲一件 附大川端御抱屋敷御譲共 安政五

御上屋敷并大川端横川端柳島御屋敷御普請方江差出候絵図面一件 安政六

順承公本所横川端御中屋敷江御移徒一件 安政七

大久保四丁目御屋敷御相对替御願ノ御願濟迄一件 慶応元

金高積り調書

諸御屋敷拜領ニ付御請并御礼使者之儀御伺書 津輕越中守ノ弁事役所宛 明治一

(江戸屋敷調書)

横長半 一通 一八七四

横長半 一冊 一七〇

横長半 一冊 一七〇

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

一通 一八七

戸越屋敷拝領		○本 所	
(品川領戸越村下屋敷拝領申渡)	半	御屋鋪地割 貞享五	98×186 一枚 三三三
柳原御中屋敷差上代地品川領戸越村下屋敷拝領ニ付御用番御到來御奉書 文政一〇	一通 三〇	御屋鋪地割 元禄元	140×276 一枚 三三三
(屋敷替被仰渡書) 文政一〇	一通 三三	本所深川之図并道積書付 元禄一二	128×188 一枚 三〇六
(屋敷替被仰渡之写) 文政一〇	二通 三三	本所深川之図并道積書付 元禄一六	127×168 一枚 三〇六
柳原御中屋敷差上代地御拝領ニ付御発駕心得方之儀内意伺書 御書取共 文政一〇	一通 三三	本所之絵図	162×264 一枚 三三二
戸越村御屋敷路見覚 付絵図 文政一〇	一通 三〇	本所御上屋鋪惣御差図 (元禄一五以前)	204×102 一鋪 三三三
松平因幡守品川領戸越村下屋敷引渡一件書付 文政一〇	三通 三〇	本所御上屋敷惣御差図 (元禄一五以前)	204×104 一鋪 三三三
(戸越村下屋敷之内六千坪四方間敷絵図面御定杭之通請取証文写) 文政一〇	一通 三六	御上屋敷御作事所々御好御自身差図 宝永二	128×240 一鋪 三三三
柳原中屋敷内改ニ付差紙写	一通 三三	御上屋敷御大奥御靈殿図 宝永一	171×83 一枚 三三三
柳原屋敷引渡ニ付書付 文政一〇	三通 三三	江戸御上屋鋪御指図 宝永三	美大 一冊 三三〇
(柳原中屋敷引渡濟方ニ付届書) 文政一〇	一通 三六	御普請方注文	美大 一冊 三三〇
(柳原中屋敷引渡相濟ニ付辻番所并廻場心得方之儀伺書 付札濟 文政一〇)	一通 三三	御差図(御柵・まいら戸・しやうし・付書院・さま・御持仏堂)	美大 二冊 三三一
品川領戸越村拝領屋敷地圖面	一枚 三六	本所御屋鋪差図	98×180 一枚 三三三
群藏差出候屋敷地圖面	一枚 三三	一色九左衛門様被遣候本所御屋敷御指図	34×64 一枚 三三五
国 元		本庄御屋鋪御指図 巳年	280×141 一鋪 三三六
*御屋形焼失ニ付普請入用金出銀頼状 鳥羽屋清吉他 文政一一	四通 一八六	御上屋敷差図 絹糸入	288×150 一枚 三三〇
文政一一	一通 一八〇	本所御屋鋪差図	55×54 一枚 三三三
屋敷 図		御屋形之図	52×60 一枚 三三三
上 屋敷		御屋敷様之図	半 一冊 三三三
江戸御殿守地割 百分一	一枚 三〇六	御作事方御好書	
江戸御殿守指図 百分一	一枚 三〇五		

御屋形廻御作事惣御注文 江戸の差下候躰書

御上屋敷御作事覚書

御八手之覚

(御広間御作事御注文書)

御上屋敷間敷之図

向御屋敷惣絵図

御上屋敷御長屋間敷坪数帳(延宝七)

御上屋敷北瓦御長屋間敷御指図

御上屋敷北瓦御長屋間敷御指図

御上屋敷北御長屋間敷御指図

御上屋敷小屋間敷御指図

御上屋敷御馬屋之図 拾三足立

裏御門前外つなぎ五足立

御馬屋前外つなぎノ図

江戸御上屋敷御門御取建之図

三ツ日通御屋鋪之絵図 文政一〇

新御殿惣御絵図 本所大川端 文政一三

新御屋敷分間図

新御屋鋪辻番之図

横長半 一冊 三三六

横長美 一冊 三三七

横長美 一冊 三三六

横長美 一冊 三三九

44×32 一枚 三三五

33×47 一枚 一〇六

横長半 一冊 三三六

17×22 一枚 三三六

15×74 一枚 三三九

23×53 一枚 三三九

17×46 一枚 三三九

40×52 一枚 三三〇

31×43 一枚 三三〇

31×43 一枚 三三〇

77×72 一枚 一一〇

42×60 一枚 一〇九

86×163 一枚 三三〇

166×166 一枚 三三六

26×36 一枚 三三九

本所新御屋鋪御門明之図

新御屋敷御長屋間敷御指図

新御屋敷御長屋間敷御指図

○神 田

神田御上屋敷御絵図 控共 延宝六

御上屋敷御絵図 享保三

神田御屋敷地割

神田御屋敷地割図

従一色九左衛門様參候神田御屋敷御指図

一色九左衛門様參候神田御上屋敷御指図

江戸御上屋敷御指図

江戸神田御上屋敷御指図

神田御上屋敷御なけし御釘隠シ之図

神田御上屋敷北ノ御長屋前馬場西ノ方御長屋御差図

御上屋敷長屋間敷覚

御長屋高さ并かうはい書付

神田御上屋敷御近所之御絵図

神田御上屋敷表御長屋間敷御指図

中 屋 敷

○柳 原

44×84 一枚 三三七

14×94 一枚 三三九

16×74 一枚 三三五

157×240 二枚 三三七

162×85 一枚 三三〇

158×207 一枚 三三六

80×93 一枚 三三六

34×55 一枚 三三三

38×43 二枚 三三三

49×70 一枚 三三三

134×128 一鋪 三三七

97×100 一枚 三三九

29×40 二枚 三三六

27×35 一枚 三三三

一通 三三三

31×45 一枚 三三三

16×340 一枚 三三九

柳原御中屋鋪差図 (元禄一五以前)	91×188	一枚	三三〇
柳原御中屋鋪分間坪割之図	63×128	一鋪	一〇七
柳原御屋敷坪割之図	100×224	一鋪	一〇九
柳原御屋敷古図	81×152	一鋪	一〇七
柳原御屋鋪地割図	240×141	一枚	三三三
柳原御屋鋪御作事帳	横長美	一冊	三三九
柳原御屋鋪惣御絵図	188×82	一枚	三〇九
○			
江戸柳原御屋鋪并御隣家絵図	31×49	一枚	三三二
柳原御屋敷御近所之絵図	23×46 43×57	一枚	三三三
御長屋割之図	12×48	一枚	三三三
御長屋割之図	12×42	一枚	三三三
御長屋割之図	12×32	一枚	三三五
御長屋割之図	12×52	一枚	三三六
下屋敷			
本所御屋鋪之図	43×31	一枚	二二六
○柳原			
柳原御下屋敷絵図	122×126	一鋪	三三三
柳原御下屋敷惣指図	40×81	一枚	三三九
柳原御下屋敷指図	42×80	一枚	三三〇
御下屋敷差図	35×90	一枚	三三〇
浅草御屋敷差図	53×124	一枚	三三〇

○亀井戸			
三浦監物様亀井戸屋敷図 譲り直段口上書共 元禄一五	81×94	一枚	三三九
亀井戸御屋敷御差図	104×108	一枚	三三〇
亀井戸御屋鋪地割	160×204	一枚	三三一
亀井戸御屋鋪御小屋注文書		一通	三三三
柳島御屋敷御鏡口角折釘図	24×35	一枚	三三五
御本紙御絵図と清書之御絵図読合仕候覚 (宝永三)		一通	三三三
御本紙之図 (御勝手座敷差図)	83×38	一枚	三三二
江戸御勝手座敷御作事何図注文之内御好候仰 付候書控	半	一冊	三三〇
御書院・御小書院・御小座鋪御指図	53×43	一枚	三三六
御書院御次仕切仕柱間賦リ御畳敷様之図	23×31	一枚	三三七
御広間・御書院・御小書院・大奥御主殿御指図		四枚	三三六
柳島御絵図	42×60	一枚	一〇九
柳島御屋敷御床御棚之絵図		六枚	一〇九
柳島御屋敷御湯殿注文書		一通	三三三
御屋形御指図	46×32 46×16	一枚	三三三
御下屋敷御長屋間敷御指図	15×140	一枚	三三九
御下屋敷屏之差図	30×44	一枚	三三七
弘前藩知事御抱邸開地図墾 (武藏国南飾郡亀戸村柳 島) 明治五		一枚	三三六
○浜屋敷			

浜御屋敷表御長屋御作事注文	延宝三	横長美	一冊	三三四
浜御屋敷御繪図	延宝六	120×130	一鋪	三三四
御浜屋鋪御用地之残差図	酉年	59×32	一枚	三三六
浜御屋敷御長屋間敷御指図		16×71	一枚	三三〇
御下屋敷長屋間敷覚			一通	三三〇
○				
御田繪図		8×4	二枚	三三三
御広間繪図他		40×61	一枚	三三三
立花飛驒守様御玄関前之図		104×36	一枚	三三五
白山御屋敷之図		112×145	一枚	三三三
江戸出番所図		43×56	一枚	三三三
工藤彦左衛門江戸江持参之屋敷繪図写		135×127	一枚	三三三
国元				
亀ヶ岡古館・御茶屋図	宝永五	41×68	一枚	1011
館岡村古館之図		81×55	一枚	1011
青森御飯屋御繪図御控		28×40	一枚	1101
青森御飯屋坪敷		55×76	一枚	1102
木作村御飯屋古御繪図		43×60	一枚	1104
木作御飯屋図		88×88	一鋪	1104
御休息御繪図御控		43×48	一枚	1104
○富田				
富田御屋敷惣構分間繪図		173×200	一鋪	1100

富田御屋敷惣図	文化二三	65×88	一枚	1021
富田御屋鋪惣図	文化二三	66×45	一枚	1021
富田御屋鋪惣構図	文化三三	39×49	一枚	1021
富田御屋鋪御住居之図	(文化三三)	67×40	一枚	1021
富田御屋敷御門前図	(文化三三)	48×107	一枚	1021
富田御屋鋪之図	(文化三三)	39×31	一枚	1021
一ノ渡村領江富田御屋敷御用新溜池御取建之図	(文化三三)	44×22	一枚	1021
富田御屋敷方位図	(文化三三)	34×48	一枚	1021
富田御屋鋪惣御繪図	(文化三三)	49×45	一枚	1021
御田繪図	(文化三三)	32×46	一枚	1021
御足地之図		24×34	一枚	1021
御馬場并御畑地之図	(文化三三)	74×80	一枚	1021
富田御屋鋪惣構分間御繪図	天保七	130×76	一枚	1021
富田御庭繪図		280×158	一鋪	三三六
富田御屋敷御普請御入目大都調	文化二二	214×168	一枚	1021
		164×128	一枚	1021
敦賀		横長半	飯一冊	1021
敦賀御屋敷繪図		135×31	一枚	三三四
敦賀御屋敷之図		122×28	一枚	1021
敦賀御屋鋪図		65×139	一鋪	1021
敦賀御屋鋪御由緒書写		半	一冊	三三三

京都御屋鋪図 御用覚書添

20×22 一枚 二〇三三

大坂御屋敷図

28×32 一枚 二〇七四

片桐石見守殿屋鋪作事指図

書付添 半 仮一冊 二七七

片桐石見守様御好之棚指図

25×38 二枚 二七六

社会事業

華族会館

華族会館議員撰挙条規

半 一冊 二四二

大会館規則 明治七

横半半 一冊 二六五〇

緊要備忘(布告并要用留) 一—四 明治一〇—一一

半半 一冊 二四八

緊要備忘(会館布達并同族回章留) 五

半半 一冊 二四九

要用留 明治一六—三九

半 七冊 三九

族中陳述書 族長九条道孝の幹事津輕承昭宛

半 一冊 二五四

会館改良建議連署并回達 明治一九

半 一冊 二四〇

華族世襲財産法并施行手続 明治一九

22×15 一冊 二四一

華族資格保持ニツキ梶正清他意見書 明治二〇

美 一冊 二四〇

独逸貴族会社自費衛生原則并事務章程 一八七一 (明治四)

19×14 一冊 二四二

華族発起国立銀行創立願代印依頼状 明治一〇 半 仮一冊 二五〇七

博愛社

博愛社創業広告書 明治一〇 19×14 刊一冊 二四〇九

博愛社規則書 明治一四 19×14 刊一冊 二四一〇

博愛社報告 第一—第五回 明治一三—一八 19×14 刊一五冊 二四一一

欧州赤十字社概況 柴田承桂演説 明治一七 19×14 刊一冊 二四一三

赤十字 谷口謙詠 19×14 刊一冊 二四一四

石油会社その他

大日本東京石油会社分株証券 明治七 17×24 一枚 二五九

(石油会社支社失敗ニ付跡始末一件書類) 明治一〇 一綴 二五〇

協立商社設立方按 明治一二 半 一冊 二四六三

力食社(熊本県)設立資金願并心得書 明治一〇 半 一綴 二四七四

正院職制章程 明治八 美 一冊 二四〇三

史談会速記録 第二八四輯 大正五 22×15 一冊 二四六

漆器樹産会社傳記 明治一八 美 一冊 二四八

雜

持道具之儀ニ付近衛殿の御書取 弘化四 一通 一九三

袋切目録 津輕信明筆 天明六 一通 二〇四

(津輕為信画像讀之写) 一通 二九〇

津輕為信・信牧画像 三幅 三〇九〇

大妻像一幅

面額部分完全

三〇九〇

朱御紋四足御長持入記 享保一六

近衛忠熙・篤磨湯治願 明治一五

富小路敬直出立届 族長代理津輕承昭宛 明治一五

一条忠貞殿事件略記 明治一四

秘策(青地兼山麗沢) 室鳩巢著

雪溪問答 津輕信明写 天明二

一通 一九七

二通 三五五

一通 三五六

半 一册 二四〇

美大 一五册 七

半半 一册 三〇一

勤 役

御 代 替

誓 詞

御代替ニ付起請文御誓詞控 津輕信明 天明七

御代替誓詞之儀心得方御伺書 天保八

国元江出立ニ付御代替誓詞伺書 天保八

御代替誓詞一件 付御席之函 天保八

御代替御誓詞之儀ニ付御用番々心得申渡書付 天保八

御代替ニ付起請文御誓詞控 津輕信順 天保八

横長半 28x48

一册 二七九

一通 二七九

一通 二七九

一通 二〇四

*誓詞并内々誓詞控

美 一册 一四三

*御代替ニ付栗原泰芸・柳川豊前兩名御預之覚

天和二

三通 一五八

御代替為御祝儀御太刀馬代御献上日限伺書 付札共

津輕栄翁 延享二

一通 一四三

参 勤

御 暇

御国許江初而御暇被仰出候節登城之旨御切紙 寛政四

一通 一四二

上使を以御国元江之御暇被仰出候一件 文化六

美大 一册 五五

上使を以御国元江御暇就被仰出候右御札被仰 上候一件 文化六

美大 一册 五〇

蝦夷地警固被仰付候ニ付御暇参府日限之儀変 更達書 文化二一

一通 一四九

南部大膳大夫と交代参府之為御暇被下置候月 之儀ニ付御願書 文政二一

二通 一四九

津輕越中守不快ニ付為名代津輕左近將監国元 江御暇願書 付札有 天保六

一通 一五八

名代津輕左近將監在所江御暇被下候御書付 天保六

一通 一四九

松前隆之助幼年ニ付名代松前三郎兵衛在所江 御暇被下之儀書付 天保七

一通 一五三

病氣快方ニ付出勤御機嫌伺御序之節参勤御札 被仰上度段御内慮伺書 天保七

一通 一五六

病氣快方ニ付出勤之儀表向御伺書 付札有 天保七

一通 一五七

腹痛ニ付御快方之上出勤之儀御内慮伺并御書取 天保七

二通 一五八

御暇後内用ニ而発足延引之処相弁候間出立願書 天保八

一通 一五九

御登城御暇之御礼可被申上候様御切紙 安政六

一通 一四三

御參勤之御礼風氣不參ニ付献上物儀御伺書 付札有 文久三

一通 一四三

病後之御礼有無之儀御伺書 元治元

一通 一四六

御帰国願難相整旨御直達御書取 慶応二

一通 一五〇

御帰国再願難相整旨御書取 慶応二

一通 一五五

領民撫育之為暫時帰国之義願濟御書付 慶応三

一通 一五六

御參勤之御礼病中不參ニ付献上物之義御伺書

一通 一四七

領分劣作ニ而人氣不穩候ニ付一先帰邑之儀再願書

一通 一五〇

居屋敷類曉之節御參勤御用捨被仰付候処出府ニ付參勤御礼願伺書 明和八

一通 一四九

滯 府 願

津輕越中守齋痛之為再御滯府願 安永五

一通 一四七

御暇後痛所ニ付秋中滯府養生願書 天明四

一通 一四七

御暇後痛所ニ付保養願書 天明六

一通 一四八

津輕越中守不快ニ付再滯府養生願書 付札有 天保六

一通 一五〇

津輕越中守当冬中迄滯府御願書 付札有 天保六

一通 一五一

津輕越中守不快ニ付来年御參勤之時節迄滯府願ニ付御内慮伺書 天保六

一通 一五三

津輕越中守不快ニ付来年御參勤之時節迄滯府養生願書 天保六

一通 一五三

津輕越中守為養生步行仕度旨外出御願書 付札有 天保六

一通 一五四

南部大膳大夫參勤時節ニ付津輕越中守宛御書付 寬政九

一通 一四三

津輕大隅守在処江為名代差遣候ニ付諸事伺書控 文政二

三通 一四六

御參勤道中御供増之儀ニ付御伺書 大作申渡書添 文政五

四通 一〇三

松前志摩守向後老万石格被仰出候ニ付御書付 天保二

一通 一五〇

參府当日御廻勤濟ノ大川端屋敷江立寄度旨御伺書 天保五

一通 一四九

津輕越中守滯府ニ付名代左近將監參府心得方之儀 伺書 付札有 天保七

一通 一五五

密書 山鹿八郎左衛門

一冊 五七

御參府御時節ニ付御願書 酉年

一通 一五七

横長半

仮 養 子

帰国御暇之節仮養子願書控 元文元

三通 一三五

帰国御暇之節仮養子願書控 宝曆八

一通 一三六

帰国御暇之節仮養子願書 下書・差戻分共 天明四一八・寬政二

七通 一三六

帰国御暇之節仮養子願書 下書・差戻分共 寬政四

五通 一三六

帰国御暇之節差出候仮養子願返進ニ付御切紙 寬政五

一通 一四三

帰国御暇之節仮養子願書 差戻分 寬政一〇

一通 一三九

帰国御暇之節仮養子願書 差戻分 安政六

一通 一三七

帰国御暇之節仮養子願書 差戻分 文久元・元治元

二通 一三七

江戸表供立人数減員延期届書 天明八

一通 一五五

国許江発足之節出水ニ付板橋通旅行之儀御伺書
天明六

持病之為薬服用茶弁当為持申度旨御願書并御達書
文化七・文政一三

御入府之節御手廻御馬廻御迎登リ名前書付
文政八

不快ニ付上使難被為請旨御届ニ付御書取
天保二

道 中 割

御登御道中記

道中記

御下御道中記

御道中割

御道中割

江戸ノ御国迄行程記

板橋ノ小山迄道程書

御昼休并御泊所書

当時町馬有数 文化九

日光御普請ニ付下向方水戸通り通行御伺書
安永七

登 城

西之丸出仕之覚 子年

一通 一四二

四通 一四四

一通 一四〇

一通 一四三

横半半 二册 三三

横半半 一册 三三

横半半 三册 三三

横半半 一册 三六

10x5 一帖 五九

横長美 一通 一八九

横長美 一册 一八九

横長半 一册 一五〇

一通 一八六

一通 一四七

一通 一五九

一ツ橋江就御成還御為伺御機嫌御登城之儀伺書
申年

御病後并御暇御礼之心得ニ而登營之儀被仰渡御書取 請書共 文久三

御用之儀御座候ニ付田安飯御殿ニ出仕スヘキ旨御奉書 元治元

(御用ニ付急速出府スベキ旨御書付)
牧野備前守 元治元

津輕越中守為名代一類中之内登城被成候様御切紙写

勤 番

京 都 警 衛

京都御守衛御免之儀御書付 添状共 文久三

京都御警衛之節飯養子願書 差戻分 元治元

京都御警衛之為在京被仰付候面々達書 元治元

(京都御警衛御合組御繰替之儀ニ付御書付)
元治元

(京都三ヶ月詰御警衛被仰付候御書付) 元治元

京都御警衛一件 元治元一一

(京都御警衛之為在京ニ付浅草・本所兩御蔵御警衛御免願) 願濟御書取共 元治元

中山前大納言殿外五卿御守衛被為蒙仰候儀ニ付御書付 元治一

中山前大納言殿外五卿御守衛御免之儀ニ付御書付 元治二

*承昭公少将御昇一件 附帝都御守衛記録
元治元 慶応二

南 御 門 番

一通 一四三

三通 一四〇

一通 一四九

一通 一四七

一通 一四八

三通 一五〇

一通 一三七

一通 一五五

一通 一五二

一通 一五三

一册 一四四

二通 一五三

一通 一六九

一通 一六〇

半 合一册 充

(南御門前御番所御警衛被仰付候御書付) 元治二 一通 一五九
(南御門前御番所御警衛御免ニ付御書付) 元治一 一通 一五五

神田橋御門番

領分損毛之為神田橋御門番就御免ニ付御書付 一通 一五七
宝曆六

浅草・本所御藏番

浅草御藏火之番御免之儀御書付 明和九 一通 一五六
本所御藏火之番御免之儀御書付 (寛延元カ) 一通 一五九
浅草并本所御藏御警衛一件 元治元 一册 一五三

出火ニ付防被仰付候間御差図之場所江御人数差 一通 一五二
出候様御書付 寛政六 一通 一五三
出水之節心得方之儀大目付へ問合書 付札有 一通 一五三
弘化三

御手伝普請

甲州川々

甲州釜無川・富士川・笛通川除御手伝御普請勘定帳

吹川・早川・谷川 安永四 一册 三五

1 甲州八代郡富士川通用水堰御普請勘定帳 一册 三五

2 甲州富士川通用水堰御普請勘定目録 一册 三五

3 甲州富士川通用水井堰御普請御入用御林木仕上帳 一册 三六

4 甲州八代郡富士川通用水井堰御普請御勘定帳 一册 三六

5 甲州巨摩郡富士川通用水井堰御普請御勘定帳 一册 三六

甲州八代郡早川通村々川除御普請御勘定帳 一册 三六

甲州八代郡早川通村々川除御普請御勘定帳 一册 三六

甲州八代郡早川通村々川除御普請御勘定帳 一册 三六

6 甲州巨摩郡富士川通村々井堰渡御普請 一册 三三
御勘定帳 往還道橋

7 甲州釜無川・富士川通堤川除用水路樋橋御普請御勘定目録 一册 三六
美

8 甲州釜無川・富士川通川除樋橋御普請御入美 一册 三三
用御材木仕上帳 美

上野 上野御手伝之儀ニ付懸り御家来登城候様被仰渡御書付写 大久保加賀守 天保五 一通 一四四
上野御手伝御用濟ニ付御名代登城之旨御書付写 天保六 一通 一四九

朝鮮人来朝

(下総国うなみ船入普請千石夫申渡状) (慶長一四) 一通 三〇三
朝鮮人帰国之節送人馬之御書付 延享四 一通 一五三
朝鮮人对島着岸ニ付鞍皆具大坂差立方御書付 延享五 一通 一五三
朝鮮人来朝ニ付場所并員数変更之儀御書付 延享五 一通 一五四
朝鮮人来朝ニ付江戸へ遠州舞坂迄鞍皆具被差候義ニ付御書付 宝曆二三 一通 一五五

琉球賀慶使略 版一枚 一九七

参詣

日光山御宮御靈屋拜礼之儀御伺書 寛政八 一通 一四二

日光山御宮御靈屋参拜之儀御窺書 申年
(寛政二二カ)

日光御法会ニ付道中差支之為参府時期変更之達書

屋形様御参詣并御名代覚

上野供奉

上野供奉御勤御控 寛政二二

有徳院様三十三回御忌御法事ニ付供奉行列勤方次第 天明三

東叡山御靈前御参詣供奉勤方次第 (天明)

供奉勤方例書 (天明)

紅葉山之図 (天明)

御預人

○

御代替ニ付栗原泰芸・柳川豊前兩名御預之覚

天和二

栗原泰芸・柳川豊前御預之覚 公義江差出候写

大目付御預ケ人有無之御尋ニ付口上之覚

(元禄一五カ)

栗原泰芸

栗原泰芸ニ差出候御預ケ之由緒覚書 下書共

延宝八

北村弥右衛門覚書 (延宝八)

従御国元御目付御三人江御預ケ人之御書付重而被差上候控 天和二

一通 一六二

一通 一六〇

一通 一六六

三通 一五七

一帖 一五六

一帖 一五六

二通 一五四〇

一枚 一五四

泰芸病氣御尋ニ付差上候書付 下書共 貞享元

栗原泰芸跡式取立願 貞享元

栗原泰芸子供之覚 延宝八・貞享元

津輕越中守ニ差出候栗原泰芸御預之覚 下書 (貞享元)

栗原泰芸就死去以使札申入候覚 貞享元

栗原泰芸死去ニ付後始末一件御内意伺口上覚 (貞享元)

柳川豊前

柳川豊前御預一条ニ付御用状拔写 延宝五

柳川豊前御預一条ニ付諸状写 (延宝八)

柳川豊前御預一条ニ付油布柳雪覚書写 申年

柳川素庵御朱印謀判一件ニ付御咄之覚書 延宝八

(先祖之儀御尋ニ付柳川素庵書状) 津輕信政宛

柳川豊前御預中御扶持并御合力之覚 (延宝八)

柳川豊前御預一条御尋ニ付答書 渡辺次太夫・北村弥右衛門 盛岡主膳宛 追啓共

素庵様御下之節御供ニ被召連候御家来覚書 (延宝八)

柳川豊前御預御赦免難成旨口上覚

柳川豊前重態ニ付報知状下書 貞享元

柳川豊前御預之覚 下書共 貞享元

柳川豊前死去御届下書 貞享元

梶川左門

梶川左門親遠嶋被仰付候ニ付津輕家御預覚 (寛文六)

五通 一五六

一通 一五二

六通 一五三

二通 一五一

二通 一五四

一通 一五五

一通 一五三

一通 一五九〇

一通 一五二

一通 一五二

一通 一五九

一通 一五九

二卷 一五四

一册 一五五

一通 一五六

一通 一五六

三通 一五六

一通 一五七

一通 一六〇

梶川左門ノ御預一件ニ付覚書

(預人梶川左門安着届書写) (寛文七)

一通 一〇二

蝦夷地警衛

蝦夷地并松前爲御見分御公儀御役人被相起候一件并度々御達書共 嘉永七・安政七

一冊 一三五

蝦夷地御警衛一件 北川六左衛門・比良野助太郎 安政一

半 一冊 一〇六

故越中守寧親公蝦夷地警衛に關する上申書 明治二七

半 一冊 一〇三

騷 擾

寛文九年狄蜂起之節御用留書状 寛文九

横長半 一冊 一三五

蝦夷地騷擾ニ付箱館出兵一件覚書 寛政元

一九通 三三八

松前蝦夷蜂起之節同所江被差出候諸兵江被仰 渡覚(寛政元)

半 一冊 一〇六

松前蝦夷騷擾ニ付見聞之趣申出書付写 (寛政元)

半 一冊 一〇四

人数割小屋割武器雜器矢玉薬兵粮積 (寛政元)

横長美 一冊 一〇六

小屋割之図 (寛政元)

〇×〇 一枚 一〇三

松前江被差向候御人数并御用懸被仰付候人数 書(寛政元)

半 一冊 一〇四

松前江御人数書 (寛政元)

半 一冊 一〇五

松前賊勢模様聞取書 慶応四年 露 人 渡 来

半 一冊 一〇三

ロシアヤへ信牌写 添書共 寛政五

一通 一〇五

エトロフ嶋江異国人渡来及乱妨候始末申上候書付 羽太安芸守 文化四

仮一冊 一〇九

エトロフ嶋江異国人渡来騷動一件ニ付高屋吾 助ノ竹内衛士宛来状写 文化四

二通 一〇二

ソウヤ詰山崎半蔵他ノ箱館詰勘定小頭宛申来 候書状之写 文化四

横長美 仮一冊 一〇六

エトロフ嶋江異国人来着ニ付同所詰合御人数 ノ申出并両目付見聞書 文化四

半 四冊 一〇三

松前吟味役高橋三平ノ対露關係ニ付来状之写

一通 一〇三

奥蝦夷地江ロシアヤ人渡来ニ付御達書付之写 クナシリ嶋江異国船渡来之儀ニ付御内意申上書 笹森勘解由

一冊 一〇三

エトロフ嶋大騷動一件ニ付安長様ノ之書翰之写 立石野大筒台場ニ而ロシアヤ船打払之儀ニ付 伺書 御付札共 (文化六カ)

半 仮一冊 一〇三

エトロフ騷擾之様子申出シ書案文 (津軽頼母ノ 堀田撰津守江差出候答書) (文化年中カ)

一通 一〇三

エトロフ騷動始末報告書 文化四 勤番三橋要藏

横長半 仮一冊 一〇四

えとろふ嶋魯西亜人渡来之節会所を明候家来仕置 申付方御書付 写共 土井大炊頭 文化四

二通 一〇五

エトロフ惣乙名イチスケ儀ニ付申上候書付 深山宇平太 文化七

一通 一〇四

ウルツフ嶋エトロフ蝦夷人見廻リ之儀ニ付申 上候書付 午年

横長美 仮一冊 一〇四

松前風説書 文化七

半 仮一冊 一〇三

魯西亜人画候船之写 文化八

21×39 一枚 一〇三

クナシリ嶋江ロシアヤ船渡来之節ロシアヤ人 画候写 文化八

21×40 一枚 一〇二

赤人鉄砲之図

23×33 一枚 一〇二

於クナシリ嶋石捕候ロシアヤ人見守被仰付候 ニ付御内意伺覚 笹森勘解由 文化八

二通 一〇二

(於クナシリ島被召捕候ヲロシヤ人拘留一件留) 笹森勘解由 文化八

見守番所之図 文化八

蔵町異国人見守番所之図

(ヲロシヤ人置所住居絵図) 文化九

サンタン人・ヲロコ人ニ付内用申上書付

(高田屋嘉兵衛ヲロシヤ船江被捕候一件并砂金之儀ニ付斎藤彦市書状) 文化九

松前詰合中異国人出奔御取扱始末之儀覚 工藤元衛 文化九

松前詰桜田元次郎ヲロシヤ人置所出奔一件ニ付覚書并始末御請書 文化九

ヲロシヤ船渡来ニ付公義江松前ヲ申上候書付写 文化一〇

於箱館表魯西亜人公儀御役人引渡相濟候条見継役人申出書付 文化一〇

ヲロシヤ人退去御違并桜田元次郎御内意書之覚

魯西亜船箱館表来着之節打払之儀猶予達書写 文化一〇

幕府御吟味役ヲ魯西亜船リコルド宛鎖国論書写 文化一〇

松前奉行所ヲ魯西亜船リコルド宛鎖国論書写 文化一〇

箱館表ヲロシヤ人船出帆取扱之風聞書 文化一〇

於箱館表魯西亜人御逢対之節參候魯西亜人容貌略図 文化一〇

ヲロシヤ文字(仮名付)

魯西亜文字(いろは及五十音)

公儀御役人宛ヲロシヤのカヒタンヲ来書写

五通 三三

一枚 三六

一枚 二七

一枚 二六

一通 二五

一通 二六

一通 二九

一冊 五五

四通 三三

一冊 三〇

一冊 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

一通 三〇

笠原八郎兵衛御内密書 (南部家虎皮常用并魯西亜船渡来一件) 文化一〇

文化十年松前へ魯国人渡来一件 文政二

ヲロシヤ船之儀ニ付御手船長運丸之聞書

松前表江御引上ヲロシヤ人凌方之儀伺書

エトロフ嶋夷人改俗之儀ニ付御祝儀次第書 齊藤蔵太 卯年

エサン弁天嶋ニ而連城砲ヲ以賊船打敗地方江惣勢引揚入陣調練図

北蝦夷地夷人御目見一件 桜田元次郎

松前御用懸名前 戊午

公義御役人御取扱帳 辰年

蝦夷地御持場江被相越候公儀御役人名前 辰年

会津様御人数松前江渡海重役之面々名前書 文化五

仙台中出立日限名前 文化五

(箱館詰藩士渡海予定覚) 卯年

備後守様弘前御通行ニ付御取扱向之一件伺済覚書

松前往来印鑑不用ニ付返却問答書 文政六

松前箱館ヲ江戸表江罷越候者通印鑑御渡之写

江戸ヲ松前箱館江罷越候者通印鑑御渡之写

(松前江渡海ノ者頭へ示書) 寛政四

松前へ遣候物頭へ申渡覚 添書共

横長美 仮一冊 二五

半 一冊 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

一通 二五

蒸艦買入并箱館表不届ニ付処罪申渡書 明治二

松前入用

松前町入用調 寛政九—文政元

松前箱館江先年御人数被差出候節々当御持場所勤番御人数迄御物入高大都調 享和四

北蝦夷地御人数越年御免願并松前入用高ニ付平岡群蔵口上書 文化七

松前方御入用調 文化八

松前方御入用高亥年分調帳 文化一三

松前方一式御入用 文化一四

○役人扶持

佐竹右京大夫殿人数松前江渡海ニ付三馬屋ニ而進物覚 文化四

堀田摂津守御帰帆就御用松前江渡海之面々江御手当被下方覚 文化四

松前并箱館江差砂原宗谷詰之面々御酒肴被下置候書付 文化四

シベトロ詰合名前 文化五

(蝦夷地詰人数江平扶持被下置候旨御達ニ付御用状) 文化六

早道之者松前江被差遣候ニ付御用金請取之覚 文化八

御定式松前箱館懸御役人江被進方覚 卯年

年中箱館奉行并御下役江進物覚 添状共

箱館詰御役人江不時進物之覚

松前地詰合之面々江御手当定 辰年

一通 三五六

半 一冊 二五

半 一冊 二五

横長美 一冊 三五

一通 三三

半 一冊 二六

半 一冊 二六

一通 三五

横長半 一冊 三九

横長美 一冊 三九

一通 三三

一通 二六

一通 三九

横長美 一冊 三〇

横長半 一冊 三三

一通 三三

横長美 一冊 三〇

松前行御手当之覚

南部大膳大夫蝦夷渡海ニ付船頂戴願 享和元

カラフト・ソウヤ・リイシリ詰人数平扶持被下候旨被仰渡書 辰年

○運上金

東蝦夷地運上金高之覚

蝦夷地マシケ運上金并荷物出金高之覚

蝦夷地御用米売上前金御拝借願案紙写 文化一四

蝦夷地御用買上米之儀ニ付御達書 辰年

用人宅ニ而松前用懸リ江北蝦夷地并ソウヤ・リイシリ詰諸運送物等之儀ニ付申渡 文化六

タカシマ渡海破船荷物紛失ニ付御金拝借并御手当之儀覚 笹森勘解由 文化六

(旧商社ニ而松前場所仕込金貸付返済方願書) 明治八

旧商社并場所御仕込始終ノ情実御内御尋ニ付返答書

勤番所

○御固人数

西蝦夷地固人数場所割書取 (文化五—七)

仙台蝦夷地警固御人数書 文化五

巳ノ年松前并蝦夷地固メ人数割

横長美 一冊 三三九

半 一冊 二五

一通 三三

一通 三三

横長美 一冊 三三

一通 三三

半 一冊 二六

半 一冊 二六

横長美 一冊 二五

横長半 一冊 二六

半 一冊 二六

半 一冊 二六

半 一冊 二六

横長美 一冊 三〇

横長半 一冊 三三

一通 三三

一冊 二九

一通 二五

佐竹様御備人数覚	文化四	横長半	一冊	二五
ヤケナイ詰御人数居小屋図	添書共 文化一〇	8×6	一帖	三七
松前并三厩御固御人数書	文化一一	11×5	一帖	三五
蝦夷地松前志摩守江返戻ニ付御固之儀ニ付御書付写	文政四		一通	三三
松前非常一件并箱館固秘記	天保四	半	一冊	二六
箱館詰并スツ、詰人数書上(安政二―慶応二)			一通	三四
西ノ年蝦夷地人数居所付			一通	三六〇
松前表差出人数并武器之覚		横長美	一冊	二五〇
箱館并蝦夷地詰御人数覚	寅年	横長美	一冊	二五〇
松前箱館詰諸士并御人数覚	卯年	横長美	一冊	二六
惠登呂府詰諸士并御人数覚	卯年	横長美	一冊	二六
松前四ヶ所御固御人数名前	午年	横長美	一冊	二六
御人数行軍		横長美	一冊	二六
エトロフ嶋勤番人数御武器員数御届書写	文化三		一通	三六
樺太外場所御固御免并大筒渡方御伺書	文化六		一通	三三
カラフト・リイシリ江人数差出候様被仰付候ニ付御伺書	河野六郎 文化六		一通	三三
松前蝦夷地五ヶ所勤番所并当巳年御固御固御人数之覚	巳年	横長美	一冊	二五
西蝦夷地ソウヤ江人数差出候ニ付箱館出立人数覚			一通	三六
*津軽越中守家来江在々々	松前人数割合書共(文化四)		一通	三六

北蝦夷地引弘御人数之内タカシマ詰越年人数之儀覚	笹森勘解由 文化六		三通	三六
(北蝦夷地御固々人数越年御免願一件ニ付竹内衛士書状)	文化七	横長美	一冊	二五
マシケ・ルルモツへ詰ニ而越年被仰付一件ニ付松平伊豆守宛札状	津軽越中守 文化七		一通	三六
松前詰御人数御留守中家内安否御尋ニ付返答書			一通	三六
佐竹様江松前人数御加勢之儀御断ニ付御口上并御進物覚	文政五	横長美	一冊	二五
箱館詰引弘御人数之面々覚		横長半	一冊	二五
蝦夷地御固人数引弘被仰付御書付	文化一一		一通	三六
奥地嶋々御固御人数引弘被仰付候ニ付三厩江物頭一手被差出候儀書付	文化一一		一通	三六
蝦夷地詰御人数引弘ニ付進方被下方調		横長半	一冊	二五
○武器 調				
*エトロフ嶋勤番人数御武器員数御届書写	文化三		一通	三六
松前表御固所江御備御武器調帳	武器奉行 文化六		一冊	二五
箱館并蝦夷地御備武器調		横長美	一冊	二九
箱館表御備武器員数相違ニ付御尋返答書			一通	三七
箱館御用懸				
松前四ヶ所御備武器調		11×5	一帖	三三
御関所并浦々海岸御備御武器調		11×5	一帖	三三
松前箱館并蝦夷地江兼而相渡り御武器数帳		横長美	一冊	二五

箱館江被置御備候御弓御鉄炮員数書 付札添 一通 二四〇

松前箱館御固場所江差遣候鉄炮教調 一通 二三六

江差表弁天嶋大筒備方ニ付口達覚 文化七 一通 二七

公儀御渡之松前御持大筒員数覚 文化一一 一通 二〇六

大筒台場御引渡ニ付御達書之写 文化一一 一通 二〇五

御下浜海岸大筒台場書分覚 文化一一 一通 二〇三

御国海岸大筒台場并烽火合図之覚 横長美 一冊 二九

ヤケナイ表大筒御渡之儀御達書 西年 横長半 一冊 二四

ケヘイル筒新張ニ付御下向之節御供立之内 一通 一〇一

蝦夷 図

蝦夷地図 (享和元) 秦■丸 (一三三三と関連あり) 一鋪 二〇〇

蝦夷地図式 (チンブカ諸島之図) 近藤重蔵 寛政二一 一鋪 二五〇

蝦夷地図式 近藤重蔵守重 享和二 一鋪 二五

蝦夷地図 近藤守重 文化六 一鋪 一〇九

蝦夷地図 文化七 一鋪 一三二

健齋改正 今蝦夷地形図 寛政一一 一鋪 一四四

蝦夷国之図 (扇面) 一鋪 二七

自ウルツフ至カムサツカ諸島図 (享和元カ) 一鋪 一三三

(クナシリ島之図) 文化八 一枚 二五

唐太図 25×120 二枚 二五

唐太島クシエンコタン之図 56×120 一枚 二六

エトロフ島御預所之図 40×55 一枚 二六

スツ、・シマコマキ・スツキ領境界絵図 28×41 二枚 二六

高嶋図 53×39 二枚 二四

松前福山ヨリ西蝦夷地宗谷マテ陸通り東西海岸図 竹内甚蔵 28×37 一枚 二四

○松 前 155×265 一鋪 二四

松前之地図 寛政元 122×77 一鋪 二四

松前市中地図 文化三 35×46 一枚 二六

松前福山城下市中図 文化七 105×215 一枚 二六

松前総画面 28×40 一枚 二七

江刺市中地図 文化三 68×150 一鋪 二三

蝦夷島奇観 秦穩丸 寛政一一 28×40 一枚 二七

箱館ノ砂原・阿武多・諸蘭・白老四ヶ所江方角里数書付 美大 三帖 二四

西蝦夷地旅行日記 竹内甚左衛門 文化六 一通 二六

陣 屋 図 美 一冊 二六

松前箱館蝦夷地御奉行所御取建之図 59×87 一鋪 一〇五

附勘定所組頭居所図 享和二 一鋪 一〇五

松前箱館御奉行所図 但朱引之所御建足場所 51×75 一鋪 一〇六

箱館屋鋪并建家坪 84×41 一枚 二五

蝦夷地ソウヤ地理并リヤコタン御陣屋ソウヤ古御陣屋之図 54×100 一枚 二四

北蝦夷ソウヤ陳屋図	41×98 41×100	一枚	二二
公儀ノソウヤ江御渡御長屋図	28×65	一枚	二二
マシケ御陳屋絵図	80×120	一枚	二三
マシケ之図	40×55	一枚	二三
リヤコタン陳屋増築出来図	81×66	一枚	二三
覚添 未年	81×66	一通	二三
リヤコタン陳屋之図	40×54	一枚	二三
リヤコタン御陳屋之図	57×41	一枚	二六
勤番所 図			
砂原勤番所図	28×40	一枚	二〇
江サシ・マシケ・リヤコタン・クシエンコタン勤番絵図	80×91	一枚	二五
江差御固所勤番居小屋之図	54×79	一枚	二四
マシケ越年所勤番居小屋之図	40×28	一枚	二四
北蝦夷地御固所クシエンコタン勤番居小屋之図	40×54	一枚	二六
文化二一			
ソウヤ御固所リヤコタン勤番居小屋之図	59×59	一枚	二〇
文化二一			
蝦夷地御持場図	75×120	一枚	二七
砂原勤番所図式	55×41	一枚	二五
安武多図式	55×41	一枚	二五
諸蘭図式	55×41	一枚	二七
白老出張勤番所図式	55×41	一枚	二六
エトロフ嶋ノ内シヘトロ勤番所取建伺ノ図	28×40	一枚	二六
エトロフ江当春運送之勤番所図	28×40	一枚	二六

北蝦夷地百人詰越年所之図	91×79	一枚	二七
江差遠見番所之図	44×61	一枚	二〇
於松前表ニ堀田撰津守備立見分之図	64×90	一枚	一〇
リヤコタン御普請所之図	55×41	一枚	二三
ソウヤヨリリヤコタンマデノ新道切開之図	42×83	一枚	二三
場 所 図			
リイシリ場所絵図	67×84 79×84	一枚	二三
マシケ場所図	28×117	一枚	二三
マシケ場所風土書	半	一冊	二六
法 制			
幕 法			
禁中并公家諸法度(慶長二〇)	美大	一冊	七五
武家諸法度 寛永一〇・一一	美大	二冊	二三
武家諸法度 延享三		一通	六〇
武家諸法度 宝曆一一		一通	六〇
*御家門系譜 (附家中法度) (文化一四)	半	一冊	四三
公儀御定書 (寛永二二・一九)	美大	二冊	八〇

公儀御定書 寛永二一―寛文八

改覚書 (明曆二一―承応三)

公儀御定書 (寛文四―五)

御定 寛保二

御定書追加

刑法大秘

御仕置筋之儀ニ付御書付 乾・坤

御仕置御定書 寛保二

例 (公儀御刑法秘書) (寛保―天明)

御仕置例書 乾・坤 延享一―享和三

牢屋敷 (寛政七)

寄場 (寛政―文化)

寺社御仕置御定書

御定書

八百石以上江被仰渡 文化一四

服忌令 文政九

供連并長柄傘之儀ニ付触書写 丑年

(津輕信牧宛酒井忠世等連署状) (元和元カ)

御軍役御定書 寛永一〇

美大 四冊 三

美大 一冊 八

美大 一冊 八

美大 一冊 二六

美大 一冊 二九

美大 一冊 三〇

美大 三冊 三三

美大 一冊 三三

美大 一冊 三四

美大 二冊 三三

美大 一冊 三五

美大 一冊 三五

美大 一冊 三六

美大 二冊 四〇

美大 二冊 四〇

横美半半 一冊 一五

横美半半 二冊 一五

横美半半 一通 三三

横美半半 一帖 一五

(歴代公儀御勤方書拔) (寛文三―安永七)

江戸六ヶ所高札之留 明曆元

江戸六ヶ所御高札文言之写 貞享二

外ヶ浜通人馬賃錢増ニ付高札御取立場所書 文化六

公儀御渡ニ相成候賃錢定 (高札案文ノ写) 文化六

藩 法

御条目 (寛文元―延宝五)

御定書 (寛文二―延宝四)

1 家訓上々 寛文二

2 (御広間詰等勤方之覚) 寛文二

3 (御取次役等勤方之覚) 寛文二

4 他適之節火事有之時之覚 寛文四

5 御供役勤候者ニ申渡 寛文一〇

6 (御番之儀之定) 寛文二二

7 喧嘩取扱之覚 寛文二二

8 (御城内御供之時之作法定) 寛文二二

9 下々支配人頭江之申付 寛文二二

10 (御城内御供之時之作法定) 寛文二二

11 (辻番之儀之覚) (延宝二カ)

12 (御門番之儀之覚) (延宝二カ)

美大 一通 一五

美大 一冊 二〇

美大 一冊 二二

文化六 一通 一八

文化六 一通 一八

横長半 一冊 三

美大 一冊 六

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

13	(御広間番御歩行詰番之覚) (延宝一カ)	一冊	美大
14	(御番之儀之定) 延宝四	一冊	美大
15	(御門出入之儀之定) 延宝四	一冊	美大
	御定之条目 寛文二一七	一冊	美大
	御定書 一一七 寛文四一延宝三	七冊	美大
	諸法度・家訓・御門出入・御定書・江戸御屋鋪御定書	一冊	美大
	船之部 上	一冊	半
	山方之部 中	一冊	半
	屋敷方之部 下	一冊	半
	古來供之御定拔書 (寛文一貞享)	一冊	横長半
	御法度之覚	一冊	美大
	切支丹制法	一冊	美大
	御印諸式 延宝九	一冊	美大
	○江戸		
	江戸御屋敷中御定書上・下 (寛文二一延宝二)	二冊	美大
	江戸御定書并覚書	一冊	美大
	江戸御留守役付勤方之覚 延宝八	一冊	美大
	江戸御国交代之御定書 延宝八	一冊	美大
	御発駕前御条目両通之控帳 延宝八	一冊	美大
	御留守中 支配付并住所之覚 延宝八	一冊	美大
	御留守中 御目付江被仰渡覚 延宝八	一冊	美大
	御留守中 御用人江被仰渡覚書 延宝八	一冊	美大

御留守中	御留守居役江之覚書 延宝八	一冊	美大
御留守中	御大納戸役江被仰渡覚 延宝八	一冊	美大
御留守中	金銀請取私之御定 延宝八	一冊	美大
御留守中	御武頭江被仰渡覚 延宝八	一冊	美大
御留守中	御武頭江可申渡御定法・三ヶ所御屋鋪辻番之御作法覚書 延宝八	一冊	美大
御留守中	奥方御掟 延宝八	一冊	美大
御留守中	御奥御番所掟 延宝八	一冊	美大
御留守中	裏御門覚書 延宝八	一冊	美大
御留守中	御表御門覚書 延宝八	一冊	美大
御留守中	年頭差上物之御定 延宝八	一冊	美大
御留守中	御発駕前被仰渡品々之覚 延宝八	一冊	美大
御留守中	江戸御国往来之定書 延宝八	一冊	美大
御留守中	御広間御番中江被仰渡之覚 延宝八	一冊	美大
弘前中往来之面々召連候人数之覚 (延宝九)	一冊	横長美	
(家中法度) 正徳四	一冊	横長美	
(諸行事之際御城内ニ召連候供之定) 天和一宝曆四	一冊	横長半	
御定法之御書付御自筆之写 天明四	一冊	半	
江戸并御国表ニ於テ着服御触書写 (文化五)	一冊	横長半	
(急養子願之儀ニ付家中江御触書) 文化五	一通	一通	

小姓組頭佐々木小大膳役儀ニ付信政公方御渡被
遊候条々写 元禄六

御錠口役動向心得方被仰渡之下書 安永八

御近習小姓動向心得方仰渡之下書 安永八

津輕出羽守家来御城可被差出候旨御書付 寛政五

留守中於江戸表ニ諸廉締合之儀ニ付家老方達書控
渡辺將監請書共 文化四

書役初奥向之面々江表役出会方ニ付心得書
文化一〇

側用人江表役出会方ニ付心得書 文化一〇

用処伺出会儉約方ニ付心得達書 文化一〇

側向江被仰出書 文化一五

御目付動向

御城中并御郭廻諸番所御本当之式

(御留守中諸役勤方ニ付内意伺書)

弘前并在共御成之節心得方覚

(休息部屋火元取締ニ付役中廻文)

役人共出会之節帰之刻限等ニ付心得方達書

御屋鋪前ニ而相変之節之覚

(御朱印渡名代勤方ニ付口達覚)

(先君之御仁徳并御命名を顕彰致度候ニ付告諭書)

表勤之者江御直ニ御尋之節返答心得書

旅人御締合之儀沙汰書

一通 一六三

一通 一六三

一通 一六四

一通 一六四

二通 一六七

一通 一六三

一通 一六三

一通 一六四

一通 一六四

一冊 一五〇

一冊 一五〇

一通 一五〇

一通 一五〇

一通 一五〇

一通 一五〇

二通 一五五

一冊 一五三

一通 一五三

一通 一五三

一通 一五三

一冊 一四九

職制

旧藩職制 工藤主善 (文政九)

旧藩官制 工藤主善 (文政二)

藩治職制

津輕制度略 乾・坤

乾 (食貨・雜稅・官職・兵制之部)

坤 (刑法・地理之部)

御改革訳書 (明治)

御廢止役々并格役准席定 二 (明治)

職制 (明治)

藩治職表

藩庁役人名表

管轄中出張所調 弘前県 明治四

界紙外 藩庁職員録

官祿調 弘前県 明治四

官員々数及分課調 弘前県 明治四

藩治政体書

(歴代重役人名覚書) 未年

総組御代官并手代名前調帳 文化一〇

士大将以下諸士名書覚

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

九通 一四九

一枚 一五〇

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

一冊 一五三

二通 一五〇

一冊 一五三

一冊 一五三

一通 一五三

家中一列

横半半 一帖 一毛

一列御次第

二×一 一帖 二六六

家中諸役次第之儀取調書上

一通 一七三

(郡奉行以下諸奉行并御徒目付足輕目付名書覚)

横長美 一冊 二六〇

足輕目付名書覚

横長半 一冊 二六九

御徒目付名書覚

横長半 一冊 二六六

諸組足輕定メ人数

一通 一七四

勘定所役人有人数調

横長半 一冊 一六一

所々湊并藏方勤候面々名前書 申年一酉年

横長半 一冊 一七五

○勤 用 記

御供役勤候者ニ申渡之覚・下々支配人頭江之申付覚 寛文二一

美大 一冊 八

江戸御留守役付勤方之覚 延宝八

美大 一冊 九

諸色要集 貞享五

美大 一冊 一〇

諸式要集 (元禄一)

横長半 一冊 一三

諸式要集 (元禄四)

美 一冊 一三

御用勤方之格式 貞享五

美大 一冊 一三

御用勤方之格式 元禄二

美 一冊 一四〇

御用勤方之留帳 (元禄一一)

美 二冊 一四

御用取扱并勤方草案 (宝曆一享和)

横美半 一冊 一四

御国勤式御小姓組之頭勤方心得私記 乾

横半半 一冊 一四

安政六

美 一冊 一五

旧藩職制 工藤主善

美 一冊 一五

特撰議員事務条例他(明治九)

半 一冊 三六三

藩 政

藩 史

津 輕 藩 史

津輕前史 (津輕藩祖略記) 兼松成言纂輯

半 一冊 四

津輕旧記類 一一二六号

半 二八冊 五

津輕藩史略 兼松成言編 工藤主善增補

美 一冊 七

津輕藩史 乾・坤 工藤主善 明治二四

半 版二冊 五

津輕記 石井三庵 (宝永八)

半 一冊 三

津輕一統志 桜庭正盈編 享保一六

半 八冊 一

津輕一統志摘要

美 一冊 二

津輕一統史 相坂兵右衛門 明治三九

菊 刊一冊 二

津輕紀譚 小山内建本 弘化四

半 三冊 三

藩史 草稿

半 一冊 八

草業記類 小山内建本 嘉永五

半 三冊 七

本藩古今通観録 (明暦二一延享元)

半 三冊 九

津輕事実考 小山内清隆 (安政六)

半 一冊 三

弘前藩史

旧藩記事 (嘉永六—明治四)

旧藩記事 第一—三 (明治元—四)

弘前藩史 (旧藩記事) 東奥日報切抜

元弘前藩諸記録 (慶応三—明治四)

弘前藩記録拾遺 外崎丈人 (慶応三—明治四)

弘前藩誌草稿 慶応三—明治四

弘藩明治一統志 内藤官八郎編 明治

1 土族卒族名員録

2 神社録

3 天保凶耕雜録

4 県庁録

5 社寺院雜報録

6 函館記聞

7 藩庁録

8 工商雜録

9 土族卒在着録

10 松前志摩守軍事雜漕記

11 珍事録

12 天朝雜報録 明治二八

13 人名録 明治二五

14 奥羽聯合瓦解録 明治五

15 武備録

16 弘城年中行事記

17 勤仕録

(先朝紀略御編纂ニ付諸記録之写)

(弘化四—慶応二)

旧弘前藩情之顛末 兼松 誠 明治八

津軽旧記類増補誤正之儀ニ付建白 藤田貞元 明治一六

青森市沿革史 上中下 青森市役所 明治四二

陸奥評林 佐藤弥六 大正四

津軽史蹟考 藤田貞元 (明治)

藩政一般

弘前城主 津軽信政公上・下 (元和元—元禄九)

越中守 津軽信明公 外崎 覚 (天明四—寛政三)

遠目鑑 四—七 (文政)

藩政御施行ニ付岩間権正俊貞言上懇書 知事宛

○

御用格 二—二四 (文政八—弘化四)

(藩政ニ付服部又市進言書) 子年

和泉守御卒去後初政同様御心添ニ付田安家ノ御書付 慶応二

(西館孤清君ニ対シ旧臣ノ上書) (明治)

王政復古御維新ニ付山田源吾言上書 明治二

半 一册

半 一册

半 一册

半 一册

美 一册

半 合一册

半 二四〇〇

菊 刊三册

菊 刊一册

半 合一册

半 二五九

半 二册

半 一册

半 三册

半 二通

半 四册

半 一册

横長半 一通

一通

半 一册

一通

諸願窺御届留帳 公務方書記 明治一	半	二冊	三五〇	形勢不穩ニ付御用番代井上河内守演達之覚 添状共	二通	三五〇
諸願諸窺諸御届留 公用掛 明治三	半	一冊	三五〇	天下之公議輿論ニ付御奏状写	一通	二四〇
御布告并願伺届・内外公私留 明治二一四	半	二冊	三五〇	薩藩奸徒之者罪状之事他御奏聞状写	一通	二四八
朝廷各省并青森県庁へ願伺届留 明治二一五	美	一冊	三五〇	王政復古ニ付風聞書他維新関係書類 明治元	一綴	二四六
願伺届 明治四	半	一冊	一〇六	○		
御指令・諸願・伺・評議 御家扶 明治二二	半	一冊	三五七	攘夷勅書并春嶽公演達写 文久二	半	一冊 三五六
維新以來薩藩間願伺届風説	半	二冊	三七〇	(長州激徒小倉表江打入之風聞打消し之書状) (慶応元)	一通	三五五
(兩京廻達留) 元治元―明治二〇	横美半	四七冊	三五〇	櫻田騒動一件始末書写	一通	二四九
公辺勤伺并御沙汰御廻状心覚 慶応二―三	横美半	三冊	三元	毛利大膳父子伏罪之儀御札ニ付御廻状写	半	一冊 二六一
公辺向并京都廻状覚 慶応四	横美半	一冊	三〇	(追討被仰付岩国迄之図) 元治元	SSx6	一枚 一〇三
京地御沙汰并勤向覚 慶応四	横美半	一冊	三一	巡 見		
兩京廻達向并勤向覚 明治元―四	横美半	六冊	三三	青森江巡見罷越ニ付達書 寛政六	一通	一六五
家来奥羽出張方御沙汰書付 明治元	二通	二五〇		役人共廻郷之節召連候供人数書并献立書	横長半	一冊 一六六
(朝政御一新ニ付諸御沙汰書写留) 明治一―四	半	一冊	六四	領内見分ニ付御目付内密言上書 桜庭四郎三郎他 慶応一	一通	二五〇
桑名藩朝敵ニ付申渡取締書写	一通	二四三		巡見之節馳走方取締達状写 津軽信明	一通	二〇九
御月番伝奏衆野宮宰相中将殿近衛様江御到來御直書	一通	二五九		東海岸御通行御道書 郡奉行	横長半	一冊 二五〇
王政御一新ニ付太政官達書 (明治元)	一通	二四八		東海岸日記 文久元―四	横美半	一冊 三三
徳川家茂御奏聞書并勅詔写	半	一冊	二五五	西海岸鯉漁書上帳 郡奉行添状共	横長半	一冊 二六一
一橋中納言名代ニ付朝廷より御沙汰之写	一通	二五三		南部 一件		

南部探 索

南部惣家中人数并分限帳 早道添状共 文政四

南部家分限帳

南部家中分限帳

南部御家中役録名前 文政四

南部家中役録名前之儀ニ付藤林屋四郎兵衛之覚口上 城絵図共(文政四)

南部表探索書 早道言上書

南部表御政事向様子見聞覚 石岡太左衛門・工藤千蔵

南部領之図 (文政四)

郡村分ヶ石高帳 工藤千蔵添状共 文政四

風 聞 書

津輕越中守着城御延日ニ付於松前風聞書 添書共 半

南部風説書 辻村善左衛門差出 文政四

1 田名部表大家人数御用金差出覚

2 南部表御用金被仰付覚

3 間宮林蔵野辺地御通行之節伊兵衛事詮議一件

石坂宗哲ノ南部一件ニ付秘書 文政四

秀之進・良助居所之儀并南部家屋敷内取沙汰聞込之覚 文政四

若殿様田安様江御招之節南部一件御取持ニ付笠原八郎兵衛報告書状 文政四

横長半 二冊 二〇六

横長半 一冊 一五六

横長半 一冊 二〇九

横長美大 一冊 一五六

41×29 一冊 一五九

横長半 一冊 二〇八

横長半 一冊 二五三

100×208 一冊 一〇七

横長半 一冊 一五七

一冊 一三三

一通 二〇三

一通

三通

一通

一通 二〇三

一通 二〇六

一通 二〇三

○早道言上書

青森勤番并同所御藏廻御締方見聞言上書 文政四

(早道兩名江戸ノ帰着之節情况言上書 添状共) 横長半 一冊 二〇九

早道之者江戸ノ帰着之節道中見聞書 文政五 一通 二〇一

秀之進・良助江戸江出立ニ付道中筋并江戸表住居之儀聞取書 文政四 横長半 一冊 二〇八

道中不穩之風取調書差上候ニ付高橋越前守宛進達控 笠原八郎兵衛 文政四 一通 二〇六

津輕越中守參観途上南部境ニ而不穩之儀有之ニ付諸方江進達控 笠原八郎兵衛 文政四 四通 二〇九

參観道中一件ニ付笠原八郎兵衛御用状 文政五 一通 二〇五

大作一件吟味并參勤供増ニ付笠原八郎兵衛書状 文政五 一通 二〇四

所替風聞書

南部所替一件之儀ニ付笠原八郎兵衛書状 文政四 一通 二〇五

南部ニ而早目御暇願并因替取沙汰一件ニ付笠原八郎兵衛書状 文政五 一通 二〇五

秀之進・良助御吟味一条并南部所替風聞ニ付笠原八郎兵衛書状 文政五 一通 二〇六

相馬大作召捕

秀之進・良介被召捕候ニ付柑本兵五郎ノ極密内状 文政四 一通 二〇六

秀之進・良助被召捕候儀大竹源藏江相尋ル処申出之紙面 文政四 一通 二〇七

秀之進・良助召取ニ付内密覚 文政四 一通 二〇七

大作召捕ニ付笠原八郎兵衛注進状 文政四 一通 二〇三

相馬大作一件懸合之者名前并住所書拔覺 文政四 半

柑本兵五郎少笠原八郎兵衛宛極密之内狀 文政四 一通 三〇三

南部一条秀之進・良助召捕ニ付若殿様御内意請書 笠原八郎兵衛 文政四 一通 三〇四

*妙見堂建立并大作処刑之儀ニ付笠原八郎兵衛請書 文政四 二通 三〇五

○御 預

大作御預之儀ニ付隱密ノ内々書取貫候仰渡之写 文政五 一通 三〇六

嘉兵衛・徳兵衛御吟味中松平陸奥守家来御預ケ届狀 文政五 一通 三〇七

○吟 味

秀之進・良助并大吉・嘉兵衛等町奉行吟味回答覚写 添狀共 文政五 一通 三〇八

嘉兵衛・徳兵衛少工藤富吉宛書狀 文政五 二通 三〇九

仙台之大吉并秀之進・良助於町奉行御吟味様子言上書 文政五 一冊 三〇一〇

桜田南部屋敷内沙汰并秀之進・良助窄居之様子聞取書 文政五 横長半 一冊 三〇一一

○判 決

町奉行榊原主計頭殿於御役宅大作等罪科申渡之写 文政五 美 一冊 三〇一二

○大吉・徳兵衛一条

(刀鍛冶大吉一条ニ付目明シ忠八尋問狀) 文政四 一通 三〇一三

大吉帰国ニ付工藤富吉宛書狀 文政四 一通 三〇一四

川村屋伝藏刀鍛冶大吉御国元御暇被下ニ付工藤富吉宛書狀 文政四 一通 三〇一五

大吉・徳兵衛帰国一条ニ付大中忠八書狀被下金請取覚共 文政四 三通 三〇一六

刀鍛冶喜七等口書々拔覺 添狀共 半

笠原八郎兵衛 文政四 一通 三〇一七

(徳兵衛口書極密諸方江差上控) 笠原八郎兵衛 文政四 四通 三〇一八

(刀鍛冶徳兵衛口書ニ付笠原八郎兵衛進達控) 文政四 半 一冊 三〇一九

徳兵衛口述之儀ニ付笠原八郎兵衛進達之控 文政四 一通 三〇二〇

刀鍛冶大吉・徳兵衛帰国一条ニ付米屋太次右衛門風説覚書 文政四 横長半 一冊 三〇二一

仙台出生嘉兵衛事喜七出訴ニ付及御詮議候大旨 半 一冊 三〇二二

○ 発端趣意談合之儀ニ付柑本兵五郎少笠原八郎兵衛宛書狀 文政四 一通 三〇二三

間宮林蔵外浜米運送方之儀ニ付笠原八郎兵衛宛書狀 添狀共 文政四 二通 三〇二四

藤田権三郎少間宮林蔵之儀ニ付御内意伺書 文政四 一冊 三〇二五

(在江戸笠原八郎兵衛役向書狀) 文政四 横長半 一冊 三〇二六

笠原八郎兵衛少江戸諸向御用狀 文政四 五通 三〇二七

戊辰戦争

藩 情

弘前藩誌 戊辰役藩情調 美 一冊 一五

戊辰年間旧藩記事 第一 半 一冊 一六(一)

戊辰年間旧藩記事 第二 半 一冊 一六(二)

戊辰年間旧藩記事 第三 半 一冊 一六(三)

戊辰年間旧藩記事 第四	半	一冊	一六四
戊辰年間旧藩記事 第五	半	一冊	一六五
戊辰年間旧藩記事 第六	半	一冊	一六六
己巳年間旧藩記事 第七	半	一冊	一六七
己巳年間旧藩記事 第八	半	一冊	一六八
己巳年間旧藩記事 第九	半	一冊	一六九
旧藩記事 第十	半	一冊	一七〇
庚午年間旧藩記事 第十一	半	一冊	一七一
庚午年間旧藩記事 第十二	半	一冊	一七二
辛未年間旧藩記事 第十三	半	一冊	一七三
(戊辰年間旧藩記事卷尾附録)	半	二冊	一七四
奥羽函館兩役顛末記 (明治二)	美	一冊	一七五
藩情顛末 單 (明治元)	半	一冊	一七六
藩情顛末 明治元	美	一冊	一七八
江戸表形勢并風說道中筋書上	半	一冊	一七九
尺牘聞書覚 戊年	半	一通	一八〇
討南紀略・討北紀略 明治一	美	一冊	一八五
討北紀略 明治二	美	一冊	一八六
伊達陸奥守慶邦津輕越中守宛書状 明治元	美	五通	一八七
佐竹右京大夫義堯津輕越中守宛書状 (明治元)	美	六通	一八九
庄内宣撫一条覚 明治元	美	一冊	二〇七

庄内征討之節佐竹様江応援人数出張覚 (明治元)	横長半	仮一冊	二〇三
大間越出張人数覚	横長半	仮一冊	二〇六
早瀬野出張人数覚	横長半	三通	二〇七
碓ヶ関出張人数覚	横長半	一通	二〇八
小湊出張人数覚	横長半	一通	二〇九
横内村出張人数覚	横長半	一通	二一〇
諸地出張人数覚	横長半	七通	二一四
御加勢申付置候人数覚 仙台侯被差出分	横長半	一通	二一五
南部野辺地表攻撃ニ付手順書 明治元	横長半	仮一冊	二一五
南部野辺地表攻撃ニ付応援人数申付状 人数割共 (明治元)	横長半	二通	二一六
兵馬出張調 地・人 明治元一二	横長半	二冊	二一七
明治戊辰己巳出張履歴 上申部 卷之二 明治四	横長半	一冊	二一六
明治戊辰己巳出張履歴 除之部 卷之一 明治九	横長半	一冊	二一七
明治戊辰己巳出張履歴 除之部 卷之二・三 明治九	横長半	二冊	二一八
修史館家記記載漏脱御尋ニ付返答書 明治一〇	横長半	一通	二一四
御進発万石以下御供之面々江被下御手当銀御書付写 付諸向出立日割之御書付写	横長半	一冊	二一六
会津出兵之御御内論ニ付上申書	横長半	一通	二一六
羽州出張ニ付戦況他届・達書写 慶応三十四	横長半	一冊	二一四
官軍形勢見聞ニ付清水数馬・浅井新九郎会谈模様荒増書	横長半	二通	二一四
近衛公宛岩倉輔相書状 添状共	横長半	三通	二一五

戰爭略記 慶応四

横美半半

一冊 三三六

(戊辰戰爭聞書留) 慶応四

半

一綴 三三三

後拒隊戰況届書 (明治元)

半

一冊 二四四

戊辰出張記再差上候願 明治九

半

一冊 六五

齋藤躰手簿 明治九

半

一冊 三三九

岡兵一手簿 明治九

半

一冊 三三九

鎮 撫 使

於新庄御渡之旗返上之儀ニ付副總督之御書付

慶応四

一通 三六五

奥羽鎮撫總督府之仙台賊兵侵入有之候ハ、討取

可申之義申渡書 慶応四

一通 三六四

(箱館鎮撫副總督沢御通行一件書類)

横長半

二冊 三五八

庄内征討出兵ニ付鎮撫總督府之御達書之写

(明治元)

一通 三四七

奥州兵乱治平ニ付按察使御渡御書付 弘前藩知事

宛 明治一

一通 三三三

奥羽賊徒降伏ニ付国元江凱陣被仰出達書

津輕少将宛

一通 三五九

凱陣帰京之節沢三位礼状 津輕少将宛

一通 三六二

凱陣帰京之節清水谷公孝礼状他 津輕少将宛

箱館表ニ金子御用達ニ付沢為量他連署礼状

津輕少将宛

箱館表ニ金子御用達ニ付沢為量他連署礼状

一通 三六〇

奥羽同盟

一通 三六三

奥羽同盟

会津鎮撫降伏嘆願書并奥羽同盟之儀仙台江出

役中ニ付始末書状 明治元

三通 三四五

奥羽北越同盟軍政總督府之討薩檄文 明治元

存寄書之覚 菊池喜与太郎・工藤与十郎・成田茂左

半

存寄書之覚 菊池喜与太郎・工藤与十郎・成田茂左

衛門

一通 三四七

近衛忠熙之弘前少将宛書状

一通 二五三

仙台公会津征討被仰付候義ニ付朝廷江意見具申書

一通 二五三

仙台ニ而会津征討打入之節重臣書状

二通 二五九

箱館戰爭ニ付會議所之各藩隊長宛達書写

一綴 二五三

東征討伐之儀ニ付津輕左京亮之鎮將府宛御建

白写

覚(会津謝罪一条写) 慶応四

半

(和親之使者被遣候段ニ付南部利剛同意書状)

一通 二五二

探 索 書

七戸表探索之覚 藤田学一 (慶応四)

横長半

一冊 一〇三

七戸其他方々探索図 (慶応四)

美

一冊 一〇三

南地日記之覚 木村源太・藤田学一 慶応四

横長半

一冊 一〇二

慷慨之徒御締付ニ付探索言上書

横美半

一冊 二四四

奥向勤之人々佐幕申唱候義ニ付早道探索書

横長半

一冊 二四七

早道小頭鈴木福次郎・森岡金吾他

横長半

一冊 二四七

山田登一党建白之節不穩之義ニ付早道探索口

上書

一通 二四四

野辺地表探索之覚 藤田学一 (慶応四)

横長半

一冊 一〇三

野辺地表風聞覚書 慶応四

横長半

一綴 二五〇

南藩野辺地出張惣控調 (慶応四)

横長半

一冊 一〇〇

野辺地居役面々覚

横長半

一通 二五七

南部野辺地陣屋并市中之図

41 x 56

一枚 二九三

野辺地絵図

53 x 41

一枚 二五八

水沢口絵図

370×540 五枚 100円

箱館戦争

(松前戦争御届并建白書草稿) 慶応三

美 一冊 二四〇

肥後藩野田大蔵箱館表出張被仰付候ニ付口上書

三通 二五二

清水谷殿ノ箱館表出張人江毛衣被下置ニ付

一通 二四七

函館賊之模様ニ付今別勤番・三既口出張役人

半 一冊 三三九

函館戦争之節東京出立諸船乗船人数覚

(早道書上) 明治元 一綴 二四六

江差通合戦之節手負人数覚(早道書上)

半 一冊 二四六

米国ヤンソン船江差手負人乗船覚(早道書上)

半 一冊 二四六

箱館表様子探索ニ付早道之者御用書覚(明治元)

横長半 一冊 二四一

向地探索之模様覚書(早道書上)

半 一冊 二四七

函館応援兵ニ付清水谷侍従ノ津輕越中守宛依頼

状(明治元) 一通 二四二

函館応援兵ニ付野田大蔵ノ津輕越中守宛依頼

状(明治元) 一通 二四三

隊長名前書上

横長美 一冊 二四四

○死 傷者

二俣山中ニ而手負人数名前覚(明治元)

一通 二四〇

秋田表出張附属御人数戦場功罪并勳向精情書上

横長半 一冊 二五七

戦死埋葬調招魂一件・明治戊辰己巳出張履歴

半 一冊 三三五

上申之部 卷之一 明治一

半 一冊 三三六

戸口

人数改

御領分中人数改覚 天保五

半 一冊 二五六

陸奥国津輕郡之内人数帳 天保五

半 一冊 二五七

陸奥国津輕郡之内人数帳 天保二

半 一冊 二六九

陸奥国津輕郡之内人数帳 弘化三

半 一冊 二九〇

陸奥国津輕郡之内人数帳 嘉永五

半 一冊 三〇〇

陸奥国津輕郡之内人数帳 安政五

半 一冊 三〇一

人別改差出一件 付蝦夷地人数帳 安政五・元治元

半 一冊 三〇二

馬改

半 一冊 三〇三

文政寅卯兩年之式才駒調書 山形基之丞 文政二

横長半 一冊 一八七

毛馬調書

横長半 一冊 三〇三

在馬之覚

横長半 一冊 三〇四

藩校

学校惣地坪并建坪調書

一通 一八八

学校惣構之図

62×57 一枚 一八九

学校惣構之図

88×88 一枚 二二三

学問所分限 文化一四

15×9 一帖 二五五

学問所御用懸名書

一通 二六六

学官之面々被下方惣括覚 寛政二二 横長美 一冊 二〇二

学官員数并御給分定之義ニ付沙汰書付 二通 一八四

学校御用懸御取立ニ付申渡候書付 一通 一八五

学校御用懸名書 横長半 一冊 一八七

学問所業事之覚 一通 一八五

学規 美 一冊 二〇三

御目見以下入学被仰付候面々名前 文政二 横長美 一冊 一八四

入学被仰付候面々名前 文政二 横長美 一冊 一八三

入学開業試業式 半 一冊 一六三

雜

ハルク形船製造ニ付御伺書 絵図添 慶応二 33×44 一通 一八五

ハルク形船乗筋海路 慶応二 一通 一八六

ハルク形船御製造出来候ニ付乗組人数之儀御伺書 慶応二 一通 一八七

藩 財政

収 支

納 払

御在府年一ヶ年調 享和三 半 一冊 二〇六

御在府一ヶ年之調 (文化二一一一三) 半 一冊 一三六

御国内出石大略考量 文化一四 半 一冊 三〇七

*諸廉御規数 文化一五 横長美 一冊 一六七

御算用之控 文政二 横長半 一冊 三〇七

御国江戸上方御役知御役料勤料高調帳 亥年 半 一冊 三二九

御国江戸上方渡調帳 亥年 半 一冊 三三八

侍從様御入用一式調帳 半 一冊 三〇八

月計簿 明治一〇 半 一冊 四〇〇

(金錢出入帳) 明治一五一一六 横長半 一冊 三〇八一

明治三十一年度收支算調 明治三一 半 一冊 二九元

金錢上納并渡廉分調 辰年 半 一冊 三三〇

上納方両御金蔵月々御金錢受払調帳 文化八 横長半 一冊 三六四

御拂方両御金蔵御金錢受払調帳 文政元 横長半 一冊 三六五

上納方両御金蔵御金錢受払調帳 文政二 横長半 一冊 三六六

御拂方両御金蔵御金錢受払調帳 文政七 横長半 一冊 三六七

御山方別段御仕込覚 添状共 三通 一七七

*山方御利益金上納覚 文政二 一通 一七九

有 金 調 印伝算筒入有之候金之覚 津輕信明 寛政元 一通 三〇五

御有金錢大都調 (文化三) 半 一冊 三三〇

御有金銭大都調		半	一冊	三三
御内分御金調 文化一五			一通	一八六
当子年御金賦(文化元カ)		半	一冊	三三
御軍用金調 文化八	横長半		一冊	三三〇
藩札高調帳 弘前県 明治四	美		一冊	三三三
御国共両都御米金賦 (文化元カ)		半	一冊	三五
当子年納御米賦 (文化元カ)		半	一冊	三四
御買入米勘定仕上帳 文化一〇		半	一冊	三三
御蔵米売立代金之覚 勘定奉行 亥年			一通	三〇

御家中軍用之用意米金銭貸付方ニ付被仰付伺書 文政六			一通	一六九
常府御家中御貸附帳 文政七		半	一冊	二〇八
(御貸付米取調覚) 郡奉行 卯年	横長美		一冊	三三
国産方拝借金十ヶ年賦上納覚 文政八			一通	一七三
家禄奉還資金被下方規則書 明治六		半	一冊	三六
拝借金年賦証文 葛西字八郎ノ旧会計局宛 明治六			一通	二九六
御枘材木榎木舞代金年賦上納証文 旧会計局宛 明治六			一通	二九五
伊丹製造酒米借用ニ付年賦返済証文 旧会計局宛 明治六			三通	二四九
函館表外国人借財ニ付借用金証札 明治六			六通	二四三
石炭油製造資金借用証文 溝江伝左衛門ノ御家 扶宛 明治六			七通	二四三
東津輕郡荒川村白取米太郎金子借用証文 工藤得蔵・奥崎太次郎宛 明治六			四通	二九二
借用金引受ニ付書替証文 旧会計局宛 明治一〇			二通	二九六
(公債証書利足調)			一通	三〇二
斗南藩小出吉之助米五千俵貸与方ニ付謝書状写 一町田大卿宛			一通	三〇〇
調達金				
調達金ニ付津輕越中守御直書写 蔵元茨木屋安右衛門宛 安永九			一通	三三六
米借用方依頼ニ付津輕越中守御直書写 鴻池又右衛門・茨木屋安右衛門宛 天明三			一通	三三三

調達金ニ付津輕土佐守御直書寫

藏元稻川安右衛門宛 天明四

一通 三三〇

津輕土佐守信明直狀寫 藏元鴻池又右衛門宛

天明四

一通 三三六

御慶事ニ付新調達金御請書 鴻池又右衛門

(文化四)

一通 一八六

御慶事御用為御備調達金御請書 小山屋吉兵衛・

茨木屋和助・山崎屋与七郎 (文化四)

一通 一八七

御慶事御用之為調達金御請書 茨木屋安五郎

(文化四)

一通 一八六

茨木屋安五郎宛調達金増金額 茨木屋和助

(文化四)

一通 一八六

新調達金御請ニ付演舌之控 鴻池宇八・清八

(文化四)

一通 一八〇

鴻池又右衛門五千両拝借願并拝借事情覚書

(文化四)

一通 一八五

大坂表ニ而御取組金請書 (文化四)

半

一通 一八三

御調達金被仰付候ニ付御請書 塩屋六右衛門・舛

屋宗助・吉文字屋參藏 文政二

一通 一八三

播磨屋仁兵衛・難波屋太助御調達金被仰付候

ニ付御断書 吉文字屋參藏 文政二

一通 一八三

御屋形焼失ニ付普請入用金出銀額狀 鳥羽屋清吉宛

文政一

一通 一八七

御屋形焼失ニ付普請入用金出銀額狀 津輕屋三平宛

文政一

一通 一八七

御普請入用出銀御頼ニ付内意窺書 津輕屋三平・

鳥羽屋清吉宛 文政一

一通 一八七

御普請一式引請出来方ニ付森川五郎八宛頼狀

文政一

一通 一八七

○藏 元

茨木屋安右衛門大坂御藏元再勤被仰付候ニ付御断口上書 天明二

三通 一八三

茨木屋安右衛門安永年間御用達銀高書上 天明一

一通 一八四

(元藏元茨木屋安五郎再御館入ニ付伺書)

横長半

一通 一八六

津輕越中守書狀寫 茨木屋安右衛門宛 天明元

一通 一八三

菅万両講無尽発起ニ付内談并伺書 文化九

横長半

一通 一八三

藏元繰出金等金扱方之儀ニ付大都考量覚 奈良岡教馬 未年

横長半

一通 一七六

○御 用 金

(富田御用金高覚) 高杉勝太郎 文政四

一通 一七五

(御用金納方御請一札寫) 河村太郎兵衛 卯年

一通 一七六

○用 達 町 人

年中用達町人取扱方勘定奉行申出書付 享和三

一通 一八三

昇進ニ付国元町在り冥加金上納覚 文政四

一通 一八四

町人扶持方御引上并被下方何之儀覚書

四通 一八六

掛屋御目見度割 大羽屋喜三郎長煩ニ付御下ケ金歎願書 明治七

美

一通 一八三

○

御家中之面々困窮之儀ニ付桜庭太郎左衛門内情建白書 宝永一・六

横長美

一通 一八四

江戸勝手方困窮之儀ニ付町々取沙汰言上書 小山内清之丞 宝永七

半

一通 一八三

御演説之趣大都覚書 文化五

半

一通 一八三

江戸御屋鋪御締合ニ付笠原八郎兵衛報告書狀
文政四

一通 二〇九

江戸御屋鋪御締合ニ付笠原八郎兵衛報告書狀
文政五

一通 二〇三

御省略ニ付方々様江御断一件
御省略御用懸
小川族・宮沢治右衛門 文政五

半 一冊 二〇九

(藩財政取縮ニ付勘定奉行上申覚)
(家中切米渡増ニ付勘定奉行上申覚)

半 一冊 二〇九

高岡靈驗記
公務并勝手向打続入増ニ付三ヶ年儉約方口達

半 二冊 三三

弘前正四位宛宛家政之儀建白書 有志總代川越
石太郎・七戸仲行 明治一五

半 一冊 二〇四

西館孤清陰国安妨害ノ所置ニ付御家政伺言上書
津縣定吉・津縣薰 明治一五

半 一冊 二〇七

家政改革連署ニ付津縣清温請願書 明治二〇

半 一冊 二〇九

御小納戸

二ノ丸宝有金出入并小納戸扱金認方覚 文化七

一通 二〇九

有金調

江戸小納戸有金高書上 御小納戸役 文化四

一通 二〇七

国元小納戸有合古金調 文化九

一通 二〇九

小納戸金出入并内分有金調 文化二一

一通 二〇三

御小納戸御内分金御有高覚 文政元

一通 二〇九

除金調

(御小納戸役有高改覚書) 亥年

一通 二〇九

御小納戸御除金惣括調 安西助市・小笠原
其母・珍田吉太郎 文化六

半 一冊 三三

御小納戸御除金惣括帳 (文化八)

半 一冊 三三

御小納戸御除金惣括調 (文化九)

半 一冊 三三

取支
御小納戸米差引覚 享和元

一通 一七六

御小納戸米調覚 文政二

一通 一七五

御小納戸米代金調 角田平右衛門 文政四

一冊 二〇八

御小納戸上納金調 新田奉行 文政六

一通 一七六

御小納戸米勘定調 勘定奉行 文政七

一冊 一七六

去未ノ年御登米御小納戸米勘定目録 文政七

半 一冊 三六

御小納戸米勘定目録 文政八

半 一冊 三〇

御小納戸米請払調 平井門次郎 寅年

美半 一冊 三三

御小納戸米大概積書 寅年

美半 一冊 三三

別段米代金惣括覚 小笠原其母 文化一〇

一通 一七五

御国御小納戸米御代金覚 (文政元)

一通 一八〇

御小納戸米元高并御廻米着船調書 文政八

一通 一七五

○年 賦上納
御小納戸米御除金五ヶ年賦上納覚 文化九

一通 一七五

御小納戸米御代金年賦上納之覚 文政六

一通 一七五

御小納戸米御除金年賦上納覚 (文政九)

一通 一七五

小納戸別段米年賦上納金御用所江差出候書付
文政八

一通 一七五

御小納戸米代年賦上納覚

一通 一七三

金錢上納賦之覚 御小納戸金納方 文政元

一通 一七三

○ 払 米

御小納戸御払米代金惣勘調 (文化六)

半 一冊 三四

御小納戸御払米代金惣勘調 (文化八)

半 一冊 三三

御小納戸別段米御払代金御繰出并御有金之覚
文化九

半 一通 一五〇

御小納戸御払米代金惣勘調 文化九

半 一冊 三三

御小納戸米御払代金惣勘調 文政元

美半 一冊 一七三

御小納戸米御払調書 文政八

一通 一七五

○ 買 入 米

別段御買入米代金調帳 文政元

横長美 一冊 一八五

御小納戸別段御除金を以御買上米代錢覚
藤田権左衛門・小笠原其母 丑年

一通 一七三

別段御買入米御有金并松前方合船入用御繰
出年賦上納覚

一通 一八三

別段御米御買入御利益金上納覚

一通 一七九

御小納戸御買入米御除金調 (文政五)

半 一冊 三三

御小納戸御買入米年賦上納之儀ニ付伺書
勘定奉行

一通 一七七

金千兩代御買米調書 竹内甚左衛門

一通 一七〇

南都御廻船江積入候伊勢御供米并鉛御登之事
享和元

一通 一七五

富田御屋鋪御付料米代金御小納戸江差登候書付
文政九

横長半 一通 一七九

* 江戸詰黒石勇吉御小納戸金私曲一件仕置覚

横長半 一通 一七〇

救 恤

夫 食

夫食貸渡方扱向之儀ニ付御内意之覚 郡奉行
文化四

半 一通 一八〇

郡所預御用錢之儀ニ付勘定奉行沙汰書 (文化五)

半 一冊 一八〇

夫喰賦り方之儀覚 郡奉行 (文化一一)

横長半 一冊 一八〇

夫喰米廻船ニ付海上物騒之為鉄砲使用伺書
天明四

一通 一七五

御 田 米

古田米新穀入替ニ付賸物江申付状 文化四
(享保一五年) 宝曆年中田米御触書拔書)

横長半 一通 一七五

公儀ノ御田米被仰渡候書付 文化一〇

横長半 一通 一八〇

江戸大阪御田石ニ付御拝借金員数覚 文化一〇

一通 一八〇

御貯糶并惣御備糶調知行高割并人数割
文化一四

半 一冊 二四

貯米金納申付ニ付調書 勘定奉行 午年

一通 一八三

津輕頼母江在方締合并郷藏貯米山方吟味ニ付
申渡書留 文化一五

一通 一六六

(常平倉取扱方申渡下書) 寛政二二

一通 一七六

常平倉并諸倉之法

美半 一冊 一六六

貯 米 調

困糶高覚	寛政一		一通	一八〇
在国惣人数覚	寛政一		一通	一八〇
在方御備糶調	文化六	横美半	一冊	二〇六
在方御備糶惣調	寅年	半	一冊	二〇〇
御届国元人別調	文化七		一通	一八五
在方 ^引 米	文化八		一通	一八〇
人数引合	書付		一冊	二〇〇
御郡内貯米調	文化八	半	一冊	二〇三
御貯糶高并御蔵調帳	文化一〇	半	一冊	二〇二
御貯糶調帳	藤田権三郎・成田求馬	文政二	一冊	二〇〇
所々御蔵米并御田御貯御備糶大都調	寅年	半	一冊	二〇三
郡々米錢并	在方御備糶惣括	寅年	一冊	二〇六
郡所備糶郷蔵在数調		半	一通	二〇三
総組郷蔵御備糶調帳	郡奉行	文化一〇	一冊	二〇五
惣組御備糶調帳	藤田権三郎・成田求馬	文政二	一冊	二〇三
組備并村備大都調帳	文政二	半	一冊	二〇四
惣組貯糶調帳	文政四	半	一冊	二〇五
組貯村貯調帳	釜漕伊太郎	文政七	一冊	二〇三
諸組村々郷蔵調書上	郡奉行	文化九	一冊	二〇五
老組限貯並老村限貯調帳	文政四	半	一冊	二〇六
諸組村々御備糶高并米積書上	郡奉行	横長半	一冊	二〇四

御備糶組々郷蔵入書上帳		横長半	一冊	二〇九
青森蔵々有米高覚	文化六		一通	一八〇
青森町貯米高并蔵所御尋ニ付申上覚	青森町年寄		一通	一八〇
御郭内并弘前廻御蔵御田御貯糶御有高調	文化八	半	一冊	二〇〇
貯米調帳	文化一〇	半	一冊	二〇四
御貯糶并在町浦々貯米糶調	文化一四	横美半	一冊	二〇五
在町六浦貯糶調	(文政四)	横美半	一冊	二〇五
町貯米錢調	寅年	半	一冊	二〇七
弘前并在浦々御蔵調帳	文化一〇	半	一冊	二〇九
弘前并浦々貯米糶調帳	文政二	半	一冊	二〇四
九浦貯米調	寅年	半	一冊	二〇五
貢 租				
收 納				
御掌鑑		横美四半	一冊	二〇七
田畑高増減大都調	郡奉行	文化八	一冊	二〇七
*御国内出石大略考量	文化一四	美	一冊	二〇七
(田畑分米之詛覚)		横長美	一冊	二〇九
(御収蔵高大都書上覚)	勘定奉行		一通	二〇七

来申年租税出納之賦見込調 弘前県 明治四

美 一冊 三三〇

米金高取調帳 弘前県 明治四

美 一冊 三三〇

当未年租税出納之賦見込調 弘前県 明治四

美 一冊 三三〇

(津軽領内廿二ヶ村収納高書上方御達ニ付
内意書差上一件寛) 寛政五

横長半 一冊 三三〇

領内就御損毛御払米之儀申渡書付

老中松平右近將監が津軽土佐守宛 宝曆六

一通 一八六

当午御収蔵方御検見引高覚 郡奉行 文化七

一通 一七六

田畑御検見引之覚 文政六一二二

八通 三三

年貢段取歩引之儀ニ付執政の口達

一通 二七九

菱田権判官・橋本大主典取調向申談々々

一通 二四〇

諸 役

御印差紙渡井御定役調 文化一〇

半 一冊 三三〇

造酒米石高井御役錢調 享和二

横長美 一冊 三三〇

三御関所口井両浜諸湊出入御役錢調帳 文化八

横長半 一冊 三三〇

両浜井三御関所口諸湊出入御役錢調帳 文政元

横長半 一冊 三三〇

両浜井三御関所口諸湊出入御役錢調帳 文政二

横長半 一冊 三三〇

両浜井三御関所口諸湊出入御役錢調帳 文政七

横長半 一冊 三三〇

津 出

青森・鱈ヶ沢湊口米大豆津出御印代覚 享和二

一通 一八六

青森湊口津出米穀井出入御役錢覚 添状共

四通 一八六

文化五

青森鱈ヶ沢米大豆津出御印御改調 未年

横長半 一冊 三三〇

諸湊出入御役井酒津出御役調 享和二

横長半 一冊 三三〇

廻 米

江戸上方御廻米高覚 勘定奉行 文化四

一通 一七六

御廻米井請負米共平均直段目録 文政五

一通 三三

両都御蔵元江御廻米取扱ニ付被下方調之表 申年 半

一冊 三三〇

御買上米廻船方ニ付伺書 寛政一一

一通 一八三

御廻米江戸表江常用之外ニ増石申付候覚 享和二

一通 一七九

御廻船破船并荷打調書 文政七

横長半 一冊 三三〇

上 ケ 地

津軽伊織上ヶ地御取ヶ井小役米銀窺帳

美 一冊 三三〇

元禄三

津軽伊織上知奥州津軽郡之内小屋敷村・飛内

美 一冊 三三〇

村・馬場尻村・下目内沢村高帳 元禄三

美 一冊 三三〇

陸奥国津軽郡之内小屋鋪村・飛内村・下目内沢

美 一冊 三三〇

村・馬場尻村御成ヶ郷帳 元禄一一(文化七写)

美 一冊 三三〇

(御預り地御帳証文目録) (元禄四)

津軽郡之内所々米井金両替相場目録 平井九八郎・

戸田佐五兵衛・田山藤左衛門・永田作太夫宛 元禄三

(永田作太夫御預り地収納方金納ニ付米銀直段御究

書・勘定所返答書写継証文) 元禄三

(御上知四ヶ村御物成金納他仕置方ニ付窺書)

元禄三 一通 三三〇

(御上知四ヶ村納俵・口米納竹之儀ニ付津輕采女家米覚書) 元禄三

永田作太夫様御手代新庄太右衛門方之遣候免状之写

(保木弥右衛門様并新庄太右衛門之御預地除地等ニ付承合候覚書) (元禄三)

津輕伊織上知物成之儀ニ付津輕越中守家米方之奉願覚 勘定所役人付紙添 元禄三

新庄太右衛門方之米相場書ニ付遣し候書簡 津輕越中守家米宛

立木代之儀ニ付作太夫様御手代新庄太右衛門方之遣し候手紙 津輕越中守家老宛

戸田左五兵衛・田山藤左衛門覚書

新田開発

開発反別調

諸組村々田方荒地申ノ年申出之内酉戌両年開発増減 享和一

去ル亥年之去未年迄田畑開発調 (文化)

当辰年開発反別調帳 藤田権左衛門・野呂助左衛門・角田弥六 文化五

御郡在開発田方調帳 郡奉行 文化六

御通行筋新古開発田方并稻作御見分反別高共調書上 (文化)

去ル亥ノ年之去巳ノ年迄田畑開発調 新田奉行取扱 郡奉行 文化七

開発田畑高反別調帳 開発方・新田奉行・開発方御用懸・開発方郡奉行・開発方引担 文化一〇

赤田・広田両組見取新開田方仮位不相当ニ付並合古田位大都見合上中下々四位相当反別調帳 文化二五

開発田畑年々増高大都調 文政三

享和三年之文政二年迄開発田畑高反別組寄調帳 開発方郡奉行・新田奉行 文政三

開発并増開発共反別調 開発方郡奉行・新田奉行 文政七

当開発田畑調帳 文政八

開発方大都調 安政五

開発高調書 未年

当卯年田方増開発反別調 卯年

開発高分調帳差上覚 勘定奉行 辰年

当未ノ年田畑開発反別調帳 新田奉行取扱

○開発見込反別調

来午ノ年田畑開発大都見込調 福真弥兵衛 (文化六)

御郡在開発残地并新地見立地大場所小場所大都調書 平沢三右衛門 (文化九)

諸組村々之内開発場所大都調書 新田奉行 文政五

来寅年開発反別大都調 丑年

(新開残地手当米并開発見切田方調書)

半 一冊 一六

半 一冊 一六

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

半 一冊 一七

○仕付目録

当田畑開発仕付目録 郡奉行 享和一	半	一冊	一七五
当田畑仕付目録 郡奉行 文化五	半	一冊	一六
仕付増田畑調帳 辰年	半	一冊	二五
諸組村々開發田方之内当荒仕付荒井畑物時付反別帳 文政元	半	一冊	一七
田畑当仕付反別惣調帳 文政元	半	一冊	一六
開發願・申渡書			
廢田開發ニ付懸り之面々江申渡之写 享和二		一通	一七三
滝井袋開發之儀ニ付新田奉行口上覚 繪図添	横長半	一冊	二五
滝井袋開發之図	七×三	一枚	一五
開發場所取究方ニ付木村貞太郎口上覚		一通	一七
荒地開發方ニ付兩奉行支配御用懸名 (郡中開發懸り御用人御取立之儀ニ付建言書) 平沢三右衛門		一通	一七三
(新田奉行御取立ニ付御内意覚) 平沢三右衛門	横長美	一冊	一七九
開發方之面々江被下方之調		一通	一七三
開發不振ニ付建言書 平沢三右衛門		一通	一七〇
開發田方難地御片付御内意伺書 郡奉行・新田奉行	横長半	一冊	一六
新田開發方之儀ニ付御内意上申書 平沢三右衛門 辰年	横長美	一冊	一三〇
見 方			
元禄八乙亥年八月御新田江被遊御成候古記之写 美		一冊	一三

御道書并御見分帳 文化六	横長半	一冊	三九
田畑開發方御見分帳 文化六			
御廻郷之節新開田方杵杵之儀申出覚 新田奉行 文化九		一通	一七七
新田見分ニ付御通行図面次第書 文化二三		二通	一七四
平沢三右衛門申出新田見分所図面 文化二三	七×三	六鋪	一七五
1 一之図 三ノ沢ノ水富村・金木村御泊り所迄之図			
2 二之図 金木村御泊り所ノ福浦村御屋所迄之図			
3 三之図 長とろ掟ノ千貫崎牛瀧村御泊り所迄之図			
4 四之図 筒木坂村ノ藪槌村御屋所迄之図			
5 五之図 丸山村通ノ駒田村迄之図			
6 六之図 下福原村ノ吉見通山田村迄之図			
新開田方之儀ニ付津刈沢見分覚 大鱒組御代官 (高五千石開發方大都御見分覚) 平沢三右衛門ノ開發方御用懸郡奉行・新田奉行宛	半	一冊	二〇三
金木組喜良市山七瀧之内一之瀬図 貴田十郎左衛門 文化一五	七×三	一枚	一〇五
金木組小田川山男滝女滝之図 文化一五	七×三	一枚	一〇六
赤石組種里村御城跡之図 文化一五	七×三	一枚	一〇七
用 水			
広須 須 兩組川々手入之図 文政三	二四×八〇	一鋪	一七六
木造新田			
十三水戸口切替之儀御内意覚 平沢三右衛門 文政六	横長美	一冊	一七〇

開發田方水之儀覺 後藤門之丞

一通 三三

岩木川・平川落合所新留之取立ニ付新開用水取
之大都之図

29×25 一枚 二六

蝦夷館溜池ノ水貫取立候様水下一統之願大都図
新田奉行

88×88 一枚 二六

(開發御手当米并用諸請普料差除キ御小納戸
上納分仮積書) 新田奉行

横長美 仮一冊 二七

入 用

当辰年開發御物入高調帳 文化五

半 一冊 二五

当年御物入開發并則年本納開發調 新田奉行取扱
文化七

美 一冊 二五

開發方御取米納御物入并御小納戸上り内勘大
都調帳(文化八)

半 一冊 二五

開發方御取納米御物入并御小納戸内勘大都
調帳(文化八)

美 一冊 二五

開發御用錢用受弘之節大都調 文政七

横長美 仮一冊 二五

開發諸入用大都覚 文政八

一通 二七

来卯年開發反別御物入共取調大都覚 寅年

一通 二七

開發方諸入用之内年中規数覚 新田奉行

一通 二七

南溜池御普請諸入用調

一通 三三

荒田并空地畑田成当開發反別高御手当米錢大
都調帳 享和三

横長半 一冊 二五

新田奉行ノ差出候御米錢大都賦之儀覚
開發方御困金御繰出ニ付御内々御賞被下方之儀
覚 賞方被下方金先例書共

横長美 仮一冊 二五

○有 金 調
開發有余金納高調 文化一四

一通 二八

開發有金高御宝藏納金調 文政元

一通 八四

開發方御有高御宝藏納調 角田平右衛門 文政二

二通 二七

○除米金請払
子ノ年開發御除米御払代金覚 文化一四

一通 一八

開發方御除米御代金御宝藏納金調 文政元

一通 八四

開發方除米上納金錢高覚 文政二

二通 二七

開發方御除米上納覚

一通 二七

開發方御除米代金覚書付 成田三吾 文政六

一冊 二七

開發御除金之内山方江御下金上納方覚
文政六

横長美 一通 二七

開發方御除米代金受取覚 文政八
(開發御除米代金請取手形) 成田三吾

一通 二七

開發御除米御金調覚 高杉勝太郎

二通 二七

收 納
御取納一紙目錄 鼻和・田舎・平賀庄 文化一二

一通 二七

開發田畑御取納一紙目錄 文化一二

一通 二七

御取納米一紙目錄 鼻和・田舎・平賀庄 文政六

二通 二七

開發田畑御取納一紙目錄 文政六一二二

七通 二七

開發方御取納一紙目錄 文政一一

半 一冊 二五

老ケ年上納高大都覚 享和二

一通 二七

諸組田畑御取納高調帳 文化二
開發田畑御物成調 文化六

横長半 一冊 二五
半 一冊 二八

開発田畑御收納米調	文化二二	一通	一七〇	新田方御收納代金上納覚	富田御屋敷懸役	一通	一七九
開発方去御收納米	御払代錢差引大都調	文化二二	横長半 仮一冊 一七〇	津輕金蔵宛	巳年		
開発方御收納米并受払大都調	文化二三	横長美 仮一冊 一七九		亥ノ年	寅年開発年季明之分当卷ケ年之御收藏	半	一冊 一七九
開発方御收納米并御小納戸金年賦上納調	文化二三	横長美 仮一通 一七〇		高調	文化三	半	一冊 一七九
開発方御收納米受払大都調	文政元	横長美 仮一冊 一七二		寛政一	一年	半	一冊 一七〇
御收納惣括之覚		八通	壹壹	御收納分調	文化四	半	一冊 一七〇
御收納惣括之覚		四通	壹壹	享和三年	文化五年迄年季明キ御收藏高覚	半	一冊 一七〇
(開発御收納米代錢金直し御小納戸上納書)	未年	一通	一七〇	廣須組開発田方	年季明ニ而御收納相濟候分覚	横長半	仮一冊 一七三
文化七	午年	一冊	一七〇	安政五			
御收納米増減書上覚		六通	壹九	(開発方御收納米大都調ニ付御内意之儀口上書)	平沢三右衛門	横長美	仮一冊 一七五
開発御收納高井田畑開発高	文政五他	三通	壹三	〇 払 米			
開発方御收納米錢高井田畑開発反別高覚	付差出候請書 巳年	二通	壹三	二之丸蔵江開発米御払并御印代共請納覚書	文化八		一通 一七六
御收納高井田畑開発大都調	戊年	二通	壹三	開発米御払代調書覚	文化一〇		一通 一七六
御收納惣括并開発田畑反別	津輕監物・頼母	二通	壹三	出穀之内惣御払米代錢御宝蔵納調	(文政二)		一通 一七六
八郎兵衛・津輕多膳宛		三通	壹三	(開発方御收納米御払代錢勘定覚)	開発方奉行		一通 一七六
御收納高井田畑開発高	付差出請書	三通	壹三	新田奉行	丑年		
高倉相模	津輕頼母・笠原八郎兵衛宛	三通	壹三	開発方御米御廻米被仰付候ニ付取扱方并御貯米	金相当割覚	横長美	仮一冊 一七九
御收納高井田畑開発反別	付差出請書	三通	壹三	新田	村		
・頼母	渡辺将監宛	三通	壹三	新村江家数増之儀覚	新田奉行・開発方郡奉行		一通 一七九
御收納高井田畑開発大都	付請書	三通	壹三	藤田権三郎宛	(文政六)		一通 一七九
原八郎兵衛・津輕多膳宛	子年	三通	壹三	新村立并再興村御取建之儀ニ付同覚	新田奉行		一通 一七九
御收納高井田畑開発高反別	付請書	三通	壹三	開発方郡奉行	藤田権三郎宛		一通 一七九
八郎兵衛・津輕多膳	西館字膳・津輕監物宛	三通	壹三	御郡内沢目村々田畑戸数帳	亥年	8x28	一冊 一七九
開発方御收納并開発田畑調		一通	一七九				
御内意去秋百姓共自分開発当年	御收納上納	一冊	一七九				
反別調書	午年						

富田屋敷付開発

富田御屋敷付田方調帳 文政三	半	一冊	四四
富田村畑田成開発場図(文政三)	41×85	一枚	四四
富田御屋敷御付料上納覚(文政六)		一通	一八三
富田屋敷之内開発場出米大都覚 文政七		一通	一七三
富田御屋敷付開発田方取調大都 文政七	半	一冊	一八
富田御屋敷御付料開発田方調書		一通	一七五

新開 図

上磯通新田辺通行之場所開発場所図引差書 平沢三右衛門 文化六	55×82	一枚	一〇六
三馬屋野新開堰筋図(文化六)	28×41	一枚	一〇九
横内組ヒヤウト越図(文化六)	28×41	一枚	一〇八〇
貞享元年 ^の 積年百貳拾七年御地面変化之図 文化七年 ^迄 新田奉行口上覚添 文化七		一通	一〇九〇
木作新田西広森村領常盤池開発之図(文政六)	28×41	一通	一〇五
木造新田新村豊富村領田畑絵図	1003×192	一鋪	一〇六
金木組嘉瀬村領池地開発之図(文政六)	28×41	一枚	一〇九
金木組中柏木・嘉瀬・毘沙門三ヶ村田方新開 場所之図 平沢三右衛門	55×81	一鋪	一〇九
広田組藻川池開発之図(文政六)	28×41	一枚	一〇九
千石菴・田光菴・六百石菴・福井長泥池四ヶ 所開発方御内意之覚 付絵図共 文政四	半 15×70	一冊	一〇八
広田組三ヶ村之内開発図 慶応三	82×120	一鋪	一〇九
三馬屋ヨリ新道菴浜マテ切開ノ図 付打越 菴浜迄道筋之儀覚 貴田十右衛門	82×82	一枚	一〇五

清野袋村領開発之図式

萱菴竿入之図式	28×82	一枚	一〇五
廣菴竿入之図式	41×110	一枚	一〇九
広須組木作新田大川長泥掟井新千貫砂山下夕山 田川穿替之図 文化一三	40×135	一鋪	一〇九
出水之節砂押流十三水戸口図 文政六	33×96	一枚	一〇五
柏木館之内大平ノ沢新溜池ノ図	56×42	一枚	一〇五
横内組戸山堰穿広図 藤田権左衛門	28×39	一枚	一〇五
横内組駒籠村新堰図	28×39	一枚	一〇五
横内組作道村領空地之図	28×39	一枚	一〇五
大鱈組津刈沢之図	28×39	一枚	一〇五
藤代組小友村菅菴田方ニ新開之図	28×39	一枚	一〇五
藤代組種市村用水堰穿替之図	56×40	一枚	一〇六
堀越組取上村新溜池之図	28×39	一枚	一〇六
広田組田川村床兵衛鶴ヶ岡川山菴之内千六百 人役新開申立之図	40×56	一枚	一〇三
赤田組野添村領蓮溜池穿上之図	40×28	一枚	一〇九

産業

農業

諸組村々麦時付反別覚 郡奉行ノ大字左衛門宛 申年		一通	一七六
諸組村々菜種時付反別覚 申年		一通	一七九
諸組村々耕作始終覚 申年		一通	一七〇

黒石打出米井卯時入草代調書 享和三

林業

○林政

山方掛役名前

横長半 一冊 三〇四

(漆木改廻郷見分之覚) 喜多村源八・都谷森甚之丞

横長半 一冊 一六七

御山方御締合存付之覚 添状共

半 一冊 一六六

山方御利益金上納覚 成田三吾 文政二

一通 一七七

御山方御仕込三付一切入用并残物調帳 文政八

半 一冊 一六三

山方御利益金納方覚 文政八

七通 一八四

*御山方別段御仕込覚 添状共

三通 一七〇

楮養録 全 文政三

半 木版一冊 二〇五

○諸木調

諸木植付方覚 山方吟味役 文政元

横長半 一冊 二〇五

当春諸木種蒔付并植付木員数所々江木苗渡方

横長半 一冊 二〇三

杉種御弘共調帳

横長半 一冊 二〇三

流木惣調高之覚 寅年

横長半 一冊 二〇三

諸木苗員数大都調帳 三之御丸井普光寺新楮

横長半 一冊 二〇〇

町三ヶ所樹芸方

横長半 一冊 二〇七

当亥年所々江諸木植付員数并木苗渡方調帳

横長半 一通 一八三

樹芸方ニ而調候立木書上覚 漆奉行

横長半 一冊 二〇五

在割付物御定直段

横長半 一冊 一八六

(文化元・二年杣入出木惣高調)

(来卯杣入出木見込高調)

御山方別段杣取方惣括帳 山方吟味役・メリ役

半 一冊 一八〇

○漆木

御郡内漆木実数調帳 漆方取扱 文政元

半 一冊 三〇四

御郡中漆之覚

横長半 一冊 三〇三

御郡在漆搔木高大都調書上 添状共

三通 一八三

○薪炭

御郡中堅炭釜調覧(文化二二カ)

横長半 一冊 三〇三

御郡中鍛冶炭調覧(文化二二)

横長半 一冊 三〇四

柏木棒炭并俵炭 自文化五 焼出調書 文化二二

至文化二二 焼出調書 文化二二 一通 一八四

柏木炭焼出調書 文化二二

一通 一八四

御郡中年中焚用木数大都書上 勘定奉行・山奉行

横長半 一通 一八〇

焚炭惣調高之覚 二ヶ年分 寅年

横長半 一冊 三〇一

御郡内炭流木高并流失木調書上 御山方 亥年

横長半 一冊 一八五

○竹林

赤石組沢部村浦嶋矢竹林図式 文政五

4.29 一通 二〇七

尾崎村・町居村・新館村・沖館村矢竹林図式

四枚 三二

齊藤良助・前田権右衛門

鈺業 一通 一八六

尾太山銅鉛銀出高覚 文政五

一通 一八六

国元々出銀高調 文政五

一通 一八六

山吹銀出方覚

一通 一八〇

尾太・湯野沢正銀并尾太山吹銀覺 文政六

(鉛御代代上納覺) 文化三

湯ノ沢并尾太山吹銀御預高調 御小納戸役

文化一五

尾太銅鉛山石鉛日々出高并樹芸方諸材木・焚炭出方覺 御山方

湯ノ沢鉛山出銀運上国元小納戸江上納覺書

文政七

湯ノ沢鉛山御役金受取覺 成田三吾

尾太山鋪内之図 文化二三

從弘前至尾太銅山行程之図

国産

御国産品書上 文政七

国産方御尋ニ付吉沢莊太夫返答書 文政七

*国産方拝借金十ヶ年賦上納覺 文政八

国産方年賦上納金受取覺

国産穿鑿被仰付候ニ付返答覺書 文政二

産物有品調 弘前県 明治四

国産興業勸請趣意書

弘前興業社事業沿革 明治一一

○紙

紙御藏有物帳 勘定奉行 文化二

紙御藏并学校御買下諸品調帳 文化二

○人 参

横長半 一册 一六六

一通 一八五

一通 一八七

横長半 一册 一八六

四通 一八八

二通 一八三

一枚 一〇七

一枚 一〇七

104×80 一枚 一〇六

半 一册 一〇七

一通 一〇七

一通 一七三

一通 一七三

横長半 一册 一八三

半 一册 一八三

美 一册 二〇九

美 一册 二〇九

美 一册 二〇九

美 一册 二〇九

美 一册 二〇九

美 一册 二〇九

町在ノ差上候冥加金請弘覺 高杉勝太郎 文化五

人參請取高覺 成田藤助・高杉勝太郎 文政四

人參代料請弘覺 成田藤助・高杉勝太郎 文政五

○塩・鯉

金木・赤石兩組一ヶ年塩竈焚出方大都調

角田弥六 享和三

去当年子鯉調并養方書上 平沢小作 文政九

軍 事

軍 役

軍 役 帳

軍 役 帳

軍 役 帳

*軍役御定書 寛永一〇

人数并道具之覺 天和三

新編御軍役帳

軍役凡例并役制人数割 卷 文化八

軍役 式ノ四 文化八

旗本備人数積 五 文化八

旗本武器調 六 文化八

旗本小屋積并小屋割 七 文化八

旗本兵粮積 八 文化八

一番手三十騎一備人数積同武器調并兵粮積

文化八

横長半 一册 一〇六

一通 一八六

一通 一八六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

一册 二〇六

軍役帳

軍役凡例并役制人数割 壹

軍役 二〇四

旗本備人数積 五

旗本武器調 六

旗本小屋積并小屋割 七

旗本兵糧積 八

一番手三拾騎一備人数積同武器調并兵糧積

同小屋割 九

旗本相驗 拾

諸手相驗 拾壹

御軍役 上・中・下

御軍役 上・中・下

御家武器帳

(御鉄炮調帳)

御武器藏御武器諸品帳面他

兩御藏諸色帳面

御広間并御門拾壹ヶ所御道具帳面

御城付藏御武器諸品帳面

浦々并所々脇道御番所御道具帳

御城付藏御刀御脇指帳面

御城付藏青森在番御道具帳面

美大 一册 六五

美大 三册 六五

美大 一册 六五

美大 一册 六五

美大 一册 六五

美大 一册 六五

美大 一册 六五

美大 一册 六五

美大 一册 六五

美大 三册 六五

武器帳

御武器藏御鉄炮帳面

御城付藏御弓帳面

諸御物頭江相渡御道具帳面

御城付藏御劍・御長刀・三道具帳面他

兩御藏從御家中上具足帳

御櫓御道具帳面

御武器藏御具足・御劍・御長刀・刀脇差・帳面

江戸御武器御馬具帳 宝曆七

御武器帳 宝曆七

御武器請取帳 宝曆八

御武器帳 宝曆八

御根帳外品帳 文化四

御武器帳 文化四

御射具調帳 未年

御武器調帳 未年

御番所・御武器調帳 未年

浦々・諸組 御武器調帳

所々御番所・御武器調帳

浦々・諸組渡 御武器調帳

御預御武器帳 御小姓組頭 (安永五)

御本城御矢倉江入候 御武器帳

壹番手三拾騎壹備人数積・同御武器調

御道具員数覚 江戸御武器奉行 文政二

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 二册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

美 一册 六五

海辺通武器備調帳 文化五

青森御飯屋御武器帳

旗之紋・幕之紋・家之紋 津輕越中守差出
寛政二・弘化二

御旗奉行二組渡御武器

農兵人数調覚

横美半 一册 三三

横長半 一册 一〇〇

美大 三册 九〇

横長半 一册 九九

一通 三三

備立

相驗帳

御相驗仕向帳 文政五

諸手摺驗図式 文政五

諸手摺驗 文政五

旗本摺驗 文政五

旗本摺驗図式 文政五

御合驗帳

御合印帳下書差上候義覚 御備方 天保三

城付総驗帳 天保三

城付惣驗図(天保三)

江戸組備驗帳 天保三

江戸組驗図(天保三)

御相驗帳

美 一册 三六

美 一册 三六

美 一册 三六

美 一册 三六

美 一册 三六

一通 三三

一册 三三

一册 三三

一册 三三

一册 三三

大坂詰合諸役人御相驗帳 天保一四

旗本総相驗帳 天保一四

城付総相驗帳 天保一四

諸手総相驗帳 天保一四

江戸組総相驗帳 天保一四

御相驗仕向帳 天保一四

御驗付

旗本之驗 一

旗本備之驗 二

家中摺之印 四

手廻五組之驗 五

馬廻七組之驗 六

城付摺驗 七

摺足輕組合之驗 八

(相驗帳)

旗本備相驗

江戸組備驗

城付之摺驗

諸手之摺驗

兵糧并武器

人付

武器図式

美 一册 八六

美 一册 八六

美 一册 八六

美 一册 八六

美 一册 八六

美 一册 八六

半 一册 八三

半 一册 八三

半 一册 八三

半 一册 八三

半 一册 八三

半 一册 八三

半 一册 八三

半 一册 八三

美大 一册 三三

美大 一册 三三

美大 一册 三三

美大 一册 三三

美大 一册 三三

美大 一册 三三

美大 一册 三三

美大 六册 三三

三段三所勝鬨之図

於上野御陳立御書物 文化五

49×17 一枚 二六七

御備之動 文化五

美 一冊 二〇九

高覽御備行列帳 文化五

橫長美 一冊 二二〇

御當日御城中之御行列 文化五

橫長美 一冊 二二二

高覽御備之御人数割 文化五

橫長美 一冊 二二三

今度御備高覽ニ付法度 文化五

一冊 二二三

御陳立御習之節御酒御吸物被下置候面々覺
文化五

橫長半 一冊 二二四

御備場小屋懸之図 文化五

50×38 一枚 二二五

行軍御押前為御試御成一件 慶応元

半 一冊 一九四

文武奨励

江戸表之手廻・馬廻組頭江武事励ミ方達書控
寛政九

一冊 二六五

武芸師範之面々登城之上出精方申渡書 文化七

一冊 二六九

奥向之面々江文武稽古励ミ方申渡シ之控 文政七

一冊 二七〇

表一同江文武稽古励ミ方申渡シ之控 文政七

一冊 二七三

組頭并禄五百石以上江文武稽古励ミ方申渡シ之控
文政七

一冊 二七三

御家中芸道上達ニ付御目付之御賞方願書
慶応二

一通 二七六

文武稽古之儀ニ付組頭并禄高之面々江御家老相
渡候口達書

美 一冊 二〇四

(土風一振ニ付建言覺) 文化九 貴田十郎右衛門他

半 一冊 二七六

武芸出精之面々(文化九)

橫長半 一冊 二七三

文武修行工夫書 酉年

二冊 二六九

炮術精励并御家中歩引御返等被仰渡候ニ付工藤
嘉左衛門上書

半 一冊 二七三

軍国之重事ニ付当節御所置之次第御尋ニ付返答覺
山崎所左衛門

橫長半 一冊 二七六

海防

海国御備ニ付領内ニ御奉行所御建一件請書
寛政五

一冊 二六〇

海国御備ノ為津輕領内奉行所取建ニ付一部所替
之儀御書付写 寛政五

一冊 二六一

海国御備之為公辺奉行所設置ニ付村替之儀口上書
寛政五

一冊 二六四

(領内海邊通十七ヶ村村調ニ付取納高書取控)
寛政五

一冊 二六九

(海国御備向ニ付領内村替御内意書) 寛政五

一冊 二六八

イギリス船浦賀沖着船之儀ニ付馬場左十郎聞取書
文政元

一冊 二七九

外浜并西浜御固御人数割 (文化四)

半 一冊 二〇六

外浜并西浜御固御人数名前 (文化四)

橫長半 一冊 二〇七

外浜通御固御用被仰付就罷下候途中行列書
(文化四)

橫長半 一冊 二〇八

黒石領平内表固メ人数書 (文化四)

一通 二〇九

津輕越中守家来江在々覺 松前詰人数割合書共
堀田撰津守

一通 二〇九

津輕三十郎領分小湊固人数割

一通 二一一

大番頭供立

一通 二一七

長崎にて魯齋巫人江被仰渡覚	文化二	半	一冊	二五五
当節夢物語 卷之一二三	文化二	美	一冊	三五五
長崎の国 (文化五)		88 x 88	一枚	二八六
文化五戊辰八月渡来エゲレス軍艦之図	文化五	88 x 88	一枚	二八五
(異国船之儀ニ付江戸表御届ニ相成候案文)		半	一冊	六〇六
御名家来河合勘兵衛指出	文化八			
イギリスノ船相州浦賀ニ着船ノ節積物覚		28 x 88	一枚	二八七
船図共	文政元			
魯西亜国官名位階比覽		58 x 88	一枚	二五九
御目付役設楽岩次郎様仏英心接伺之儀ニ付書付			一通	三四三
異国人風説		半	一冊	六〇七
阿蘭陀船ノ差出候別段風説書	御添書共	半	一冊	二二三
別段風説書	安政二	美大	一冊	二三〇
囑蘭告密	完	弘化二	一冊	三三〇
兵庫開港条約履行之儀ニ付徳川慶喜建言書写		半	二通	三五五
兵庫開港之儀条約変更ニ付徳川慶喜奏(伝書写)	(慶心二)		一通	三五五

武 学

兵 法

山 鹿 流

制法 山鹿高基・高益遺弁

大極之図 (山鹿素行惣伝受之図) 書付共 延宝七

半半 一冊 三三三
88 x 88 一枚 三三三
横半半

相伝目錄覚書	辰年(延宝八カ)	横長美	一冊	三三三
伝授目錄写并同覚書	山鹿八郎左衛門ノ津軽玄蕃宛		二通	三三三
延宝八				
采幣伝	山鹿八郎左衛門高美ノ寧親宛上書		一帖	三三九
文化四		28 x 10		
大将三の采幣口伝		横美半	一冊	三六〇
古老伝	主本之卷	半半	一冊	三六二
古老伝	撰将之卷	半半	一冊	三六三
古老伝	用土之卷	半半	一冊	三六四
古老伝	席段之卷	半半	一冊	三六五
手鑑	一八 山鹿八郎左衛門高補奉伝	半	二冊	三九三
大星秘伝書	山鹿高補ノ津軽寧親宛	88	一卷	三九三
四縁(目錄)	山鹿高補ノ津軽寧親宛	88	一卷	三九三
四縁	山鹿高補ノ津軽寧親宛	88	一卷	三九五
竜丸・蛇反備法之事	文化一四	88	一卷	三九六
拍子	山鹿高補ノ津軽寧親宛	88	一卷	三九七
(兵学道統記)	山鹿高補ノ津軽寧親宛	88	一卷	三九七
押前并小備図	山鹿高補ノ津軽寧親宛	88	一卷	三九七
(十二病門目錄)	山鹿高補ノ寧親宛奉書	19 x 10	一帖	三九八
二軸之伝	山鹿高補奉	横美大半	一冊	三九七
(賓礼・客戦・主戦等ニツキ信政草按)				
山鹿素行点削	辰年		一通	三七三
三合戦備練代	岡本運八		二通	三七九
八行陣練代	岡本運八		一通	三七八
方ノ本覚	岡本運八			

(三重伝詳解) 岡本運八上書

兵法大事目録 岡本運八

三重伝

兵機全集 上・中・下 享保五

武者分品々 山鹿高基・高益遺弁

小幡景憲先生松山貞申先生江被送別伝許状之
文写 山鹿高補津輕寧親宛 文化一四

一 刀 流

一刀流兵法十二ヶ条 小野次郎右衛門忠於津輕
越中守宛 貞享三

一刀流兵法假名目録 貞享三

一刀流兵法割目録 元禄二

一刀流兵法本目録 小野忠於津輕越中守宛
元禄二

一刀流兵法免状 小野忠於津輕越中守宛
元禄三

一刀流兵法假名目録 小野次郎右衛門忠喜那
須与一宛 天明八

一刀流兵法十二ヶ条 小野忠喜津輕土佐守宛
天明八

一刀流兵法十二ヶ条 小野忠喜津輕土佐守宛
天明八

一刀流兵法本目録 小野忠喜津輕土佐守宛
天明三

一刀流兵法本目録 天明八

一刀流兵法稽古場免許状 小野次郎右衛門山鹿
次郎作宛 文化八

私捨刀御伝受ニ付誓言状写 那須与一小野次郎
右衛門宛 午年

美半 二册 三七五

美半 一通 三七六

美半 一册 三七四

美半 二册 三六〇

美半 一册 三六〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一通 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一卷 三九〇

美半 一通 三九〇

美半 一通 三九〇

たより草 山鹿次郎作高厚 文政一一

新陰流兵法之書拔書 柳生十兵衛三敵 承応三

岩崎キ流軍用覚書 酉年

築 城

山本勘介晴幸兵法大星目録 津輕將監政実の
津輕出羽守宛 元禄四

山本勘介晴幸兵法大星目録 津輕將監政実の
那須与一宛 元禄四

大星相伝覚書 津輕政実授 元禄四

大星目録御相伝覚書 元禄五

山本勘介晴幸兵法大星目録 明和五

山本勘介晴幸軍法伝授目録 山鹿八郎左衛門
高補の津輕寧親宛 文政五

城築規範 全 貴氏元親序 寛文一一

二苦下(二十五万石持国主居城繩張之事) 佐藤八郎
兵衛尉書 寛文一一

城取繩張相伝目録(曲尺) 貴田忠吉郎 明和五

山本勘介流城築繩張(平山城) 相馬宗兵衛 天保二

城築繩張 御馬廻七戸勝三郎

勘助流城築繩張 御小姓組岡本福馬

山本勘助流城築繩張 御馬廻薄田勇次郎

山本勘助流 城築繩張 御使番牧野藏人

山本勘介流 城築繩張 御中小姓对馬利吉

山本勘介流 城築繩張 御馬廻神庄左衛門

城築繩張 御馬廻神庄左衛門

半 一册 三七〇

美 一册 三七〇

美 三通 三七〇

美 一通 三九〇

美 一通 三九〇

美 一通 三九〇

美 一通 三九〇

美 一通 三九〇

美 一卷 三九〇

美 一卷 三九〇

美 一卷 三九〇

美 一卷 三九〇

美 一册 八五

美 一册 三九七

美 一卷 三九〇

美 一枚 三九〇

美 一枚 三九〇

美 一枚 三九〇

美 一枚 三九〇

美 一枚 三九〇

美 一枚 三九〇

美 一枚 三九〇

美 一枚 三九〇

城築繩張	勘定人棟方良作	49×49	一枚	三七七	與義秘伝(兵法神武雄備集)	半半	一冊	三七九
城築繩張	御使番格山奉行手伝出町安兵衛	88×88	一枚	三七三	兵法神武雄備集與義 全	美	一冊	三七〇
城築繩張	御使番格高杉久藏	81×85	一枚	三七三	大星伝受大事口決	横美半	一冊	三七三
城築繩張	御馬廻岩瀨八郎左衛門	82×84	一枚	三七四	武功百ヶ条	美	一冊	三七三
城築繩張	御小性組岡本福馬	98×110	一枚	三七五	八極 天和二一 元禄四	横美半	一冊	三七五
城築繩張		49×54書	七枚	三七六	三極 貞享二	横美半	一冊	三七六
山本勘助流城築山城繩張百城	御中小性佐藤金作		二綴	三六七	(兵源覚書) 丑年		三通	三六九
山本勘助流山城百城	御中小性芹川茂左衛門画	美大	一冊	三〇三	将監伝授 微止覚書物数 六 貞享四		一綴	三〇四
御城繩張之図	津軽寧親加筆	122×171	一枚	三〇四	親武者七手之礼法并行軍和歌	美半	一冊	三〇九
城取秘伝五之曲尺	岡本運八 享保三		一通	三〇七	武功品々(縄ヲ掛ケタル武者七手之掛弛礼法之事)	美	一冊	三〇〇
築城營陳兵家之大業	山鹿八郎左衛門高補	85	一卷	三〇九	備ヲ定ル心得之事	美半	一冊	三〇九
津軽寧親宛 文化一四					侍用武功之内 (義・不義 忠・不忠之事)	横美半	一冊	三〇九
城取小口寄 (武教全書城築之虎口品々)		88	一卷	三二七	組頭一手変正之戦法 文政五	美	一冊	三二七
○兵法 覚書								
兵法覚書	延宝元一 元禄三		一三綴	三三三	不審問答之事	横長美	一冊	三三〇
(兵学御相伝覚書)	津軽信政伝授 元禄七	横長美	飯一冊	三六九	微妙至善之伝	半半	一冊	三六九
			二通		八陣応変御書物	美半半	一冊	三六〇
将監伝受大事伝来覚書	元禄九		一通	三七六	粗五段ノ伝	美	一冊	三六八
兵法大事目録	浅野不白長俊と津軽信興宛 正徳五	24	一卷	三七五	虎之巻(兵家)	半	一冊	三六八
兵法伝授之聞書	信政伝授 午年		一通	三〇五	撰将ヨリ撰功マテ	横長美	一冊	三六八
伝受之事(三宝三天之伝)		半	三冊	三六九	(兵法器具之弁御筆聞書)		一綴	三七四
軍法口伝之部		美	一冊	三七〇	五行座備之巻目録 貴田元真 元禄二	半	一冊	三七六
自得與義(兵法神武雄備集)		半	五冊	三六〇	五行座備之図	122×17	一卷	三七〇

御備図 42×56 一枚 二七四

(廻備・迎備図) 岡本運八 一通 二七〇

軍配図 32×23 二一枚 二七三

(軍配方位図) 26×32 六枚 二七四

三重円図 添状共 甚五左衛門秘伝 59×68 一枚 二七七

訓閲集拔書 津輕信壽 一冊 二七三

孫子作戦覚書 一綴 二六五

兵 書

兵 書

兵法雄鑑微妙 津輕信政 天和二 二冊 二六二

兵法雄鑑微妙 抄 津輕信政 貞享三 一冊 二六三

兵法雄鑑止善 抄 津輕信政 貞享四 一冊 二六四

雄鑑 政実講説 子年 横長美 一冊 二六四

雄鑑五戦聞書 午年 横長美 二枚 二六六

雄鑑物見武者武功之事他 一綴 二六三

雄鑑斤侯聞書 午年 横長美 一冊 二六六

格致集 延宝四 横美半 六冊 二七三

百結事類 上篇総目 美 一冊 二六三

百結事類 上篇一―百十五 美 四九冊 二六三

百結事類 下篇総目 美 一冊 二六四

百結事類 下篇一―百十五 美 四九冊 二六五

兵法要鏡録 全 半半 一冊 二七三

極秘用図 津輕信政写 延宝七 一通 二六四

極秘妙書 信政直書 延宝八 横長美 一冊 二六三

手鏡要録 上・下 巳年 美大 二冊 二六四

二苦 上(甲陽之当首武田信玄公御軍法) 佐藤八郎兵衛射書 寛文一三 美 一冊 二六六

軍敗拔書 (甲陽軍鑑) 四之卷 半 一冊 二六八

品々書物書写之覚 (山鹿素行兵書類) 寛文二二他 一綴 二五〇

江府在之武書目錄 横長美 一冊 二六九

武教全書 写 体孝院筆 安永五 横美半半 五冊 二六二

武教全書 写 一之上 美大 一冊 二六三

武教全書 一之上・下 美 二冊 二六四

武教全書 半 八冊 二六五

武教全書 付奥秘之事 横美半 一冊 二六三

武教全書註解 写 山鹿左中上書 美半 三六冊 二六四

武教全書ヶ条伝目錄 横長美大 一冊 二六六

全書簡条伝 全 文化二(寛文二写) 半 一冊 二六五

従序段謀略迄之綱目 一通 二六〇

従知略序段一篇之綱目 一通 二五〇

(武教全書綱目) 横美半 一冊 二六三

武教全書拔書 練陣 美半 一冊 二六八

武教全書開書清書

武教全書開覽

全書(武教) 覚書 将監・藤介講談 信政直書
(貞享三)

兵法(武教全書) 覚書

武教全書覚書 将監 辰年

全書覚書

全書開書

懷宝(武教全書抄録)

三重目錄

斥候開書 未年

客戰開書 午年

蒙学集 一七八

武教小学・武教本論 山鹿素行 明治四三

武教小学

武教本論聴書 全

武教講録 明治四三

伝秘武教全書 条伝書 牧野家本

家伝至宝

兵書開書

武学覚書

武 具

美大

美

三四通

一綴

一綴

一綴

一綴

一綴

四冊

一卷

二通

二枚

八冊

刊一冊

一冊

一冊

刊一冊

一冊

六冊

一綴

一冊

横長美

二冊 三三三

三冊 三六六

三四通 三六二

一綴 三六六

一綴 三六三

一綴 三九〇

一綴 三〇四

四冊 三〇七

一卷 三六三

二通 三〇三

二枚 三〇〇

八冊 三六六

刊一冊 三六〇

一冊 三六五

一冊 三六五

刊一冊 三六四

一冊 三六〇

六冊 三六〇

一綴 三〇〇

一冊 三六〇

横長美 一冊 三六〇

津輕信明御武具覚書

御武器沙汰書之覚 山鹿八郎左衛門差出伺状共
(文化五)

武器制作申渡書付 文化五

*武具図式

甲 胄

津輕三十郎 御甲胄之覚 文化五
江遣候

太刀屋九兵衛所持甲胄控 文化八 石版

領内備立内習ニ付甲胄御用之儀御伺書 伺濟状共
津輕大隅守坂田備中守宛 天保一四

甲胄之図

余談 甲胄ノ篇抜書

(甲胄並具足用方図)

甲胄品書

御甲制作名前
御半頼

鎧

鎧伝来奥秘卷

御輿御預之覚 御小姓組頭差出 明和九

鎧直垂図

銃 砲

御銜筒賦御尋ニ付申上覚 文化五

鉄砲大筒出来并年々出来高書上 对馬瀬兵衛差出
文政一一

一通 三三〇

一冊 三〇一

一通 三〇三

六冊 三三五

一通 三六九

一通 三六九

一通 三六九

一通 三六九

一通 三六九

一卷 三九七

一冊 三六六

一冊 三六三

一卷 三六六

一通 三〇一

一冊 三七一

一冊 三〇四

一枚 三三三

一冊 三六〇

一冊 三六〇

横長美 一冊 三六〇

一通 一九三

火繩銃繪図 (幕末)

馬具

馬具之卷 津輕信信政直書

御馬具請取帳 宝曆八

二ノ丸御馬屋御馬具書上 文化四

三御馬屋御馬具諸品覚 文化四

度量 (鞍ノ事)

謀知計

御鞍入記

伊勢貞泰作鞍御讓替覚

*御小納戸并御馬屋江御預ケ御馬具之調

(御馬鉄炮ノ儀ニ付申上覚) 服部又市 子年

鍔

猩々緋鉋袋并鍔印数覚 御武具奉行差出 文化九

御矢槽間数并矢挾員数書 文化七

矢倉惣図

矢倉指図

竹矢籠ノ図

雑

武具長歌

旗由緒書

付太刀研之証状 午年

二枚 二五八

一冊 二七六

一冊 九五

二冊 二〇九

三冊 二〇〇

一冊 二七六

一冊 二七六

一冊 二七六

一冊 二七六

一通 一九六

一通 一九九

一冊 二〇三

一通 二七三

一通 二七〇

一枚 二七五

四枚 二七六

一枚 二五二

一帖 一〇三

一冊 二五三

劍術

宝蔵院流紅之書 宝永三

緯糸 一—四

弓術

初勘之卷 本問民部左衛門匡隆伝授 元禄一五

中王之卷 本問民部左衛門匡隆伝授 宝永元

父母之卷 本問民部左衛門伝授 宝永元

後勘之卷 元禄一五

鳴弦之卷 本問民部左衛門匡隆伝授 宝永元

三ヶ大事 宝永二

弓道物語 宝永三

忘日 宝永三

二字之灌頂 宝永四

自分ノ矢束之覚 宝永四

正月元日早且鳴絃之事

鳴弦之卷 一戸三之助宗明伝授 享保三

雪荷当流誕生引妻次第 勝本水右衛門尉勝清伝授

享保四 弓神道鳴弦引妻之卷 勝本水右衛門尉勝清伝授

一卷 二六六

一冊 二六三

一卷 二七三

一卷 二七三

一卷 二七四

一卷 二七五

一卷 二七一

一通 二八七

一冊 二八五

一通 二八五

一通 二八四

一通 二八〇

一通 二八四

一卷 二九六

一卷 二九六

一卷 二七七

許状 勝本水右衛門尉勝清の津輕太守公宛 享保二二	18	一卷	二九七
日置流射術目錄(三六ヶ条) 勝本水右衛門尉勝清の津輕太守公宛 享保一二	18	一卷	二九七
日置流射術目錄之事(二八ヶ条) 勝本水右衛門尉の津輕太守宛 享保一二	18	一卷	二九〇
日置流講談覺書 勝本水右衛門伝受 享保一三	横長美	一冊	三六七
堯王のの書(雪荷当流) 勝本水右衛門尉 寛保三	半	一冊	二九三
(射形目安五十七ヶ条口伝書) 天明八	美	一冊	二九八
拍子 山鹿八郎左衛門高美の那須与一宛 寛政二	18	一卷	二七〇
射法要録 小笠原鉄之丞信順 嘉永二	19	一卷	二七〇
(騎射法覺書)	横長美	一綴	二九〇
射形直之目安 第一・二巻	19	二巻	二七五
射術直之書内伝	19	一卷	二七〇
弓道口伝抄 藤家一流口伝書	半	四冊	二七五
弓術指所 宝永二		一綴	二五三
本体并起倒天巻之事 鈴木清兵衛・藤原邦之の那須豊太郎宛 安政五―六	18	一卷	二五五
本間民部左衛門覺書		三通	二五三
斉子射書 豊相遺旨	半	一冊	二九〇
花串的之式	美	一冊	二九〇
弓書	半	一冊	二九一
鳴弦口伝書	半	一冊	二九〇
弓伝来之次第		一通	二六四
弓歌 勝本水右衛門差出 (宝永二)		一通	二六四

馬 術

近 授 流

近授八形書 乾・坤 延宝三	美	二冊	二八五
近授流乘形免許状 延宝三	22	一卷	二八六
近授流乘形手綱目錄 延宝三	22	一卷	二八六
乘形免許状 延宝三	22	一卷	二八五
(馬術伝授書) 延宝三	22	四巻	二八六
近授流馬術起請文 津輕信政血判 長崎儀左衛門宛 元禄八	22	一通	二八九
近授流馬術起請文 津輕信重血判 元禄八		一通	二九〇
近授流起請状前書		一通	二九三
近授流馬術誓約之事		一通	二九一
(馬術覺書) 元禄六一〇	16	三巻	二五五
(馬術口伝秘書覺書) 津輕信政直書(元禄九)		六通	二八〇
九之三巻 津輕信政直書 元禄一〇	半	一冊	二八四
十七難 津輕信政直書 元禄一〇	半	一冊	二八五
免許状(秘密之位) 元禄一五		二通	二八九
近授八形之書 元禄一五		一通	二九〇
八形之書 元禄一六		一通	二九三
(馬術口伝之書) 元禄一六		繼一通	二九三
近授八形之書覺書 元禄一六	横長美	一冊	二九四

近授乘方之書覚書 元禄一六

近授流覚書

近授流馬書聞書 長崎儀左衛門伝授

馬書(八形) 元文五

分配組(鞍之手分支配手組)

巖石之卷 津輕信政直書

持方之卷 津輕信政直書

上悪中好下用

九之口合ノ事

御外繫之図

円形之事 輕津信政直書

十一箇条

木工馬目錄

上悪中好下用

九口之事

近授流木馬之覚控 寅年

近授流書目 元禄一五

自記之編書 元禄一五

馬書目錄 卷一・二

馬書覚書

横長美 仮一冊 三三三

三通 三〇〇

一綴 三〇〇

美 一冊 三六〇

横美半 一冊 三三三

半 一冊 三三八

半 一冊 三三三

横美半 一冊 三六九

27×70 一枚 三六九

半 一冊 三三六

半 一冊 三三六

横美半 一冊 三三六

横美半 一冊 三三六

横美半 二冊 三三七

一通 三三七

一通 三三八

一通 三三九

一通 三三九

一綴 三三九

神 当 流

神当流爪之書 鈴木弥市政守の津輕寧親宛 寛政三 半 一冊 三六四

神当流馬術起請文 鈴木弥一の津輕寧親宛 寛政八 一通 三六四

神当流覚書 明矩講談 (宝永五) 横長美 仮一冊 三六〇

神当流馬書 横長美 一冊 三三九

当流馬書惣目錄 横半半半 一冊 三六九

(神当流稽古之為神文名判形返却覚) 津輕越中守の津輕玄蕃宛 延宝三 一通 三三三

○その他

大坪本流常取事法目錄口伝書 美 一冊 三六九

当流伝統譜略 (大坪入道吉野桜刈之条) 美 一冊 三六九

○

青柳鹿毛馬乗入之覚 元禄九 一通 三六九

源家古流馭術伝書 半半 一冊 三六九

鞍鑑書(稻垣主馬系図) 美 一冊 三六九

軍用草目錄 美 五通 三三三

軍用鞋目錄 一通 三三三

天地一牧 鈴木弥市政守の津輕寧親宛 半 一卷 三六九

馬術学問集 津輕信政直書 半 一冊 三三九

十河国次伝流馬術御尋ニ付言上書 一通 三三七

目利書 全 正徳三 横美半 一冊 三三九

馬目利 津輕信政直書 半 一冊 二六〇

馬目利覚書 一綴 二六九

解竜流馬方第一之書 岩田関左衛門、津輕綱矩宛 半 一冊 二五五

元禄一

馬施之書 25 一卷 二六五

(諸種馬之図) 9×10 一帖 二六六

青之駒飼料之覚 一通 二六七

相馬要方 完 朝倉勘解由元能識 美 一冊 二六七

十息見腸論口伝聞書 近院右府能有撰 美 一冊 二六八

吉相・半相・凶相三之図 寛政三 28×40 三枚 二六一

三ノ御丸御馬場廻図 30×44 一枚 二七四

炮 術

大筒打方高覽場所之図 74×73 一枚 二七八

(砲術打方ニ付伺書) 一通 二八九

古 戦 場 図

信州川中嶋合戦之図 38×60 一枚 二五五

関ヶ原御陳之図 144×72 二卷 二五三

大坂御城攻図 110×90 一枚 二五九

大坂御合戦之図 253×186 一枚 二七〇

摂州大坂城図 寄口持口并御普請諸大名御手伝之場所 252×188 一枚 二七一

国府台合戦図 168×116 二枚 二七三

肥前国原城攻図 81×110 一枚 二七四

山懸組七百三十拾騎相陣取図 220×132 一枚 二七五

陳屋割之図 80×84 二枚 二七六

(戦記書抜書)

津輕家関係記事・奥州諸將小原表参向事・速浪秘事記 佐和山藩城・竹中氏関原合戦物語等 半 一綴 二七〇

藩 士

知 行

黒印状・判物

津輕信義領知黒印状 津輕百助宛 寛永一七 一通 二八五

津輕信義知行加増黒印状 津輕百助宛 正保四 一通 二八六

津輕信義知行加増黒印状 津輕百助宛 正保五 一通 二八七

津輕信義知行加増黒印状 津輕百助宛 慶安二 一通 二八八

津輕信政知行御判物 津輕玄蕃宛 寛文一一 一通 二八九

津輕信政与力知行御判物 写共 津輕玄蕃宛 貞享四 二通 二九〇

津輕信重知行御判物 津輕忠三郎宛 正徳二 一通 二九一

津輕信著知行御判物 津輕定五郎宛 元文元 一通 二九二

津輕信寧知行御判物 津輕百助宛 宝曆六 一通 八三

津輕寧親知行御判物 津輕藏人宛 寛政六 一通 八四

津輕信順知行黒印状 津輕式部宛 文政八 一通 八五

津輕信順付人知高黒印状 津輕式部宛 文政八 一通 八六

津輕順徳知行御判物 津輕直記宛 天保一一 一通 八七

知行書出

藩士知行書出御下書 (貞享四) 九通 八〇

藩士知行書出御下書 (貞享四) 折紙 九通 八二

藩士知行書出御下書 (貞享四) 切紙 三通 八三

御家中知行高之義書上覚 一通 八六

今度知行書出日付之事 一通 八三

妙心院様御印八拾三騎之御帳 延宝三 美大 一通 八四

開筭懸り役之面々格式加増償方之儀申立伺并申付書 文政六 三通 八三

給与

御国元御家中へ御手当可被下置割合高 享和三 一通 八六

御給禄増減調書上 添状共 文化八 二通 八六

御給禄増減調書 添状共 藤田仙右衛門差出 横長半 一通 八七

御目見以下人数并御給分惣括 横長半 一通 八二

在勤諸役御賄御定帳 横長半 一通 八三

(藩士家督之節職椽定方覚) 横長美 一通 八四

(御供衆被下方覚) 一綴 一九八

御惠金并御扶持頂戴取調書 一戸兵司差出 明治二九 半 一册 三五四

給椽

禄制(黒石藩) 明治三三 美 一册 一五

士族卒禄高取調帳 弘前県 半 三册 三三

士族卒給禄并賞典禄表 旧弘前県 明治五 美 一册 三五

賞典

終身賞典禄御分与惣高 半 一册 三六

賞典禄取調書 旧弘前県 明治四 美 二册 三五

終身賞典禄之件書状并夫喰米一件 明治一一 半 一册 三五

終身賞典還納人員調 明治一六 半 一册 三六

西館孤清賞典御請書状 一通 三五

権大參事当撰ニ付西館孤清精勤御請書状 一通 三五

廃立・窮民・賞典之事御尋ニ付木村千別御返答覚 一通 三五

側廻手当

(側向江諸手当差遣候覚) (寛政一一文化八) 21x13 一册 六七

御廻御手当被下方調書 文化九 一通 六三

御国勝手 御側向婚姻等之節諸手当被下置候員教覚 江戶勝手 文化九 一通 六一

書役初奥向之面々江二季小納戸手当定数書 (文化一〇) 一通 六三

家老共初用所并日勤之諸役方へ内々二季手当之覚 文化一〇 一通 六〇

(御側廻江式季御手当其他被下方員數御定) 文化一	橫長美	一冊	六〇
御内々御手当被下方書付 文化一	橫長美	一冊	六五
奥女中江二季御手当被下方員數御定 文化一		一通	五九
御姫様御付女中御給金調		一通	一六四
早道之者精勤ニ付被下金申渡覚 文政四		一通	二〇三
御普諸引請候ニ付佐竹治郎家来呼候人数覚 文政六		一通	一六六
(精勤之上御役御免之面々御償之義覚) 文化四		一通	一七九
(奥女中宿元類焼ノ節手当当定) 三橋金蔵差出 文化一〇		一通	一六〇
一戸兵士御効濟歎願書 履歴書添 明治一九	半	二冊	二五三
玄蕃上京ニ付 未年(宝曆一三カ)		一通	二五四
間宮勘右衛門上京ニ付覚 未年(宝曆一三カ)		一通	二五三
士 族 帰 農			
旧藩士ノ帰農願立等之儀ニ付返答案(明治四)		一通	二四三
秋田表他敷者呼返之儀覚書 斎藤助作・对馬政 良之進 巳年		一通	二五三
(藩士帰農旅費并旅籠代金支払覚) 酉年		二通	二五六
(弘前貫属者不穩一件) 明治初年		一綴	二五五
士族帰着之節田園分与之儀ニ付申付書		一通	二五五
旧藩田地分与施行差出書類 控・下書共 明治六	半	一冊	六〇
士族卒市在浦々ノ献田并御買上人員江御意振 被下方御品賦 明治四	半	一冊	二五七
士族卒 在方献田畑反別調 明治四	半	一冊	二五六
士族卒並社寺院 市左ノ御買入田畑 反別調 但弘前藩管轄分 明治四	半	一冊	二五九
士族社寺院市在 反別調 青森・鯉ヶ沢・増館 明治四	半	一冊	二七〇
御買入田畑反別之内御分賦并残田畑御弘反別共 大都調 明治五	半	一冊	二七一
分 限 帳			
御目見以上并同以下惣人数惣寄覚 (文化四)	橫長半	一冊	五五
○早道分限帳			
早道分限帳 文化一五	橫長美	一冊	一七三
早道分限帳	橫長半	一冊	五三
早道判鑑	橫長半	四枚	一七四
早道之者并兩目付名前	橫長半	一冊	一七五
系 譜			
津輕藩旧記伝類			
考 公族之部	半	一冊	六(一)
津輕藩旧記伝類 二 公族之部・夫人之部	半	一冊	六(二)
津輕藩旧記伝類 三 藩士之部	半	一冊	六(三)
津輕藩旧記伝類 四 藩士之部	半	一冊	六(四)
津輕藩旧記伝類 五 藩士之部	半	一冊	六(五)

津輕藩旧記伝類 六 藩士之部

半 一冊 六〇

津輕藩旧記伝類 七

文学・兵学・弓術・馬術・劍術・槍術・炮術之部

半 一冊 六七

津輕藩旧記伝類 八

諸礼・勸農・歌人・画師・茶道・俳諧・好人・孝義・医師・書家・僧侶・工芸・倭幸・反人之部

半 一冊 六〇

津輕藩旧記伝類目録 全

半 一冊 六〇

高屋豊前守先祖之覚

半 一卷 三六

由緒書 津輕主水 (天保一一)

半 一冊 四〇

由緒書拔 (瑞祥院様御代御奉公申上勤功御座候面々之子孫) (上・中・下)

横美半 三冊 四六

由緒書拔 (瑞祥院様御代御奉公申上候者之子孫浪人之部)

横美半 一冊 四七

由緒書拔 (瑞祥院様御代御奉公申上勤功之者之子孫御目見以下之面々)

横美半 一冊 四六

由緒書拔 (瑞祥院様御代御用ニ相立候諸職人并町人之子孫)

横美半 一冊 四九

(芝山玄蕃頭柏高他諸士伝)

半 九冊 四六

親類書 (御目付)

横長美大 一冊 一六

森岡守衛家蹟之儀ニ付歎願 明治一一

半 一冊 二四三

由緒書 (西館字膳) 天保五

半 一冊 二五七

西館融履歴 明治二三

半 一冊 二九六

(金家系譜) (津輕藩祖調書ノ内)

美 一冊 三〇五

古儀数奇道正統譜 数奇道者三浦寛及男三浦元衛誌 明治一四

半 一冊 三〇五

相 統

家老・城代・組頭各嫡子家督席留 文化一五

横長美 一冊 二六五

(藩士家督相統覚書) 文化一五

横長美 二冊 一〇六

家中跡式相統ニ付目付伺書并達書

二通 二五三

御用格 文化一一

半 一冊 四四

御留守居組并嫡子並名前書上

四通 三五三

諸廉御規数 文化一五

横長美 一冊 一〇七

* (藩士家督之節職禄定方覚)

横長美 一冊 一〇六

勤 仕

家中難渋ニ付儉約方之儀家老ノ組支配之面々江口達写 享和三

一通 一〇六

青森在番締合之義ニ付達書 文政七

一通 一〇六

御用書控 乾 文政一一

横美半 一冊 三〇三

長尾周庸筆記拔書 (青森通商局在任当時ノ役務日誌) 明治四一六

半 一冊 一〇七

奥方覚書

繼一通 一〇六

黒田奥向年中着服覚

一通 一〇六

(棟方作右衛門紅裏免許目録)

一通 一〇五

早道之者勤筋之儀口達書 文化九

一通 一七三

御国元御家中之面々皆勤年数御尋之儀覚

一通 一〇六

(津輕越中守家来樋口左馬助在所戻方再願書)

一通 一〇六

○任 免

諸組足輕式人明三人明ノ明跡被仰付候増減調

横長半 一冊 一〇六

諸組御取立調 文化一一

一通 一〇六

近習醫師居宅火出火ニ付同人仕置方之義御伺書
文政三

江戸詰黒石勇吉御小納戸金私曲一件仕置覚
一ヶ年言行向愈義覚書添

(津輕平八郎不届ニ付三等下准格江申渡之覚)
明治一

平川半治・峰藏永之暇ニ付脱籍申渡之覚
明治三

弘前県大参事西館建哲病弱ニ付太政官宛辭職願
明治四

藩知事御免官之為今後之儀ニ付西館融建言書
辭職裁許ニ付御請一札 明治四

碓ヶ関鎖関之儀ニ付辭職願 杉山八兵衛差出

大殿様方堀五郎衛門殿以御使者御讓被進候拜
領目錄 安政六

堀五郎左衛門出府被仰付候ニ付請書状

菊池九郎御家扶任命ニ付櫛引英八他上申書
明治二

○誓詞
誓詞并内々誓詞控 全

(目付被仰付ニ付就候役誓詞前書案文并判鑑)
本多忠左衛門他

(家中起請文前書案文)

早番着到順名書

○建白書
富国強兵之愚意 早道之者方建白 慶応二

国論一変ニ付重役建白書 永野邦助以下八名
(明治元)

一通 一五〇

一通 一九〇

一通 三五三

一通 三五二

一通 三五〇

一通 三五二

一通 三五五

一通 一六三

一通 一六二

一通 三五六

一通 一五二

一通 一六五

一通 一七四

一通 一六九

一通 三五七

一通 三五三

家臣江御下問ニ付工藤直世初廿五名方上申覚

(維新ニ付家臣方差出建白書類)
御遺訓ニ付中田善左衛門建白書

廃立并山内虎之進之事御尋ニ付大道寺族御返答覚

旧藩士族諸嘆願書類 明治二〇

規式

正月元日御作法御座敷着座之図 天和二
同三日御作法御座敷着座之図 安永四

諸御礼順同進物付同御座鋪付 安永四

初而御目見并御年始 格帳 (安永四)
差上物同御座鋪付

諸御礼順同進物付定格 安永四

阿組頭為窺御機嫌罷出候留帳 文政七

御家格帳 完 佐藤忠左衛門定清識 (文政)

(御目見規式留書)
客対ノ儀ニ付監物殿江被仰付候書付之覚 文化六

(言上書差上候節認方之儀御役伝伺書) 辰年

○葬祭
御中臈於鶴葬式取扱帳 御広敷用達掛差出 天保二

葬式受払之覚 天保二

(御番人勝太郎貞昌守手配方覚) (天保二)

(影光院様御司堂料請取覚) 天保二

一通 三五九

一通 一八四

一通 三五五

一通 三五七

二枚 一五〇

一通 一五〇

一通 一五〇

一通 三五〇

一通 三五九

一通 三五九

一通 一六三

一通 一六七

一通 一六九

一通 一六九

一通 一六九

一通 一六〇

一通 一六三

(回向料受納覽) 三徳寺之御広敷御用達中宛 天保二

○書 状

津軽家宛那須与一書状

一通 三五六

斗南藩権大参事山川亮之大道寺宛掛物進上之付書状 (明治四)

一通 二五三

岸本雅造書状 明治一六

四通 二九四

斎藤蓮宛諸氏書状 明治

六通 二九四

岸本徳之輔書状 明治二六

四通 二九四

成嶋勝雄別詞 文化八

一通 二九四

秋元蔵主存寄書無調法之付訖状

一通 二九四

懐胎婦人届書 津軽出雲守差出

一通 二五三

寺 社

寺 社 一 般

寺 社 領

*寺社領御朱印之儀ニ付鳥居丹波守様之被成御渡候御書付 (天明七)

寺社領分限 (寛政)

一帖 四七

寺社領分限帳 享和三

七冊 二七

寺社祿社家祿高取調帳 弘前県 明治四

半 一冊 三七

御建立之寺社覽帳 文化六

寺社移転後住跡職奉伺候部

半 一冊 三七

革 秀 寺

寺 領

知行之目錄 写共 高源院 慶長一四

二通 二九

知行之目錄 写共 津軽信成 元和九

二通 二九

知行之目錄 写共 津軽信義 寛永一

二通 二九

寺領黒印状 写共 津軽信政 寛文元

二通 二九

寺領黒印状 写共 津軽信壽 正徳二

二通 二九

寺領目錄 正徳二

一通 二九

寺領黒印状 写共 津軽信著 元文元

二通 二九

寺領目錄 元文元

一通 二九

寺領黒印状 写共 津軽信寧 宝曆六

二通 二九

寺領黒印状 写共 津軽信明 寛政六

二通 二九

寺領黒印状 写共 津軽信順 文政八

二通 二九

寺領黒印状 写共 津軽順承 天保一一

二通 二九

寺領黒印状 写共 津軽承昭 安政六

二通 二九

御書出員数書

横長半 一冊 二七

(御印箱寺用留小焼届) 革秀寺之御一家御役人宛 明治九

一通 二九

百沢寺(岩木山)

百沢寺拾貳坊屋敷方年貢免除申渡状 津軽為信 慶長二三

百沢寺虚空藏堂境内御法度 津軽信牧 寛永六

津軽信牧岩木山百沢寺願文 慶長一五

岩木山虚空藏堂願文 御願意趣書添 津軽信牧 寛永六

津軽信政岩木山大権現靈前願文 貞享元

岩木山三所大権現靈前願文 毛内有右衛門尉茂巧 宝曆一四

津軽信明靈山願文 天明五

岩木山神靈寧親公平癒祈願文 竹内甚左衛門 文化一一

百沢寺下居宮縁起調并社參之折着服之次第

求聞持堂結界之趣ニ付百沢寺ノ指出候控 文化九 横長半

御子孫繁榮之義ニ付求聞持法執行之趣口説書 文化九 横長半

救聞持堂神水有事 横長美 仮一冊 三二卷

岩木山下居宮御出汗御神樂御湯立御託宣書 慶応二 一通 一五卷

岩木山御本地仏御籤 慶応二 四通 一五七

岩木山神社御寄付金請取証 明治二〇 一通 一冊 五五

岩木山修正会三拍子覚 郡奉行 一通 三五二

岩木川他寒中氷張并雪之淺深之儀ニ付那奉行覚書 一通 三五九

月影并風合之儀覚書 郡奉行 辰年 一通 三五〇

妙見宮

妙見宮御尋之儀ニ付御返答書 横内村庄屋織田藤次 二綴 六四

妙見宮惣構之図 御作事方 150×81 一枚 五三

妙見宮御郭江御取建ニ付笠原八郎兵衛書状 文政四 一通 三四尺

妙見堂建立并大作処刑之儀ニ付笠原八郎兵衛請書 文政四 二通 二〇五

妙見林之図 高倉次郎五郎 享保一五 80×120 一枚 五三

妙見林之図 福士武榮測量 (文化) 85×20 一枚 二〇七

(妙見宮境内図) 85×55 一枚 五三

横内村妙見宮御普請料請弘覚 横内組手代ノ森 彌源太・神又市宛 一通 七〇

妙見宮御普請出来ニ付入用人馬仕上勘定覚書新 町野村他一ヶ村庄屋より森弥源太・神又市宛 辰年 横長半 一冊 六三

御用金請取帳 文化四 横長半 一冊 六二

妙見宮御取建ニ付大工頭積書物并諸廉請取手形 文化四・五 一綴 五五

妙見堂大工作料他諸入用請取綴 文化四・五 二綴 五九

妙見御用金錢受払 文化七 横長半 一冊 六三

妙見宮御厨子并御本社同廻り御玉垣神樂殿御廊 下御取建他御入用調帳 成田半四郎他 文化七 半 一冊 七四

妙見宮石燈籠并瓶子ノ三方打鳴シ出来入用調帳 文化七 半 一冊 七〇

妙見宮御額并御本社御上段同雪囲懸戸入置候物
置其外御神器等出来御入用調帳 文化七
外浜妙見御宮廻御普請勘定帳 控 文化八

作 事
御靈殿伺書之覚 戊午 横長半
御前ニ而被遊候方角差図 竹中安左衛門 一冊 七六
御書物写場差図 一冊 七六
大広間絵図 一枚 七六
くわんしんちう焼付雛型 一箇 七〇
御靈殿差図 一枚 七二
靈殿十歩一下坪之割 一枚 七三
御上段御後東つまの図 十歩一之割 一枚 七三
西東桁行之図 十歩一之割 一枚 七四
御上段御下段四梁之図 十歩一之割 一枚 七五
御上段之図 一枚 七六
内御靈殿十歩一下坪之割 一枚 七七
内御靈殿図 一枚 七八

鬼神宮御本社新規御取建懸合并御入用元積高他
文化四

東照宮(国元)
作 事
東照宮御拝殿新建受地安鎮之次第 文化一五 一帖 二〇〇
受地安鎮祭御莊殿図 文化一五 一枚 二〇一
地割繩張之儀式 文化一五 一通 二〇二
東照宮拜殿受地安鎮之祭文 文化一五 一通 二〇三
東照宮前殿落慶奉遷供養儀次第 文政元 一通 二〇四

妙見社司勸化ニ而家作取建勘定帳 文化六
妙見境内掃除之者御手当ニ付覚書 一通 七五
妙見宮石燈籠之図 書付添 二枚 七五
妙見宮御本社向拝鴨居上御額則図 一枚 七五

津梁院
津梁院御再建絵図面 文政九 一枚 二〇四
津梁院類焼新規建絵図 (文政九) 一枚 二〇五
津梁院惣差図 (文政九) 一枚 二〇五
津梁院客殿図 一枚 二〇六
津梁院大書院之図 一枚 二〇七
津梁院門之図 一枚 二〇九
津梁院文閣之図 一枚 二一〇
津梁院柵立図 一枚 二一一
津梁院境内之図 明治三 一枚 二一二

半 一綴 七五
半 一冊 七五
一通 七五
二枚 七五
一枚 七五

御靈殿
御靈殿 一枚 七五
一通 七五
一枚 七五
一枚 七五
一枚 七五

津 梁 院

御 靈 殿

東照宮惣構圖 文政六

18×40

一枚 二二六

東照宮新規御取建ニ付仕様御入目積帳
文政六

横長半

仮一冊 二二五

東照宮御宮図 文政六

92×64

一枚 二二七

東照宮御祭事之節御仮殿之図 亥年

100×48

一枚 二四四

東照宮御取建所大都積之図

170×100

一枚 二四五

東照宮様御持御鏡之儀御尋ニ付返書覚 薬王院

美

一冊 二六〇

東照宮御神影之御下掛出来之儀覚 薬王院

横長半

仮一冊 二〇〇〇

東照宮御影図下絵書 薬王院

四枚 二六三

東照宮御神影之儀御尋ニ付返書覚 薬王院

美

一冊 二六二

東照宮御掛物之儀ニ付返答書 薬王院

美

一通 二六三

御廟地立木之儀ニツキ上書 明治二九

美

一冊 二五九

東照宮社司小田桐基御代々神祭ノ儀ニ付請願
履歴書添 明治三〇

横

仮二冊 二五五

高野山

寄進状

高野山寺領寄付状写 (慶長六一寛文四)

美大

一冊 二五三

高野山南谷遍照尊院宛津輕平藏寄進状写 寛永八

一通 二五七

常福寺

浅草常福寺口上書 (正保三)

美

一通 二五五

御屋鋪江常福寺御由緒略覚

美

一冊 二五七

東叡山

東叡山万部御法事之図 宝永七

99×108

一枚 三六一

東叡山法嗣ノ由来記

美

一冊 七五五

東叡山清水堂作り之図

27×53

一枚 三八〇

東叡山御経堂之図

27×36

一枚 三七九

東叡山二王門之図

36×27

一枚 三七七

東叡山黒門図

27×36

一枚 三七九

諸寺社

泉志(古懸) 山御神樂御湯立御託宣并御圖書
(国上寺) 文政三

四通 二七五

長勝寺

(長勝寺に有之候御石牌法号写書) 長勝寺
享和三

二通 二八八

長勝寺堂宇維持方法ノ儀ニ付津輕家宛歎願書
明治一七

美

一冊 二六六

橋雲寺

為信公江愛宕山教学院ノ之書牒 慶長一一

一通 二六二

愛宕山將軍地蔵小御堂ノ内書付与

一通 二五三

橋雲寺縁起写 元禄一六

美

二冊 三三六

御建立之儀ニ付御内意口上書 橋雲寺
(文化八八)

横長美

仮一冊 三三七

高照・神社

高照神社江御配祀ニ付田地奉獻依頼書

横山七五三介差出 明治一〇

美 一冊 二四四

高照神社江御配祀ニ付田地奉納依頼書

福土荘之進差出 明治一〇

美 一冊 二四四

御田出増米金納書上 明治二三

二通 二四八

その他

神宮寺鐘銘写 (津輕為信寄進)

一通 一九五

法涼山円明寺略縁起

美 一冊 六六

勢州神明宮絵図

116×86
12×39 二枚 一一〇

尊像觀世音へ寄付受取之口 明治一〇

半 一冊 三四三

恩賜觀世音仏奉獻之願書 森岡守衛 明治一三

美 一冊 二四六

鶴岡八幡宮奉獻願書案文 文政三

一通 二〇四

鎌倉八幡宮御神宝目録 文政一一

一通 一九五

白山御宮之図

27×36 一枚 三三六

伊勢神宮御供米寄付状控 宝永六

一通 一九九

多武峯御祭事次第

一通 一九〇

御定制 (多武峯権僧正竹林坊輪王寺権僧正殿命宛) 安永三

美 一冊 六六

光明最勝経 王法正論品

一通 六七

(平野社・御靈惣本社書出)

二通 一九九

津輕為信神祭願并津輕神社名称願 青森県令宛 明治一〇

半 仮一冊 一九三

神田明神祭礼練物番付 亥年

横長美 板一冊 六六

天台宗法服着衣之次第

一通 一九六

經典

15×8 一帖 二四六

不動経

一通 二九三

学芸

学問

儒学

聖教要録 全 (寛文五)

美 木版二冊 二七三

(聖教要録覚書) 子年

一綴 二七四

山鹿語類 物目録

美四半 一冊 二七五

治平要録 写上・下

半 二冊 二四六

配所残筆 写 延宝三

美 一冊 二七六

配所残筆

半 木版一冊 二七七

原源発機 全 津輕信政筆山鹿素行点批 延宝六

半 一冊 二七八

原源発機 抄

半 一冊 二七九

原源発機診解 山鹿素行添削 貞享元

半 五冊 二八〇

中朝事実 乾・坤 大正元

26×9 刊二冊 二八一

中朝事実 上・下

27×9 版二冊 二八二

正誠旧事 写 山鹿素行編

美 一冊 二八三

山鹿甚五左衛門述作之書籍(目錄)

山鹿素行先生遺物天覽關係書類 明治三九

論語古訓 一一〇 体孝院様点批

元文一

論語講義

素行子先生或問 四書句詠大全(論語)写

卷一—一〇

中庸經一章聞書 巳年

素書(黄石公) (慶長二〇)

初学論

当流聖学聞書

相伝三色覚書・聖学之相伝覚書 柳下忠左衛門上書

元禄二

聖学要習 辰年—巳年

(修身答問)

俗儒覚書

六曜内書秘法(行事) 杉岡源藏筆

笈軍六曜外書

子孫教戒 藤介講 巳年

護身法大事 榎野左仲直久上書 天保六

九字大事 榎野佐仲直久上書 天保六

四書訓蒙輯疏 嘉永元

一通 二七三

一綴 二七五

27×18

板二冊 三三三

半

一冊 三六七

22×23

一〇冊 二六元

横長美

仮二冊 三五五

美

一冊 三六五

横美半

一冊 二七六

横美半

一冊 二七五

美

二冊 二七五

横美半

一〇卷 二六五

横美半

二冊 二六五

美

一通 二五五

18

一卷 二九八

18

一卷 二九〇

18

一通 二六三

18

一通 二九八

23×18

版一冊 二六六

苜蓿伝 附子規傳

美 一冊 二九七

聖廟積菜之図 安永八

美 三通 五七

積菜御儀式

美 一冊 五八

積奠献立

美 一通 二九七

神 道 他

(唯一神道覚書) 津輕信政 貞享四

美 四通 二五六

六根清浄大祓 常磐大連撰 元禄二

美 一冊 三四三

故与市様聞書(中臣祓聞書清書他)

美 一綴 二七五

宗源唯一理学一事伝授目錄

美 一通 二六四

易伝受之留書 寅年

美 一通 二七〇

円形之事

美 一通 二七六

眼容之事

美 一通 二七〇

(九天并列宿天ノ高サニ付存寄覚) 津輕監物差出

美 一通 二五三

序卦・文言伝翼解 戌年

美大 写一冊 二五五

卜部卜龜抄 神竜院龍玄 元和六

美大 一冊 二四三

五性之事

美大 一冊 二五三

寛政七乙卯年正経朔ヨリ丁巳正月経朔頭

半 一冊 二九六

史 書

神代卷 上・下(日本書紀卷一・二) (慶長四年板)

27×20 板二冊 二六二

日本書紀 一・二(神代上・下)

31×21 板一冊 二六二

(日本紀覽書) (津輕信政筆) 戊午

武家事記 一一五〇

帝範 上・下

巨軌 上・下

明治 新刻 国史略 卷一―卷七 (卷二飲) 明治九

柳宮秘鑑 一一一〇 (六一八飲)

御秘書 (柳宮年表) 上・中・下

評註 歴代古文鈔 (史記抄一一五) 明治一七

本佐録 (津輕信政筆) 享保二二

○詩 文

詩歌雜集 (津輕信政筆)

詩題 全

慶筵詩

津輕信牧君御筆 (御自作之詩戯)

神君御文写 (元和年中神君駿府の崇源院江被進候御文写)

御詩作 申年 (享保元カ)

○

続類聚抄 (衣服部ぬきかさ) (梅心院筆)

つれづれ草註解覽書

平家物語評利秘伝抄 卷一―二四

源氏物語抄写 (梅心院筆)

一九通 二五九三
美 五〇冊 二九九

26×18 版二冊 二六三

26×18 版二冊 二六四

26×20 版六冊 二六六

27×19 写四冊 二六五

美大 三冊 七

27×19 版五冊 二六七

半 写一冊 三〇〇

美 一冊 二九四

美 一冊 二六五

半 一冊 二四二

一通 二〇八

半 一冊 二〇七

半 一冊 二九六

美 一冊 三〇六

一綴 三〇六

26×19 版二四冊 三六七

半 一冊 三六一

茶 道

道 安 流

石州流 (道安流) 茶湯聞書 (津輕信政公講談)

道安流茶之湯覺書

道安流茶のゆ初段百ヶ条

道安流茶のゆ中段百ヶ条

道安流台子覺書

○

(茶之湯百ヶ条)

茶之湯覺書

茶之湯聞書

口切春茶道具懐石付 (嘉永元)

香 道

薰 物 製 法

薰物伝授書 天保二

近衛様御伝法 御薰物製法書 天保二

近衛様御伝法 御薰物製法書

(御薰物製法書)

横長美 一綴 五三

横長美 一綴 五四

横長美 一綴 五五

横長美 一綴 五六

横長美 一綴 五七

横長美 一綴 五七

横美大半 一冊 五元

一通 一九五

二綴 一九六

一通 一九六

美 一冊 八五

美 一冊 八五

横長美 一冊 二九七

二通 八七

古今切紙

美 一冊 三〇六

書道

書法聞書 信重筆 正徳四

半 一冊 三〇九

御書初 信明公 天明六—寛政三

五通 三〇六

年々御書始之覚 津輕信明筆

一通 三〇六

手紙言鏡 天保七

半半 一冊 三〇五

遊芸

放鷹

養鷹

(養鷹留書)

横長美 一綴 二四三

鷹餌飼之事

美大 一冊 二四三

鷹之書 一一八(四欠)

美大 一〇冊 二四四

犬追物

雪荷流犬追物(伝授秘書并聞書 勝本水右衛門尉 伝授 享保一五)

美 一冊 二九登

蹴鞠

鞠突条令

美 一冊 三〇三

津輕越中守殿懸緒御礼物請取覚 嘉永四・万延二

二通 三〇〇

免許状

○飛鳥井家

蹴鞠免許状 飛鳥井少尉雅香の津輕土佐守宛 享保三

一通 三〇三

蹴鞠免許状 飛鳥井中納言雅威の津輕越中守宛

一〇通 三〇四

蹴鞠免許状 飛鳥井宰相雅光の弘前侍從宛 文政三

一通 三〇九

蹴鞠免許状 飛鳥井宰相雅光の津輕右京大夫宛

三通 三〇五

蹴鞠免許状 飛鳥井大納言雅光の弘前侍從宛

一通 三〇六

蹴鞠免許状 飛鳥井一位雅光の弘前侍從宛 嘉永三

一通 三〇七

蹴鞠免許状 飛鳥井侍從宰相雅典の弘前侍從宛

一通 三〇八

万延元

○難波家

蹴鞠免許状 難波前中納言宗城の津輕出羽守宛

五通 三〇〇

蹴鞠免許状 明和七一一

一通 三〇一

蹴鞠免許状 難波前中納言宗城の津輕越中守宛

一〇通 三〇二

蹴鞠免許状 難波前大納言宗城の津輕越中守宛

一通 三〇三

蹴鞠免許状 寛政三一一

三通 三〇三

蹴鞠免許状 那波侍從宗弘の津輕右京大夫宛

二通 三〇四

狩獵

熊狩

熊狩取方并熊胆量目共取調覺 山形甚之丞差出

(文政二)

飯詰山ニ而狩取候熊數覺 文政二

能樂

仕舞振付

御役者并御能方名前

能并囃子番組 明治二二

能面覺書 体孝院(信明)筆

蒔田氏ノ能面來候一件

能狂言鎧之語

築屋奉行ノ差出候鼓之覺

*御能御作法書(祝儀)

*御能御作法書(馳走)

猿樂配当米高増覺 文久二

出家衆御能御見物被仰下候節御伺下書

御舞御覽之節拜見被仰出候御書取

一通 一九〇

一通 一九三

半 一綴 二四〇

橫長半 飯一冊 一九四

五通 一九五

一三通 一九三

六通 一九三

一通 一九〇

橫長半 飯一冊 一九〇

9×17 一帖 五三

9×17 一帖 五三

一通 一九三

半 飯一冊 一九〇

12×28 三通 一帖 一九〇

雜

於管中管絃公家衆名前 文政六

催馬樂考 伊勢海・安名尊・席田 文政六

上留理番付

六月御花火番付

地誌

藩律

津輕地形之圖 付弘藩名數考

乳滝之圖 郡奉行添狀共 文政三

折曾之関 民事司務添狀共 明治三

訂正 津輕しるべ 佐藤弥六編 明治三二

增補 津輕郡内有名古墟名所故蹟 明治一四

御尋ニ付雷鳥一件書上之控付乘鞍嶽方角繪圖

延享元

一通 一九二

一通 一九〇

一通 三〇七

橫長半 飯一冊 三三三

美 一冊 一頁

美 一冊 一〇八

57×22 一枚通 一九九

菊版 刊一冊 空

菊版 刊一冊 毛

半 一冊 九

半 一冊 六〇

繪圖

日本総図

沿海地図 中図 上・中・下 伊能勘解由 文化元

257×200 (三枚) 三六

沿海地図 小全図 伊能勘解由 文化元

260×222 一枚 三八〇

その他

南部盛岡城之図 文化一五

61×55 一枚 三二五

奥州盛岡城図

36×35 一枚 三二六

仙台城下町倉絵図

82×104 一枚 三三六

鯉沢天童山之図

60×51 一枚 三三六

武江往古地理之図 寛政一〇

58×84 一枚 三〇六

徳永正武蔵江戸城図 写 文化五

80×78 一枚 三三三

(江戸城絵図)

55×80 一枚 三三五

雲井総図 草稿

50×35 一枚 三〇三

(京都御所之御絵図)

27×76 一枚 三三四

江戸名所図会 卷一一〇 天保四

80×140 一枚 一〇七六

两国橋図

美 二一〇冊 三六六

三国之図

26×167 一枚 三九

万国幟旗図記 近藤守重 寛政八

28×40 二枚 二七三

小田相文次相認候四大洲之図 添状共 (文化四)

半 一冊 三三九

間宮平次郎様之御内々被遣候書付并歐羅巴絵図 文化四

28×41 一枚 二九七

20×27 一枚 二九八

蛮貊旌旗 文化九

横美半 一冊 二四九

雜

諸薬功能書

横半半 一冊 二四〇

一粒金丹試功

板三枚 二四一

一粒金丹主治書

29×40 一通 二四三

屯良丹功能

一通 二四三

信義君御筆之医書

横長美 一冊 二四六

1 鹿塩宗茂妙薬

横長美 一冊

2 魚住庄左書

横長美 一冊

3 神仙太乙膏他

横長美 一冊

永代壳渡田方証文 東津輕郡荒川村

天明四—明治九 七通 二四九〇

建物壳渡約定証書類 戸沼清右衛門 明治六一—一八

一綴 二五二

地所壳渡契約証 地券添 柿崎全治宛 明治二一

二通 二四九七

地所登記済ノ証下付願 中津輕郡新町高橋常五郎・

柿崎全治 明治二一 二通 二五〇八

小作証文 津輕郡和徳村 田中申松之弘前伊藤左馬橋宛

明治二一 一通 二五〇六

高柳訴訟一件 (預ケ金滞一件)

明治五—七 半 一冊 二五三

孝行奇特之者行狀書	文化八	橫長美	一冊	六九
津崎故村岡建碑ニツキ寄付金願書	明治三一	美	仮一冊	二五三
海外周遊ニツキ小山内雄五郎・本多庸一建言書		美	仮一冊	二五四
潮ニテ水ヲ取法	葛西勇次郎留書	橫長半	一冊	六三
浮腹卷之図	平賀鳩溪創造	28×26	一枚	二三四
ループロット之図	平賀鳩溪創造	28×26	一枚	二三五
石之塔図		28×28	一枚	二三四
江戸地震一件	付大風雨一件 安政二・三	半	一冊	二三七
館山漸之進平家音楽史成刊ニ付一件書類	明治四四	半	一綴	二九二
分量之事(貨幣)			一通	二九四
花露酒之儀ニ付口上書	下相野村三國屋作兵衛		一通	二九五
若州小浜侯御誌評写		半	一冊	三〇一
(花咲松詮義覚)	文政四		三通	二九六
中田御関所荷物長持出入御条目写	書拔		一通	三〇一
知斎(藤森天山より穴戸宛)		半	一冊	二九四
(岩崎村前浜江岩出現ニ付口上覚書)	絵図共	34×28	一通	二〇〇
岩崎村庄屋より赤石組御代官宛	子年		一枚	二〇〇
航西日記	卷一・四 明治四	半半	四冊	四
(航西紀行)	明治一八	半	一冊	四
陵墓一覽	明治一三	28×24	刊一枚	三四七
牡丹蝶御試擢			二枚	三五九
祝の歌		美大	二冊	三〇九

津 軽 家 文 書 解 題

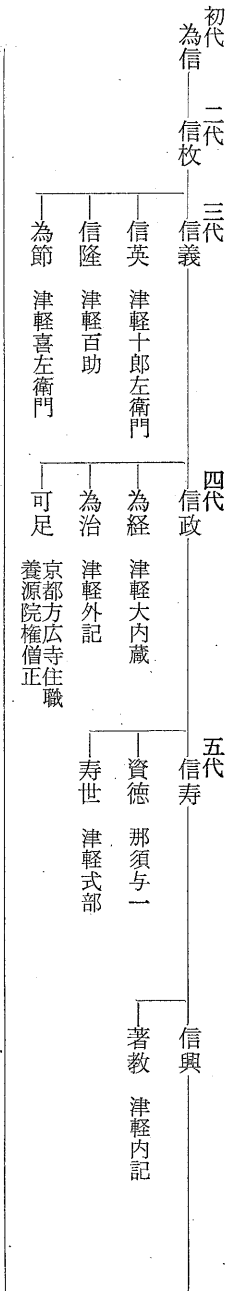
伝 来

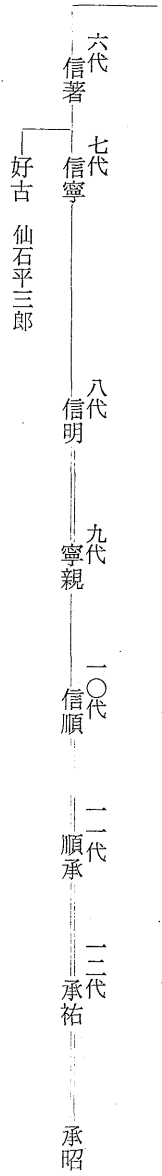
本集に収録した津軽家文書は、今次大戦の戦禍を逃れて、東京都新宿区下落合の津軽邸に保管されていたもので、昭和二十三年に原蔵者津軽義孝氏から、直接当館に引継がれた総点数約三、五〇〇点に及ぶ文書・記録類である。

系 譜

津軽藩は、陸奥国高岡（弘前）を居城として、表高四万六千石（後七万石を経て十萬石となる）を領知した大名である。津軽為信を初代とするこの津軽藩は、その藩祖に多くの異論がある。例えば、津軽氏をもって南部の一門とし、初代を金沢右京亮とする説と、「金沢氏は津軽の後監たりし人、故に津軽の系譜に加うべきでない」という外崎寛氏の説等がそれであるが、幕府に提出された系図及び年譜等で、歴代藩主の略系譜を示せば、次の如くである。

津軽氏略系図（弘化三年「系図」による）





初代 為信たけのぶ 幼名翁おきな 津輕右京大夫 從四位下

戦国大名のうち戦略家としても名高かった為信は、関白太政大臣近衛尚通の庶子（一説には堀越城主武田紀伊守守信の子）として天文一九年（一五〇）に生まれた。永禄一〇年家督相続（実は大浦城主武田為則の娘阿保良姫養子との説あり）をした後、石川城攻撃からわずか一七年で津輕統一事業をなしとげ、この時から津輕氏を称するようになったという。文禄三年（一五九四）豊臣秀吉より津輕三郡と合浦一円の四万五千石を安堵され、さらに慶長六年に徳川家康より関ヶ原役の戦功として、上野国勢多郡に貳千石を加増されて都合四万七千石を領知するに至った。慶長一二年（一六〇七）京都にて歿。享年五八。諡 瑞祥院。室の由緒は不詳である。一説に武田為則二女成姫（阿保良姫カ）。栄源院。（慶長一三年卒）

二代 信收のぶひら 幼名平藏 從五位下 越中守

天正一四年（一五六）為信三男として生まれ、父為信の歿後、遺命により慶長一二年（一六〇七）襲封。同一三年入部し、慶長一六年（一六二二）には、その居城も堀越から高岡城（弘前）に移った。以後寛永八年（一六三二）正月江戸で卒するまでの二四年間創業期の藩政をあずかった。享年四六。諡 津梁院。室は徳川家康の養女満天姫（下総関宿城主松平因幡守康元の第三女）。葉統院（寛永一五年卒）。

三代 信義のぶよし 幼名平藏 從五位下 土佐守

信收嫡男として元和五年（一六二〇）正月弘前に生まれ、寛永八年遺領を継ぎ、同一〇年一〇月入国。寛永一一年土佐守に任じ、明暦元年

(二六五) 十一月、三七歳をもって江戸において卒。自撰歌集「愚詠和歌集」の名をもって知られる如く、中院通茂の門人で歌道を奨励する一方、画もよくしたと伝えられる文人でもあった。諡 桂光院。室は松平図書康久女。慶林院(貞享三年卒)。

四代 信政のぶまさ 幼名平蔵 従五位下 越中守

正保三年(二六五) 七月生。明暦二年遺領を継ぎ、万治元年閏一二月越中守に任ず。その治世五四年間に文武の振興・新田開発・林政等に功績あり。とくに儒学・神道の造詣において当代大名中特筆すべき人物であることは周知のところである。寛文元年に入部の日より始まる御日記によって、時の治政全般を知りうる。山鹿素行の「中朝事実」「聖教要録」等の諸本は、この時期に弘前で出版されたものである。宝永七年(二七〇) 卒。享年六五。諡 妙心院。死後高照神社に祀り、後に藩祖為信を合祀していることは、彼が第二の藩祖といわれるゆえんである。室は増山弾正少弼正利女。涼松院(寛文一三年卒)。

五代 信寿のぶひさ 初め信重のぶしげ 幼名平蔵 出羽守 後土佐守 竹翁また栄翁

寛文九年(二六九) 五月生。貞享元年一二月出羽守、元禄一三年土佐守に任じ、宝永七年四四歳で襲封し、正徳二年に初入国した。享保九年には名乗を信寿と改め、同一六年五月に隠居、同年七月剃髪して竹翁と称し、元文二年六月には、また栄翁と改名している。延享三年に七八歳で病歿した。歴代藩主の中でもとくに文武に秀れ、絵入俳書「独菜従然草」の編集、藩の正史「津軽一統志」の編纂(享保一六年)などで知られ、武芸でも一刀流を学んで免許皆伝をうけている。諡 玄主院。室は松平宮内少輔忠尚女曾濃姫。法雲院(享保一四年卒)。

信興のぶおき 幼名磐麻呂 従五位下 右京亮 越中守

元禄八年(二六五) 七月生。宝永七年一二月越中守となる。享保一六年(三三)一月三六歳で早世し、受封するに至らなかった。諡 瑞蔵院。室は太政大臣近衛家熙の猶子綱姫(実は醍醐大納言冬基女)。梅応院(享保一四年卒)。

六代 信著のぶあき 從五位下 幼名勝千代 出羽守

享保四年（七五九）二月生。父信興の早世により、享保一六年五月祖父信壽の隱居と同時に一四歳で家督相続した。同年一二月出羽守に任じ、延享元年五月弘前大火の直後に入部したが、その一週間後に二六歳で病死した。諡 顯休院。室は有馬玄蕃頭則維の三女美知姫。淨心院（宝曆四年卒）。

七代 信寧のぶやす 從五位下 幼名岩松 土佐守 右京亮 出羽守 越中守

元文四年（七五九）生。延享元年八月、五歳で遺領を継ぎ、宝曆三年一二月土佐守に任じ、同六年五月初入国、宝曆七年に右京亮、同八年出羽守、さらに安永二年越中守となる。在任中、乳井貢による宝曆改革が行われたり、明和三年の大地震や飢饉等の災害が相次ぎ、多難な治世であった。天明四年（七六四）江戸で卒。享年四六歳。諡 戒光院。室は松平大和守明矩女章姫あや。真寿院（文化六年卒）。

八代 信明のぶあき 幼名熊五郎後に松五郎 從五位下 出羽守 土佐守

宝曆一〇年（七六〇）六月に弘前で出生。安永六年從五位下・出羽守となり、天明元年に土佐守に任じ、天明四年二月襲封、同八月入国した。実学と武芸とを奨励し、大いに風俗の矯正、綱紀の肅正を図った。寛政三年（七五九）七月江戸にて卒す。享年三二。諡 体孝院。室は松平大和守朝矩女喜佐姫。瑤池院（天保八年卒）。

九代 寧親のぶちか 幼名和三郎 從五位下 出羽守 從四位下 越中守 侍從 右京大夫

明和二年（七五五）分知黒石藩の六代藩主津輕左近著高四男として出生し、安永七年家督相続の後、本藩津輕信明の末期養子として寛政三年襲封。同年出羽守に任じ、同四年入部、同八年越中守となる。文化二年五月には表高四万六千石（四万七千石の内千石上ヶ地となる）が、蝦夷地警備の功として七万石に加増され、さらに同年五年二月には東西蝦夷地一円警固のため、一〇万石に高直しされ、從四位下に叙せ

られた。文政三年には蝦夷地鎮定の功により侍従に任ぜられた。施政の面では藩校稽古館の創設と寛政律の完成、備荒や藩士在村による新開奨励などに特筆すべきものが多い。文政八年四月隠居し、右京大夫となり、天保四年五月桃翁と号した。同六月剃髪し、数日にして七三歳で卒。諡 上仙院。室は杉浦丹波守正勝女伊祢姫。蕙心院（天保二年卒）。

一〇代 信順のよのよ 幼名雅之助 従五位下 大隅守 従四位下 越中守 侍従 出羽守

寧親第一子として寛政二年（三九）に生まれる。文化十一年大隅守に任じ、文政七年従四位下に叙せられ、同八年家督相統。同年五月初入国し、越中守に改める。文政一〇年將軍家齊の位階昇進祝賀の際、猿輿を用いたため、同年四月逼塞を命ぜられたが、間もなく（三ヶ月後）御免となる。天保五年一二月侍従に任じ、同一〇年三月隠居して如海と号し、弘化二年出羽守に改む。文久二年（七五）一〇月卒。享年六三。諡 寛廣院。室は田安中納言齊匡女金姫かね（始め欽姫あき）。仙櫻院（嘉永四年卒）。

一一代 順承のよのよ 新之助後 順徳 左近將監 従五位下 大隅守 従四位下 越中守 侍従 和泉守

松平伊豆守信明（三河国吉田藩主）第三子として寛政一二年（八〇）に生まれ、文政四年支封津輕甲斐守親足養子となつて、同七年初御目見、同八年甲斐守親足の家督を相続し、左近將監に任ぜられた。次いで天保一〇年本藩一〇代藩主信順養子となり襲封す。天保一三年に順承、大隅守と改め、同年入部した。弘化元年従四位下に叙せられ、同二年越中守、嘉永三年侍従に任じ、安政六年隠居、万延元年に和泉守となる。慶応元年（六五）二月卒。享年六六。諡 政徳院。室は有馬兵庫頭氏貞妹泉姫いづみ。彰信院（嘉永元年卒）。

承祐つとむ 幼名武之助 大隅守

家門津輕直記順朝嫡男として、天保九年（八三）二月に生まれる。同一四年本藩一一代藩主順承の仮養子となり、弘化三年には正式に簪養子となる。嘉永六年二月初めて御目見、同年一月大隅守に任じ、安政元年従四位下に叙せられたが、安政二年（八五）七月家督相統せ

ずして一八歳で早世。諡 有孝院。

二代 承昭^{つぐあき} 幼名寛五郎 初め護明 後承烈 従五位下 従四位下 土佐守 越中守 侍従 左近衛権少将 弘前藩知事

天保十一年(一八三〇) 細川越中守齊護(肥後熊本藩主) 四男として生まれ、安政四年六月一代順承女常姫の躰養子となり、承烈と改名した。同年十二月土佐守、翌五年従四位下に叙せられ、安政六年二月家督を相続した。同時に越中守に任じ、承昭と名乗る。同年十二月侍従元治元年左近衛権少将となる。明治元年には奥羽鎮撫の功により高一万石永世下賜され、同年十二月に奥州触頭となる。同三年に初代弘前藩知事に任ぜられた。明治一七年に伯爵となり、正二位を授けられ、勲二等に叙せられた。大正五年(一九一六) 七月卒。享年七七。諡 寛徳院。室は順承女常姫(始め玉姫)。明光院(文久元年卒)。

文書の概要

本史料目録に収めた津軽家文書は、現存する津軽藩関係史料の約三分の一と目されている文書・記録類である。

もともと津軽藩史料の多くは、寛永四年(一六二七) 八月の落雷による天守閣炎上と、宝曆年中に乳井貢によって行われた旧記類の焚書で焼失しているのであるが、たまたま当館の参考図書として架蔵している「寛政三年二ノ丸御宝蔵御書物并御道具目録」によって照合すると、絵図の一部を除く大部分が、当館に引き継がれていることが判明した。つまり、二度の焼失を免かれて国元の「二の丸御宝蔵」に納められていたものが、いつの時代にか江戸の藩邸に運ばれ今日に至ったものと考えられるのである。かくして「二の丸御宝蔵」文書を含む当館に移管された津軽家文書は、一般にいう藩政史料の一部であって、ことに地方支配^{じかた}に関するものは皆無である。その大部分の藩政史料は、采地である弘前の市立図書館に保存されている。中でも弘前市立図書館所蔵の四代藩主信政の入国の日(寛文元年)より初まる「御国日記」及び「江戸日記」合わせて約四、五〇〇冊を始め、御用格・御用留・要記秘鑑・年代記等はその中核をなすもので、この両者を合わせて始

めて、一藩の大名文書ということができらるであらう。同図書館所蔵史料は、「弘前図書館郷土資料目録」(既刊四冊、昭和三五年～三九年)で概要が判明するので、これを参照していただきたい。

そこで本目録に収載された文書・記録類は、古くは永享・宝徳の「口宣案」及び天正・慶長期の「御内書」が数点含まれているほかは、年代的には寛永以降明治に至る、主として徳川中期以後の史料がその大宗をなしている。内容的には系譜・由緒書及び藩史等が比較的整備されているほか、蝦夷地警衛、新田開発、江戸藩邸に関する絵図類などが大部分を占めている。また藩主自ら学んだ山鹿流・山本勘介流を中心とする兵法に関する兵書・武術書類及び儒学の書籍なども多い。また対南部関係を示すいわゆる相馬大作一件や戊辰戦争関係文書は、当時の藩情を知る好箇の史料であらう。

以下これらについて項目順に概述する。

文書の分類

(1) 領知関係史料

寛文四年四代家綱を初めとする領知朱印状・判物の原本と、それらの写、及び領知目録が、原本・写共に完備している。この領知状は、元来版籍奉還の際に領知確認の証として明治政府に提出したはずのものであるが、いかなる理由で、下附された本証が、しかも歴代のものすべてが津軽家に残ったものかは判明しない。なお領知状が一二代家斉までは朱印状、家慶以後は判物の形式を採っているのは、文化五年一〇万高直しによる津軽家の家格昇進によったものであらう。

「御朱印改」として掲げた項は、分知された津軽伊織家が元禄三年断絶し、上知した以後の領知状の記載が「津軽郡一円」とされていないのに対して種々訴願を提出した関係のものである。

また領知状下附の際、藩が提出する郷村高辻帳もここに分類した。ちなみに貞享元年の郷村帳をみると、表高は四万七千石（陸奥国津輕郡一円四万五千石、上野国勢多郡の内式千石一合二三ヶ四村）に対し、新田高が津輕郡に約一〇万九、八五〇石、上野国に四八〇石で合約一十一万石となり、裏高は一五万七千石までに増加していることがわかる。

次に「所替一件」として収めた史料は、元和五年七月、福島左衛門太夫政則が、領国安芸・周防を改易となり、弘前に配流し、代わりに、津輕氏が一〇万石の格をもって信濃国川中嶋（最初は越後）に国替されようとした一件に関するもので、この時藩主信枚は、はじめ幕命をうけて、家臣に転封に当たっての諸指令を出している。しかしその直後に信枚は、津輕の領地が表高こそ四万七千石であるが、実高は遙かに一〇万石を超えていること、それに祖先の土地を離れることの不都合等を理由に、本意を表明し、急遽、重臣服部長門・白取瀨兵衛等を江戸へ出立させ、遂に転封は中止になっている。その経緯は「信枚公御代日記」〔二九〕（文書番号、以下同断）等に詳記されている。なお文化五年一二月蝦夷地一円永警固のため一〇万石に増加された時の関係史料も「高直」として、ともに分類した。

その他、文化一〇年に郡奉行より提出した「御郡中村名書上帳」及び元禄国絵図調製の際の道程絵図、領内図、居城たる弘前城下図も便宜上この項に編入してある。

(2) 藩侯関係史料

ここでは津輕家の系譜類と、歴代藩主及びその宗・親族の公私にわたる生活に関係ある史料を載せたが、とくに勤役の関係史料は、別項目を立てた。

「系譜」では、藩祖系譜が多く、歴代系譜としては、寛政年間に幕府への家譜差出の際の作成に係るもの及びそれ以後のものが多い。とくに系図改については、津輕家と近衛家との関係を示す史料が主軸をなし、ことに「寛永一八年御系図御改之砌近衛龍山様より賜はりし御

状写」(三〇八〇)には「政信は近衛尚通公猶子たるに間違ひなし」と記して、その関係を説明している。

明治に入ってからには、国史編集のために、修史館より系図提出を命ぜられた時の書類も比較的よく揃っている。

「家督」では分家の相続も含め、また参勤の際に提出した仮養子願を重出した。詳細は「参勤」の項を参看されたい。

「官位」の項には、慶長五年初代為信が右京大夫に任ぜられた口宣案を初め、歴代藩主の口宣案・位記・宣旨と、官位昇進の際の諸手続並びに官物目録を配列した。なお本文中最も古い「永享六年源家光任右京亮口宣案」と「宝徳三年源家信任右京亮口宣案」とを藩祖にかかわるものとしてこの項の冒頭に掲げた。

「吉凶・仏事」の項のうち祝儀関係は、主として袖留・前髪執・婚礼等の公儀に対しての伺書などであって、その規式に関するものは、規式の項に譲った。婚姻の大部分は、田安家より入嫁した一〇代藩主信順の妻欽姫と、鑠姫に関するものである。また「疾病」の中に、藩侯のもの外、便宜上將軍の病氣平癒祈願をも含めてあることを断わっておく。

「規式」では禁裏・公儀に対するものと、藩主自身のものに区分し、「賞罰」には、一〇代信順が文政一〇年將軍家齊の位階昇進祝賀の際、猿輿を用いたため、逼塞を命ぜられた時の心得方並びに諸儀礼伺書を収めた。

「御内書」は、土産献上・年頭及び三季(暑中・寒中・歳暮)の答礼状であるが、とくに秀吉の朱印状(四通)・判物(二通)は、九戸討伐軍令状・巢鷹商売停止令・鷹宿継送令状等、内容的に興味深いものである。殊にそのうち一通の宛名が、津軽右京亮でなく、南部となつているのは、藩祖に関する疑問にもかかわる史料であろう。なお末尾に、鷹献上についての南部右京亮宛織田信雄の答礼状を付載した。

「御日記」の項のうち、「為信公御代日記」から「信寧公御代日記」までは、後年の編纂にかかるものであり、天明から文化度の在国。在府日記は九代寧親自筆の日記で、記載記事も身辺記事から藩政一般に及び、史料的价值は高い。

「屋敷」関係の史料は国元の屋敷に関するものは少なく、大方は江戸の藩邸のものである。「屋敷図」では、寛文期の屋敷図を始め、上・中・下屋敷の屋敷地と、その普請関係のものが多い。とくに文政一〇年戸越屋敷一件は「柳原中屋敷御用ニ付差上、代地として戸越屋敷を拝領」する過程を知りうる好史料である。なお、富田屋敷は足軽屋敷があった現弘前市内富田町であろうと思われるが、未だその所在は確認していない。

(3) 勤役関係史料

勤役中、津軽藩にとって最大の出勤は、蝦夷地の警固である。本州の最北端に位する当藩は、寛文九年の蝦夷蜂起以来、その鎮圧及び警備の任に当り、その関係史料約三百数十点は、本文書中でもとくにまとまっている史料の一つである。

寛政九年九月幕命によって箱館警備を命ぜられ、その後寛政十一年に一時免ぜられたが、文化元年八月には、再び南部藩とともに、永久東蝦夷地警備を命ぜられ、その功により翌年五月七万石に、さらに同五年には、永久西蝦夷地警備を命ぜられると同時に、一〇万石高直しとなった。この間の松前入用・勤番所御固人数・武器調・絵図など、警備に関するもののほか、寛政五年の露人來朝一件書類も含まれている。この項に収載の近藤重藏の蝦夷図・樺太図と、秦穂丸の「蝦夷島奇観」は珍本とされているものである。

順序は前後するが、このほか「勤役」の中では、「御手伝普請」の項に収めた安永四年の甲州川々川除御手伝普請勘定帳（八冊）は大部分のもので、使用材料の数量・価格に至るまで詳細に記入された好史料である。「御預人」は、元和七年會計上の不始末から切腹を命ぜられた美濃代官栗原加賀盛清の孫栗原泰芸盛次と、寛永一二年朝鮮との外交文書改竄の罪により津軽に流された、宗対馬守家老柳川豊前調興及び梶川左門等の、御預けより病死までの経緯に関する史料である。

(4) 法制関係史料

法制史料は、「幕法」と「藩法」及び「職制」に大別した。「幕法」には寛永三年以降の武家諸法度を初め、供奉条目・諸士法度等があるが、中でも御仕置定書・刑法大秘を含む刑法秘書などが比較的よく揃っている。

「藩法」としては、寛文四年より延宝三年に至る御定書・江戸御定書・同御留守中御定書は、内容的にも施政の具体的な処理規定を記したものが多く、藩政研究には欠くことの出来ない基本的史料と言えよう。

「職制」に関する史料は僅少で、旧藩職制と、各部署の勤用記を収載した。

前述のように、本項関係の基本史料の大部分は、弘前図書館所蔵文書に含まれているので、とくにこれによって補定していただきたい。

(5) 藩政関係史料

藩政の基本史料としては、みるべきものはあまり多くない。一方比較的藩史類は多く、なかでも、五代信寿の享保一六年に編纂された官撰史書「津軽一統志」(二〇巻)、内藤官八郎編「弘藩明治一統誌」(二七冊)と、外崎丈人編「弘前藩記録拾遺」「弘前藩史草稿」(四四冊)等注目されるものがある。

「巡見」の項に収めた史料は、幕府巡見ではなく、藩主及び諸役人の領内巡察、あるいは廻郷関係のもの若干にすぎない。

「南部一件」は九代寧親が、国元への帰途、南部の下斗米秀之進(相馬大作)・良助が、藩主寧親を狙撃しようと忍んでいることが発覚し、急に大間越に道を変えて帰藩し、事なきを得た周知の事件に関するものである。秀之進は召捕られて江戸で処刑されたが、ここに収めた史料は、主として事件発生後のもので、早道(隠密)による南部探索と、大作の召捕・吟味・処刑までの津軽家の動向を示す史料である。

「戊辰戦争」関係史料は比較的豊富で、弘前藩戊辰日記、奥羽同盟・諸藩との往復文書など興味深いものが多い。

「戸口」の項の領分人数改は、藩より大目付に報告した天保五―安政五年の控本であり、「藩校」は九代寧親の創設した稽古館に関する

ものである。

(6) 藩財政関係史料

貸借関係史料のほかに、あまり纏った史料はない。調達金関係の多くは、狩谷掖齊で有名な津輕屋三右衛門を初め、茨木屋・鳥羽屋・鴻池等の御用商人に対する頼状で、化政期の受払諸帳簿とともに、藩財政窮乏化の過程を示す史料である。

「新田開発」。津輕藩の新田開発は、すでに藩政初頭より積極的に着手され、正保二年幕府に提出した「津輕知行高之帳」（弘前市立図書館蔵）によると、表高四万五千石に対し五万七千石余の新田高がある。さらに郷村帳（二六三）の寛文四年御改以後（享保二年迄）の新田高は、一九万七、三〇七石となっている。本目録に収載した史料は、ほとんど文化・文政度のものであるが、これらは藩政中期以降の津輕平野開拓の一斑を明らかにするものである。すなわち、「田畑開発大都見込調」「開発場所大都調」を中心に、その開発方法と開発反別、さらにはその収納に至るまでの詳細を知ることができる。ちなみに文化六年郡奉行差出の「御郡在開発方調帳」によって、藩政中期の開発情況をみると、七ヶ年で約一、九八八町余、この仮高一四、六四九石余となっており、いかに新田開発が積極的に行なわれたかが窺われる。

(7) 軍事関係史料

この項では、戦法の具体的史料たる「軍役」「備立」を含む「軍事」、および「武学」とに大別した。

「武学」では津輕藩は四代藩主信政が、山鹿流兵法の奥秘である「大星伝」と、小野次郎右衛門に一刀流免許皆伝をゆるされたほど熱心であったことを反映し、山鹿流を始め、山本勘介流等の兵書・武術書類が多い。「兵法雄鑑」「武教全書」を始めとして、これらの兵書の講談を、信政自ら筆記し、覚書をしたためたものも、この項に配列した。

(8) 藩士関係史料

藩士に関するものには、特筆すべきものがない。わずかに藩主よりの知行分状・早道分限帳などがある。また明治に編纂した「津軽藩旧記伝類」(九冊)は、公族(津軽家の一門)とその夫人、藩士及び文学・兵学・武術・諸札・孝義・勸農・医道・歌道・芸道の練達者の列伝で、ことに藩士の系譜を知ることのできる唯一の貴重な史料であるので、この項の「系譜」に配列した。

(9) 寺社関係史料

享和三年の寺社領分限帳(七冊)は、藩領内の寺社の縁起・沿革・建築を知る上の好史料である。その他は慶長一四年以降の革秀寺領宛行状、妙見堂・津梁院の作事、百沢寺(岩木山)宛の願文など、直接藩主と関係の深い由緒ある寺社の史料である。

(10) 学芸関係史料

「学問」は四代藩主信政が山鹿素行の高弟として、古学・軍学を研究した結果とみられる山鹿素行の著述本を含む儒学関係の書籍が大宗をなし、吉川神道関係の史料も若干散見する。なお、「茶道」・「香道」・「歌道」ともに、この藩においては藩侯の嗜好を越えたものが多い。

(11) 遊芸関係史料

徳川時代を通じて津軽は、鷹の飼育地として名高い。本項配列のものには、養鷹に関する貴重な史料があり、また熊狩の史料も北国ならではの興味深いものである。

(12) 絵 図

本目録においては、絵図類も内容分類をし、それぞれの関係項目に編入した。例えば領内図は「領知」に、屋敷図は「藩侯」の屋敷の項、新田開発はその項に区分して収録した。ここでは著名な文化の伊能忠敬の日本図(沿海実測図)と、それぞれの項に分類し得ないもの、及び他領の地図を纏めて記載した。

昭和四十一年三月三十一日 印刷
昭和四十一年三月三十一日 発行

編集者 東京都品川区豊町一丁目十六番の十号
発行者 史料館

印刷者 東京都江戸川区西小岩三の六番の三号
依田東文堂